

八尾市文化財調査報告14
昭和61年度国庫補助事業

八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書 I

—恩智遺跡の調査—

1987 . 3

八尾市教育委員会

はしがき

昭和61年度に実施した文化財室の発掘調査は、範囲確認調査、立会調査も含めて、約150件になりました。文化財保護法57条の2による届出件数は、引き続き500件を数えました。

そのうち大規模な発掘調査は、㈱八尾市文化財調査研究会に指示し、調査を行いましたが、小規模な発掘調査や立会調査は、八尾市教育委員会文化財室が担当しました。

また、生駒山地西側の恩智遺跡での範囲確認調査では、鹿の下顎に歯が付着したものや猪の骨、土器類が出土し、縄文時代晚期にあたる2500年前の先人の遺物が多数出土しました。

この報告書は、この1年間に取扱った発掘調査の概要ですが、先にその例を紹介しましたように、貴重な文化遺産の資料収集ができ、後世に伝える成果のあった年だと自負しております。

本市は市域の6割が、埋蔵文化財包蔵地となっておりますが、それらの地域での調査には、多くの市民の方々や関係者のご協力がありました。この報告書を作成するにあたり、改めて厚くお礼を申しあげるものです。

八尾市教育委員会

教育長 西崎 宏

例　　言

1. 本書は、八尾市教育委員会が昭和61年度国庫補助事業として実施した恩智遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は八尾市教育委員会文化財室嶋村友子を担当者として昭和61年7月21日に着手し、昭和61年9月15日に終了した。
3. 本調査に際し、石田敬司・岩見貴美子・大崎雪子・岡田清一・桂和美・杉本賀津子・杉本尚子・高橋康史・土田雅巳・都築恵子・堤真也・富田芳久・鳥井一志・中野龍介・中村哲士・林賢吾・藤田徹・藤田義成・益本浩・森本啓二朗・八元聰志・吉永勉・大阪府教育委員会・財団法人八尾市文化財調査研究会・早稲田大学所沢文化財調査室の参加、協力を得た。
4. 土器の実測・トレースは嶋村友子・杉本尚子、石器の実測は川本素行（早稲田大学所沢文化財調査室）・加藤勝仁・加瀬達人・中沢道彦・野崎哲令・田村充・小山英樹・小林千浪・関木淳子・長谷川祐紀（以上早稲田大学学生）、石器のトレースは川本素行が行った。
5. 本書の執筆は第1章、第2章、第3章(1)(2)1.3.、第4章を嶋村友子、第3章(2)2を川本素行が行った。また、石材の鑑定・土器の胎土分析を八尾市立刑部小学校奥田尚氏に、獸骨の鑑定を奈良国立文化財研究所松井章氏に依頼し、玉稿を寄せていただいた。編集は嶋村友子が行った。
6. 本調査にあたっては以下の諸氏の御教示を得た。記して感謝の意を表する。（敬称略）
佐川正敏・玉田芳英（奈良国立文化財研究所）、粉川昭平（大阪市立大学理学部）、堀田啓一（大阪府立泉尾高校）、大野薫・佐久間貴士・福田英人・渡辺昌宏（大阪府教育委員会）、福岡澄男・山口誠治（財団法人 大阪文化財センター）、家根祥多（京都大学）、工藤利幸（財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）、安井良三（仮称八尾市立歴史民俗資料館建設準備室）
7. 出土遺物並びに記録図面は一括して八尾市教育委員会文化財室に保管してある。

凡 例

1. 遺物実測図の表示は以下のとおりである。

器表の赤彩 — □

2. 遺物には土器、石器の別に通し番号をつけ、挿図・図版の番号を一致させた。
3. 遺物観察表における遺物の色調は小山正忠・竹林秀雄「新版標準土色帳」(1976)に従って記述した。また、砂粒の大きさは0.5mm未満を小、0.5mm以上2mm未満を中、2mm以上を大として記述した。
4. 本書で用いた方位は座標北を指す。
5. 本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海面である。

本文目次

はしがき

例 言

凡 例

第1章 はじめ	1
第2章 層 序	3
第3章 遺構・遺物	8
(1) 遺 構	8
(2) 遺 物	14
1. 土 器	14
2. 石 器	99
3. 植物遺存体	114
4. 動物遺存体	奈良国立文化財研究所 松 井 章 115
第4章 ま と め	117
第5章 土器胎土の砂礫観察	八尾市立刑部小学校 奥 田 尚 119

挿図目次

第1図 調査区設定図	1
第2図 周辺の遺跡分布図	2
第3図 第6層小調査区設定図	3
第4図 調査地周辺図	5~6
第5図 土層断面図	7
第6図 第7・8層上面検出遺構全体図	9
第7図 第6層出土器集積	9
第8図 土器集積(SW)1 平面図	11~12
第9図 第4層上面検出遺構全体図	13
第10図 第3層上面検出遺構全体図	13
第11図 落ち込み(SO)1出土土器(1)	17
第12図 落ち込み(SO)1出土土器(2)	18
第13図 土器集積(SW)1出土土器(1)	19
第14図 土器集積(SW)1出土土器(2)	20
第15図 土器集積(SW)1出土土器(3)	21
第16図 土器集積(SW)1出土土器(4)	22
第17図 土器集積(SW)1出土土器(5)	23
第18図 土器集積(SW)1出土土器(6)	24
第19図 土器集積(SW)1出土土器(7)	25
第20図 土器集積(SW)1出土土器(8)	26
第21図 土器集積(SW)1出土土器(9)	27
第22図 土器集積(SW)1出土土器(10)	28
第23図 土器集積(SW)1出土土器(11)	29
第24図 土器集積(SW)1出土土器(12)	30
第25図 土器集積(SW)1出土土器(13)	31
第26図 土器集積(SW)1出土土器(14)	32
第27図 土器集積(SW)1出土土器(15)	33
第28図 土器集積(SW)1出土土器(16)	34
第29図 土器集積(SW)1出土土器(17)	35

第30図	土器集積（S W）1出土土器⑧	36
第31図	土器集積（S W）1出土土器⑨	37
第32図	第5層出土土器(1)	40
第33図	第5層出土土器(2)	41
第34図	第5層出土土器(3)	43
第35図	第4層出土土器(1)	44
第36図	第4層出土土器(2)	45
第37図	第4層出土土器(3)	46
第38図	第4層出土土器(4)	47
第39図	小穴（S P）7出土土器	47
第40図	第2層出土土器(1)	48
第41図	第2層出土土器(2)	49
第42図	落ち込み（S O）1出土石器	99
第43図	土器集積（S W）1出土石器(1)	100
第44図	土器集積（S W）1出土石器(2)	101
第45図	土器集積（S W）1出土石器(3)	102
第46図	土器集積（S W）1出土石器(4)	103
第47図	土器集積（S W）1出土石器(5)	104
第48図	第5層出土石器(1)	106
第49図	第5層出土石器(2)	107
第50図	第5層出土石器(3)	108
第51図	第5層出土石器(4)	109
第52図	第4層出土石器(1)	110
第53図	第4層出土石器(2)	111
第54図	第4層出土石器(3)	112
第55図	第4層出土石器(4)	113
第56図	小穴（S P）7出土石器	113
第57図	第2層出土石器	114

表 目 次

第1表 既応の調査一覧表	4
第2表 出土土器觀察表	52
第3表 動物遺存体一覧表	116
第4表 土器胎土の砂礫種構成表	123

第1章 はじめに

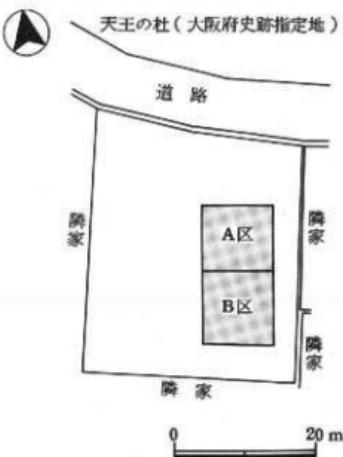
恩智遺跡は生駒山地の扇状地に位置し、八尾市の東南部恩智中町を中心に広がる遺跡である。この付近には古いたたずまいを残す民家が密集しており、古くから集落が形成されたことがうかがわれる。東高野街道を西側に見おろす高台には中世に恩智の豪族恩智左近満一によって恩智城が築かれ、現在でも二の丸に当たると言われるところが残っている。また、地元の方のお話では現在見られる恩智の集落のなかでも東側の東高野街道沿いが最も古く、大正時代末に近鉄恩智駅が旧集落の西方に作られてから、「天王の社」付近まで集落が広がったとのことである。

生駒山地は南北に連なる山地であるが、その西麓の恩智付近には背後に大きな谷が存在している。そのため、その西方には大きな扇状地が形成されており、この付近の等高線は大きく西側にはりだしている。おそらく、このような安定した地形環境が居住に適し、古くから集落形成の行われた要因の一つとなったのであろう。

恩智遺跡は大正時代に行われた梅原末治、島田貞彦両氏による発掘調査（註1）以降、過去数回の発掘調査が実施されており（第1表）、古くから弥生時代を中心とする大遺跡であることが知られている。これらの成果をもとに昭和初期には恩智神社の御旅所である「天王の社」に「恩智石器時代遺跡」の碑が建てられ、昭和18年にはこの「天王の社」は大阪府の史跡として指定された。なお、戦後まもなく井戸掘削中に縄文土器が人骨とともに出土したことが今里幾次氏によって報告されており（註2）、恩智遺跡は縄文時代から始まる遺跡であることも知られていた。

このように恩智遺跡は遺跡としての存在は古くから知られており、「天王の社」の西方では恩智川改修事業に伴う発掘調査をはじめ大規模な発掘調査が数回行われてきた。しかし、「天王の社」付近での調査はいずれも工事立会程度のものにとどまっているため、この付近での遺跡の詳細な状況は不明であった。そのため、「天王の社」付近での遺跡の広がり・遺物包含層の深さ等の確認を目的に地主の承諾を得て今回の調査を実施した。

調査は調査地内の東部に5m×10mのトレンチを



第1図 調査区設定図



第2図 周辺の遺跡分布図

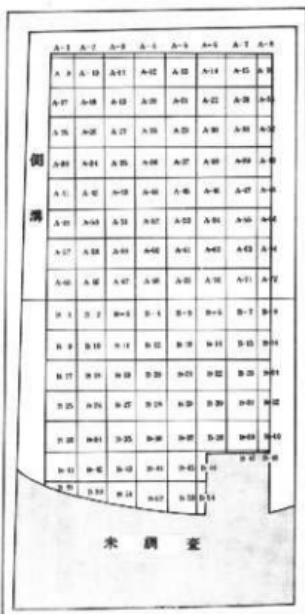
任意に設定して行った。調査地は調査以前に木造店舗付住宅が建築されており、かなり深くまで擾乱されていた。そのため、八尾市水道局等の協力を得て盛土・擾乱層を機械掘削し、それ以下を人力掘削した。

調査区の設定においてはトレンチを南北2区に分け、北側をA区、南側をB区と呼称した（第1図）。また、第6層上部で検出された土器集積の実測・取り上げにおいては50cm×50cmの小調査区を設定して（第3図）、調査を行った。

なお、発掘調査中、財團法人大阪文化財センター山口誠治氏の指導を得て、調査区西壁の最北端部の土層断面の剥ぎ取りを実施した。

註

- 梅原末治・島田貞彦「河内国府石器時代遺跡発掘報告書」『京都大学文学部考古学研究報告』第2冊（1923）
- 今里幾治「河内恩智の縄文土器」『日本考古学』1-3（1948）



第3図 第6層小調査区設定図

第2章 層序

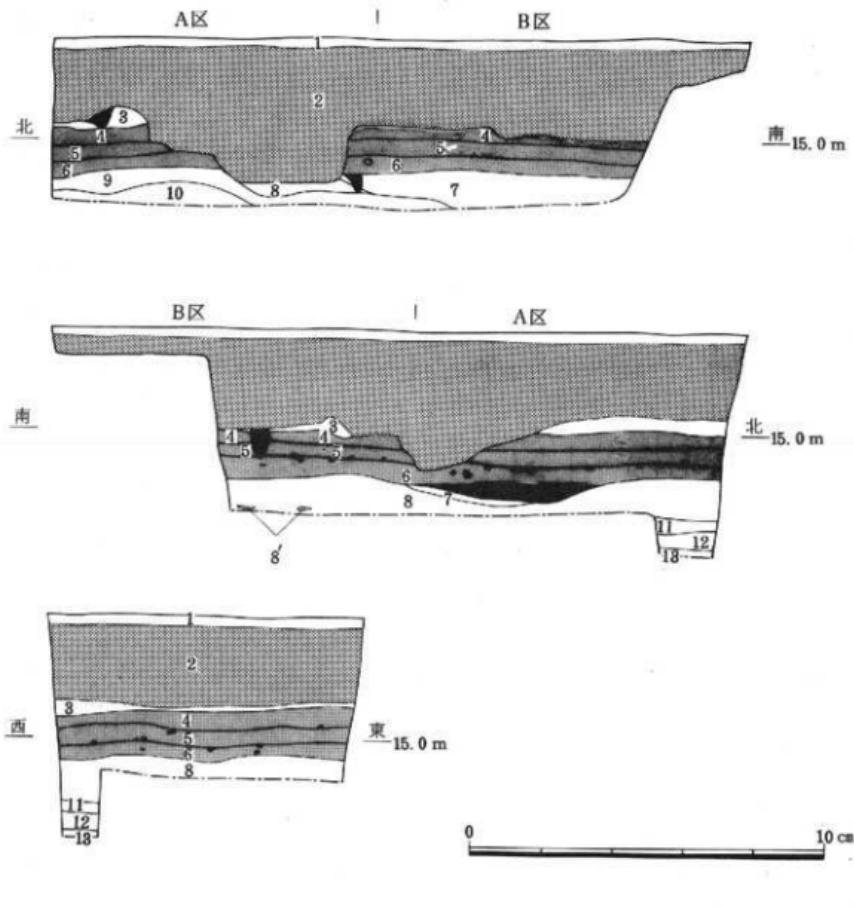
調査区の層位は第5図に示すとおりである。第2層は調査開始以前に既存していた木造店舗付住宅の建築による擾乱層である。第3層～第7層の一部を削平しており、弥生土器・縄文土器をまばらに含んでいた。第3層は黄色粗砂で、遺物を含まない層である。砂の粒子は均等ではないことから、山砂の堆積であると思われる。おそらく、山の土砂崩れによって、一気に堆積したものであろう。なお、この層の上部は第2層によって削平されていたが、第3層上面では縄文時代・弥生時代の遺構の一部が残存していた。第3層上面で検出された小穴（S P）1から縄文時代晚期（詳細な時期は不明）の土器が出土し、第4層～第6層は縄文時代晚期

第1表 恵応の調査一覧表

番号	調査地	調査主体	調査期間	調査原因	主な発掘・出土遺物	文獻
1	恵智中町3丁目	京都大学 梅原未治・島田貞彦	大正6(1917)年7月	弥生土器・石器出土	梅原未治・島田貞彦「河内国丹波郡石器時代遺跡発掘報告書」『京都大学文学部考古学研究報告』第2冊(1922)	
2	恵智中町3丁目 (宇茶の木)	鳥居龍藏	大正6(1917)年8月	弥生土器・石器出土	鳥居龍藏・岩井豊成「石器時代遺跡調査(15)」大阪毎日新聞大正6年8月12日付(1917)	
3	安養寺裏山(通称垣内山)		大正7(1918)年	耕作中出土	流水式陶鑄(外付付鉢式)出土	梅原未治「陶鑄の研究」(1926)
4	恵智中町3丁目	藤岡謙二郎	昭和14(1939)年	史前遺跡調査事業	弥生土器・石器出土	藤間謙二郎「中河内郡高安村恵智生天御道跡」『大阪府史跡名勝天然記念物調査報告』第12冊(1941)
5	「天王の社」北方 (詳細は不明)		昭和16(1941)年	耕作中出土	人骨・縄文土器出土	今里幾次「河内惠智の出土土器」『日本考古学』1-3(1948)
6	安養寺裏山(通称都塚山)		昭和24(1949)年	耕作中出土	袈裟形文鏡(留平鉢式)出土	梅原未治「陶鑄の研究」(1926)
7	恵智中町3丁目 (天王の社)内東南部	八尾市教育委員会	昭和49(1974)年12月	八尾市消防署防災用貯水槽設置	陶文土器(施期)・弥生土器(前期～後期)・瓦	山本昭・原本知秀・福岡俊男「八尾市黒崎路の出土遺物について」『大阪文化誌』第2巻1号(1976)
8	恵智北町～恵智中町	瓜生堂遺跡調査会	昭和50(1975)年	恵智川改修工事	弥生時代(前期～後期) 然河溝、古墳時代(前期)の井戸・溝検出	瓜生堂遺跡調査会「恵智遺跡I・II」 (1980)・「恵智遺跡III」(1981)
9	恵智中町3-240・245	八尾市教育委員会	昭和51～53(1976～1978)年	マンショングループ建築	弥生時代の遺構・遺物多 数検出	
10	恵智中町2-94	八尾市教育委員会	昭和54(1979)年	天理教教会増築	弥生時代の遺構・遺物多 数検出	
11	恵智中町2-265	八尾市教育委員会	昭和58(1983)年2月	個人住宅建築	弥生時代(前期)の土塹 検出	八尾市教育委員会「八尾市内遺跡紹介と57 年年度発掘調査報告書」(1983)
12	恵智中町3-214	八尾市教育委員会	昭和59(1984)年6月	個人住宅建築	弥生時代の遺構検出	八尾市教育委員会「八尾市内遺跡紹介と58 年年度発掘調査報告書」(1985)
13	恵智中町1-77-2	八尾市教育委員会	昭和59(1984)年6月	銀行建築	弥生時代(中期)の遺構 検出	八尾市教育委員会「八尾市内遺跡紹介と59 年年度発掘調査報告書」(1985)
14	恵智中町1-51	鶴八尾市文化財調査 研究会	昭和60(1985)年6月	マンショングループ建築	古墳時代(前期～中期) の土塹・溝検出	鶴八尾市文化財調査研究会「昭和60年度 事業概要報告」(1986)



第4図 調査地周辺図



- | | |
|---------------|---------------|
| 1 黄色細砂混粘土(盛土) | 8 黄茶色粘土混じり細砂 |
| 2 撹乱 | 9 黄茶色粘土 |
| 3 黄色粗砂 | 10 暗茶色粘土混じり細砂 |
| 4 黑茶色シルト | 11 黄色粘土 |
| 5 黑茶色粘土混じりシルト | 12 暗茶色粘土混じり細砂 |
| 6 黑茶色シルト | 13 黄色粘土 |
| 7 黄茶色粘土 | |

凡例
撹乱
遺物包含層
遺構

第5図 土層断面図

(滋賀里Ⅲ式～長原式)の遺物を包含していることから、第3層の堆積の時期は長原式の範囲であると考えられる。また、第4層上面、第7層上面でも遺構が検出された。第7層上面で検出された遺構は第6層と同様滋賀里Ⅲ式の土器を含む。第7層・第8層は少量の炭化物を含む層で、遺物は出土しなかった。なお、第7層以下は調査区の周囲を部分的に掘削した側溝で部分的に調査しただけであり、特に、第11層～第13層は土層断面の剥ぎ取りのため部分的に掘り下げた調査区の北西隅の部分でその堆積を確認しただけである。そのため、今回の調査では第7層以下においては遺物を確認できなかったが、その有無は確定できない。また、層序の比較・検討をおこなった結果、第3層は本調査区の西方約200mの地点で行った恩智川改修事業に伴う発掘調査(註1)において確認された第4層～第7層に対応するものと考えられるところから、本調査区で確認された第12層は恩智川調査区の第12層に対応するものと思われる。これらのことから、本調査区で掘削した第12層の0.08m²中には遺物は含まれていなかったが、本調査区の第12層は縄文時代後期の遺物包含層の可能性が高いものと考えられる。

註

1. 瓜生堂遺跡調査会「恩智遺跡I・II」(1980)

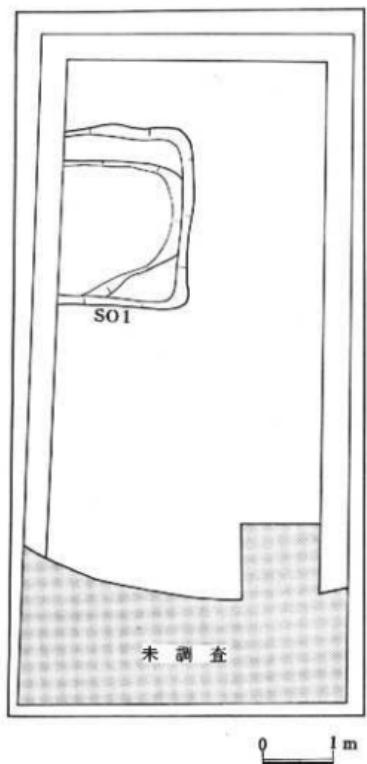
第3章 遺構・遺物

今回の調査では第7・8層上面で縄文時代晩期の落ち込み1基(SO1)、第6層で土器集積(SW1)、第4層上面で小穴5個(SP18～SP22)、第3層上面で縄文時代・弥生時代の小穴17個(SP1～SP17)が検出された。また、第4層～第6層から多量の縄文時代の土器(コンテナ30箱)・石器(コンテナ2箱)・植物遺存体(3個体)・動物遺存体(コンテナ5箱)が出土した。また、第2層は弥生時代の遺物包含層と縄文時代の遺物包含層の擾乱層で、縄文土器・弥生土器が少量出土した。

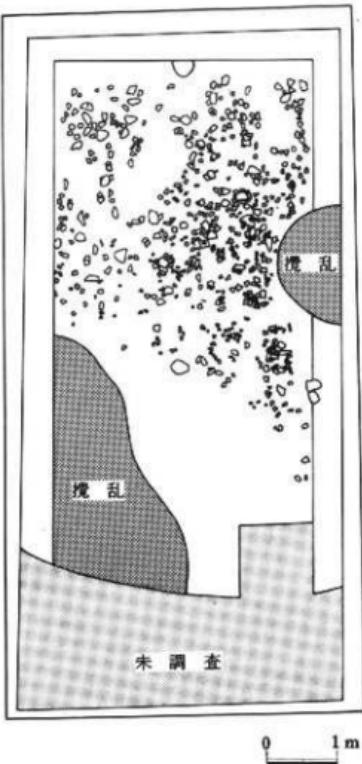
(1) 遺構

1. 第7・8層上面の調査

落ち込み(SO1) A区西部で検出された。遺構の西部は調査区外に及ぶため全体は不明である。平面形はほぼ方形を呈すると思われ、南北2.6m、東西2.2m以上を測る。断面形は皿状を呈し、深さ0.2mを測る。埋土は黒茶色粘土混じりシルトで、縄文土器・



第6図 第7・8層上面検出遺構全体図



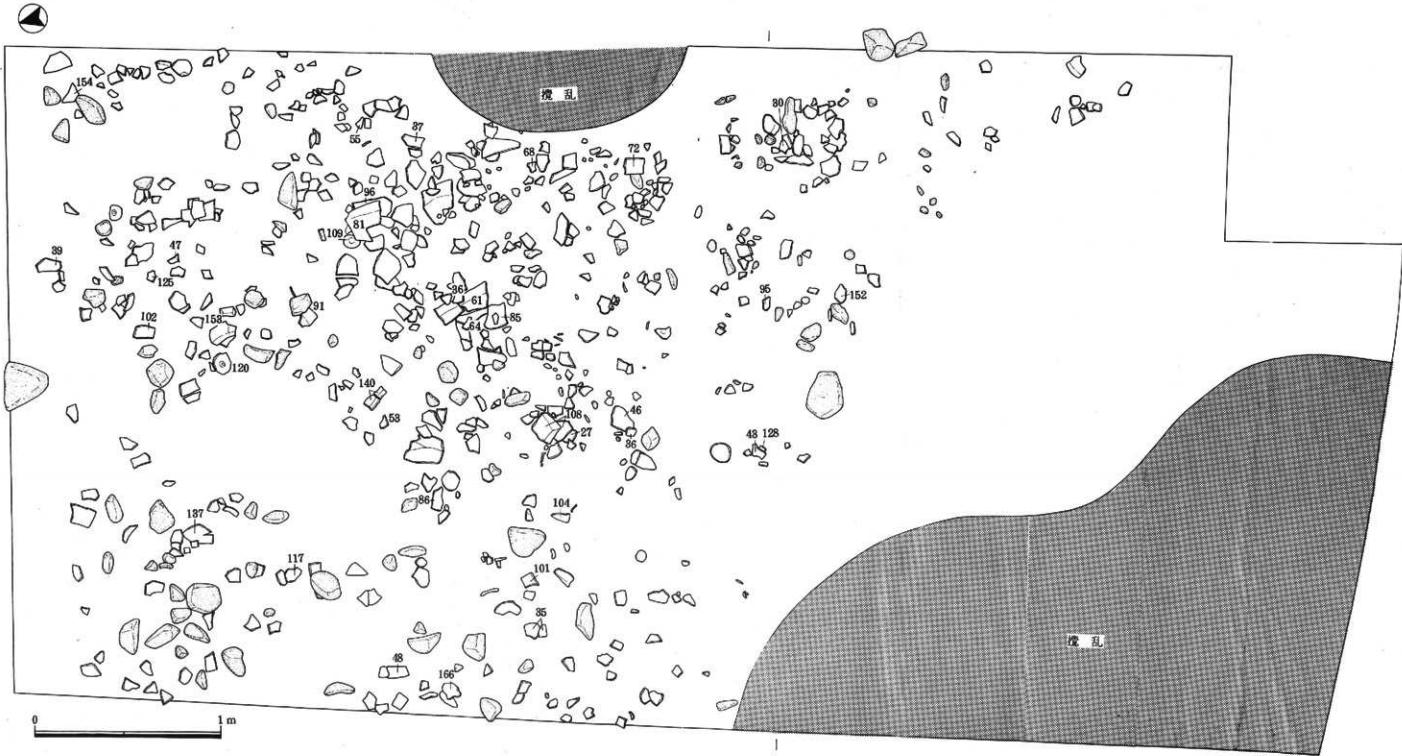
第7図 第6層検出土器集積

石器・動物遺存体が出土した。

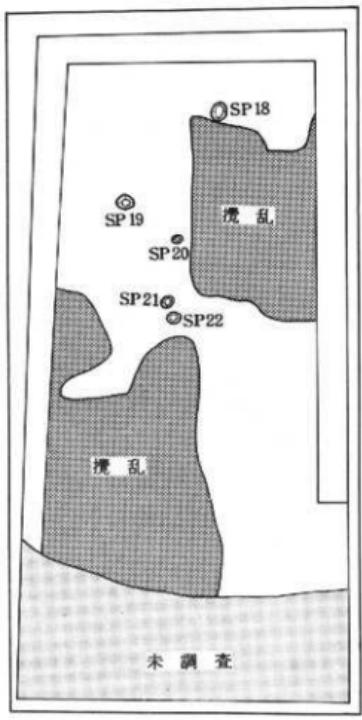
2. 第6層の調査

土器集積 (SW) 1 A区、B区北部で検出さた。この集積はA区では調査区外に及び、一部擾乱を受けているため全体は不明である。土器の集積は特に第6層上部に顕著である。土器はいずれも、小破片であり、完形品は見られない。第6層上部から出土した土器片と第6層下部のものとが数点接合したことから、土器はかなり短時間のうちに集積したものと思われる。日常の容器である深鉢・浅鉢の他にミニチュア土器の破片や土製品が出土した。また、土器に混じって自然石（主に花こう岩）・石器・植物遺存体・動物遺存体がみ

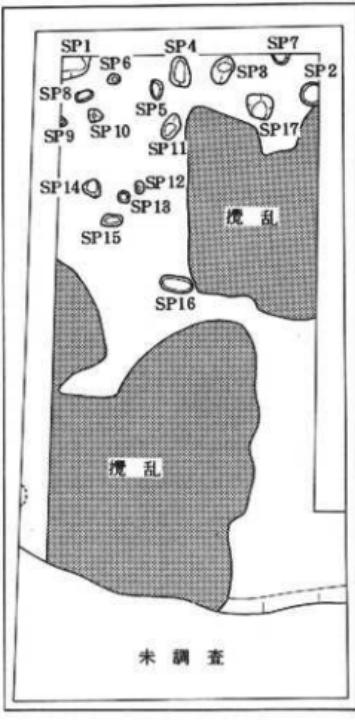




第8図 土器集積(SW) 1 平面図



第9図 第4層上面検出遺構全体図



第10図 第3層上面検出遺構全体図

られた。土器はいずれも小破片の状態で出土しており、煤の付着したものが多いことから、使用後の廃棄物であると思われる。また、祭祀具であると思われるミニチュア土器、石棒が出土していることから、廃棄に伴う祭祀が行われたものと思われる。

3. 第5層の調査

遺構はみられなかった。縄文土器・石器・動物遺存体が少量出土した。

4. 第4層の調査

遺構はみられなかった。縄文土器・石器・動物遺存体が少量出土した。

5. 第4層上面の調査

小穴（S P）18~22 いずれもA区で検出された。径15~25cm、深さ10cm前後を測る。S P 18の埋土は黄灰色粗砂で、S P 19~S P 21の埋土は暗茶灰色細砂混じり粘土である。S P 21から少量の縄文時代晚期の土器片が出土した。

6. 第3層上面の調査

小穴（S P）1 A区北西隅で検出された。一部は削溝に切られているため不明である。平面形は方形を呈すると思われ、一辺0.3mを測る。断面形は台形を呈し、深さ0.3mを測る。埋土は黒色シルト混り粘土で、埋土から縄文時代晚期の深鉢片の他少量の土器片が出土した。

小穴（S P）2~6 いずれもA区で検出された。いずれも平面形はほぼ円形を呈し、径0.2~0.4m、深さ0.05~0.3mを測る。いずれも埋土は黒色シルト混り粘土で、少量の弥生時代中期の土器片が出土した。

小穴（S P）7 A区北東で検出された。平面形はほぼ円形を呈し、径0.3mを測る。断面形は台形を呈し、深さ0.2mを測る。埋土は黒色シルト混り粘土で、弥生時代中期の壺が口縁部を下にして出土した。

小穴（S P）8~17 いずれもA区で検出された。平面形はほぼ円形を呈し 径0.1~0.4mを測る。S P 8・11・15・16・17からは少量の弥生時代中期の土器片が出土した。

(2) 遺 物

1. 土器

縄文時代中期、後期、晚期の土器がみられる。土器の大半は縄文晚期中葉のものである。これらの土器のうち所在地のものと思われるものについては以下のように分類をおこなった。

深鉢Ⅰ類

口縁部外面に突帯を施さないもの。

【A】外面に主として二枚貝条痕を施すもの。

【B】外面に主としてケズリを施すもの。

(1) 波状口縁のもの。

(a) 口縁部に二枚貝条痕を施すもの。

(b) 口縁部にケズリを施すもの。

(c) 口縁部にナデを施すもの。

(2) 平口縁で、頸部が屈曲し、口縁部が外反するもの。

(a) 口縁部に二枚貝条痕を施すもの。

(b) 口縁部にケズリを施すもの。

- (c) 口縁部にナデを施すもの。
- (3) 平口縁で、頸部が屈曲し、口縁部がたちあがるもの。
 - (a) 口縁部に二枚貝条痕を施すもの。
 - (b) 口縁部にケズリを施すもの。
 - (c) 口縁部にナデを施すもの。
- (4) 頸部が屈曲せず、まっすぐにのびるもの。
 - (a) 口縁部に二枚貝条痕を施すもの。
 - (b) 口縁部にケズリを施すもの。
 - (c) 口縁部にナデを施すもの。

【C】外面にヘラミガキを施すもの。

深鉢II類

口縁部下に突帯を施すもの。

【A】頸部が屈曲するもの。

- (1) 突帯にキザミメを施すもの。
- (2) 突帯にキザミメを施さないもの。

【B】頸部が屈曲せず、まっすぐのびるもの。

- (1) 突帯にキザミメを施すもの。
- (2) 突帯にキザミメを施さないもの。

深鉢III類

口縁部下と肩部に突帯を施すもの。

深鉢IV類

口唇部に接して突帯を施すもの。

深鉢底部

【A】上げ底を呈するもの。

【B】突出する小さな平底のもの。

【C】丸底のもの。

【D】突出しない平底のもの。

浅鉢I類

七宝文を施すもの。

浅鉢II類

口縁部下に突帯を施さないもの。

【A】口縁部が短く外反し、体部が強く張り出すもの。

【B】頸部が屈曲し、口縁部が長くのびるもの。

(1) 口縁部が短く終わるもの。

(2) 口縁部が長くのびるもの。

(a) 口縁部内面が肥厚するもの。

(b) 口縁部内面に沈線を施すもの。

(c) 口縁部が丸くおわるもの。

【C】頸部が屈曲せず、口縁部が内わんするもの。

(1) 口縁部をつまみあげるもの。

(2) 口縁部内面が肥厚するもの。

(3) 口縁部内面に沈線を施すもの。

(4) 口縁部が丸くおわるもの。

【D】体部から口縁部がまっすぐのびるもの。

【E】船形を呈するもの。

浅鉢Ⅲ類

口縁部下に突帯を施すもの。

口縁部・底部破片は1540点を数えるが、在地のものと思われるもののなかでは圧倒的に深鉢の占める割合が大きい。なお、深鉢のなかでも外面にヘラミガキを施すもの（深鉢Ⅰ類C）がみられる。このなかには外面に赤彩の施されているものもみられるが、煤が付着しているものも多いことから、その機能は粗製土器と同様であると思われる。また、キザミメの分類は家根祥多氏と同様にD字、O字、小さなD字、小さなO字、V字の5つに分類した（註1）。以下、図化した土器について出土位置ごとに説明を加える。

(a) 落ち込み（S O）1出土土器

明らかに在地の胎土をもち、繩文の施された器種不明の破片（1・2）、繩文時代晩期前半のものと思われる口縁部片（3・4）の他に晩期後半の滋賀里Ⅲ式の土器がコンテナ一箱出土した。

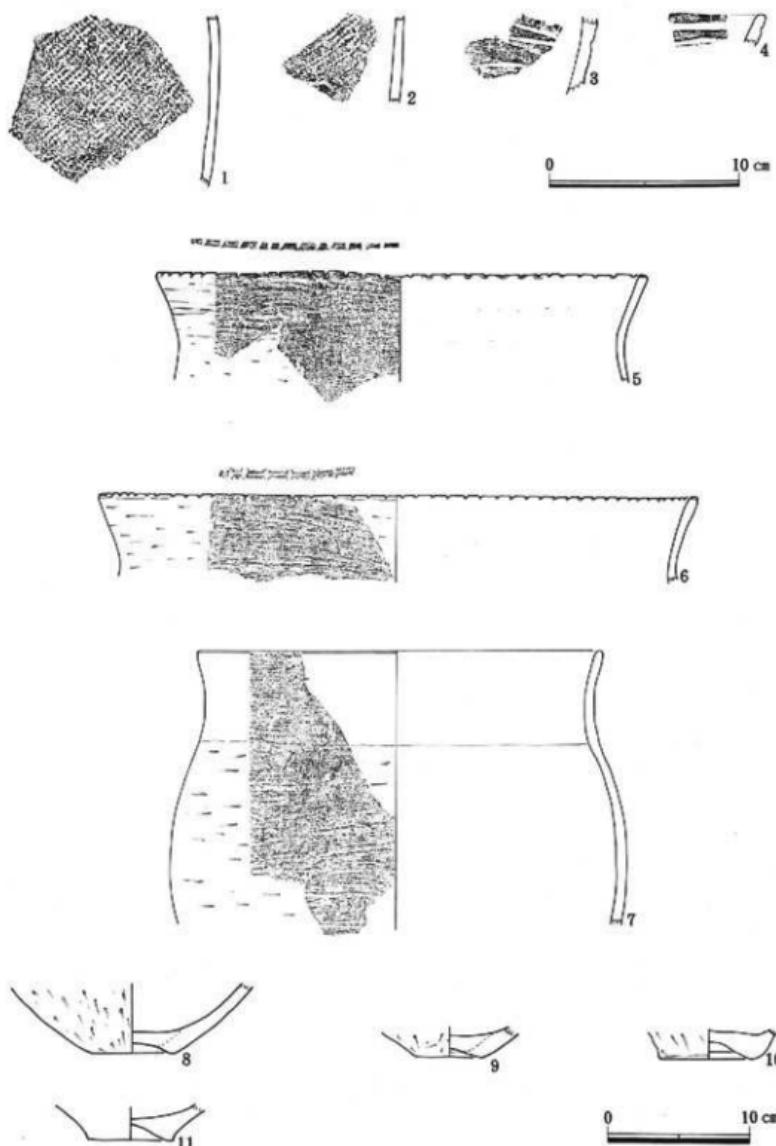
深鉢Ⅰ類

B-2 a (5・12・13・14) 5・12は口唇部にキザミメ（D字）が施される。

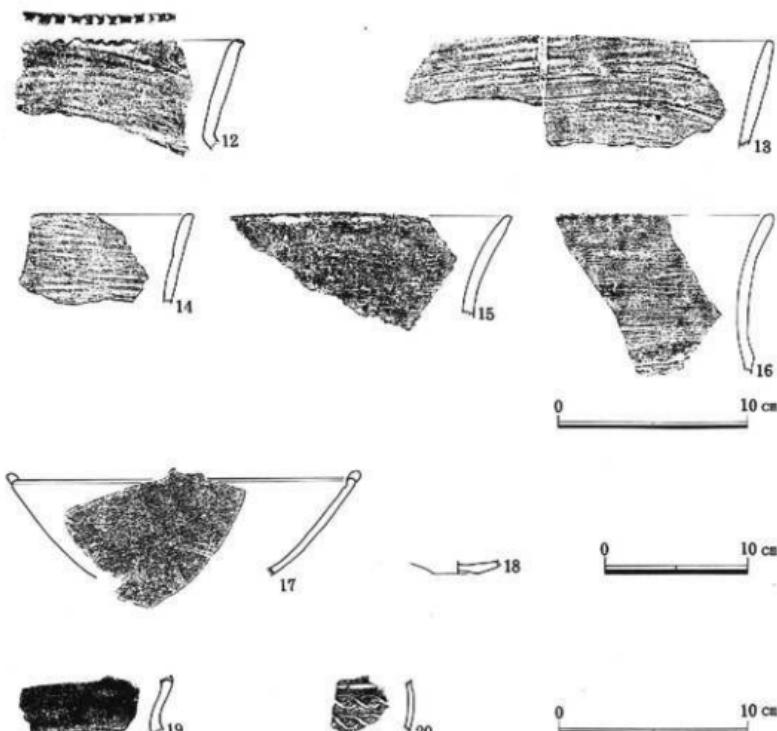
B-2 b (6・15) 6は口唇部にキザミメ（V字）が施される。

B-2 c (16) キザミメは施されない。

B-3 c (7) 体部上半に最大径をもつ。キザミメは施されない。



第11図 落ち込み（S.O.）1出土土器(1)



第12図 落ち込み（SO）1出土土器(2)

深鉢底部

A（8～11） いずれも体部外面にケズリが施されたものであろう。11の体部は底部付近であることから、ナデが施されているが、体部の大部分はケズリが施されたものと思われる。

浅鉢II類

C-3（17） 口唇部には突起が施される。

他地域の土器・他地域の影響を受けた土器（20） 結節縄文が施される。

(b) 土器集積（SW）1出土土器

縄文時代中期末の深鉢の口縁部破片（21）、沈線を施した時期不明の土器破片（22）の他に晩期中葉の滋賀里Ⅲ式の土器がコンテナ19箱出土した。

深鉢I類

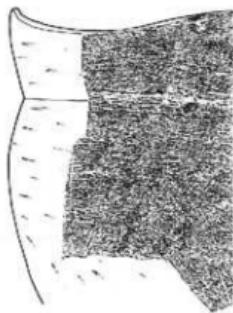


21

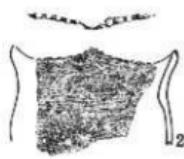


22

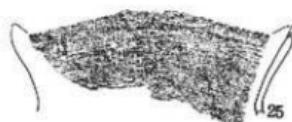
0 10 cm



23

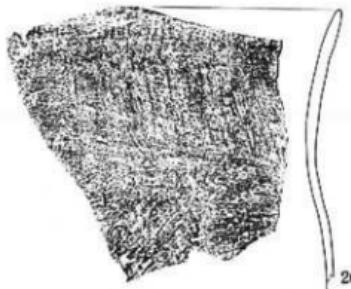


24

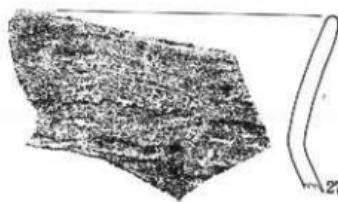


25

0 10 cm

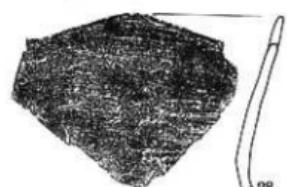


26



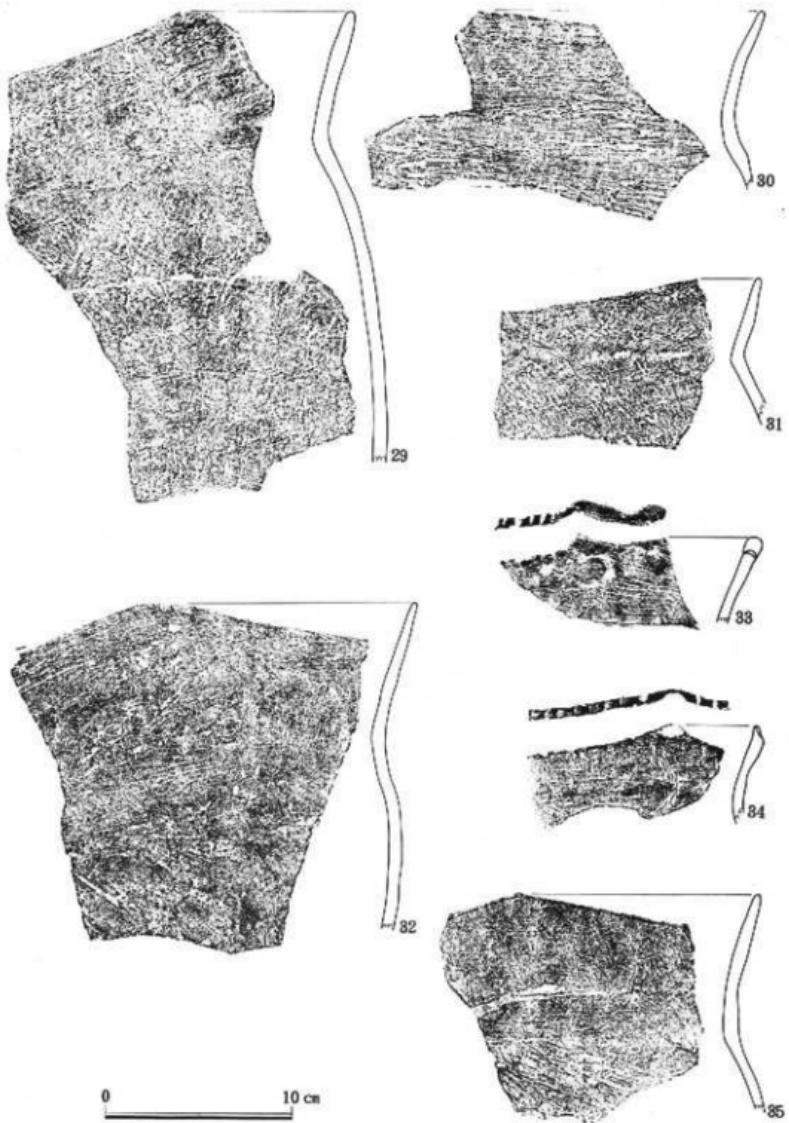
27

0 10 cm

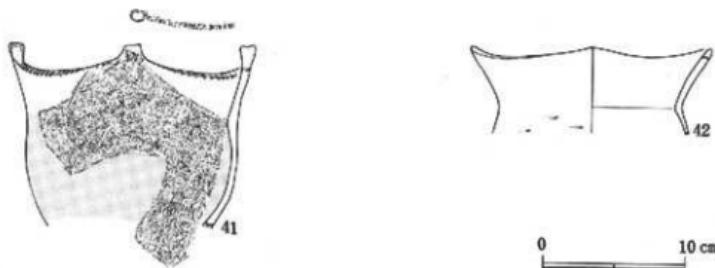
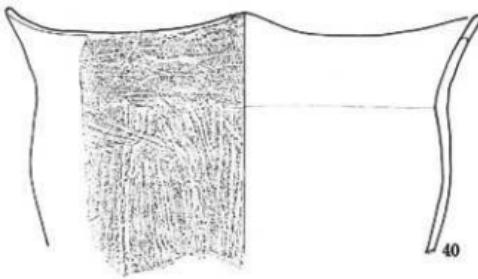
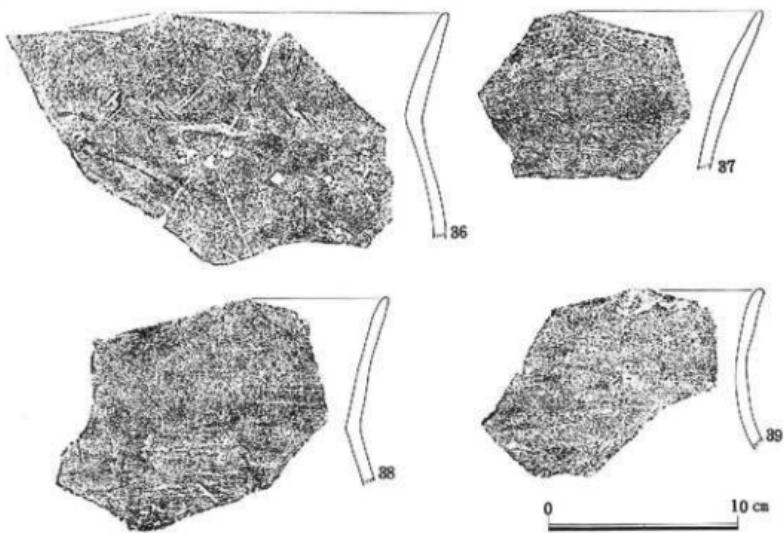


28

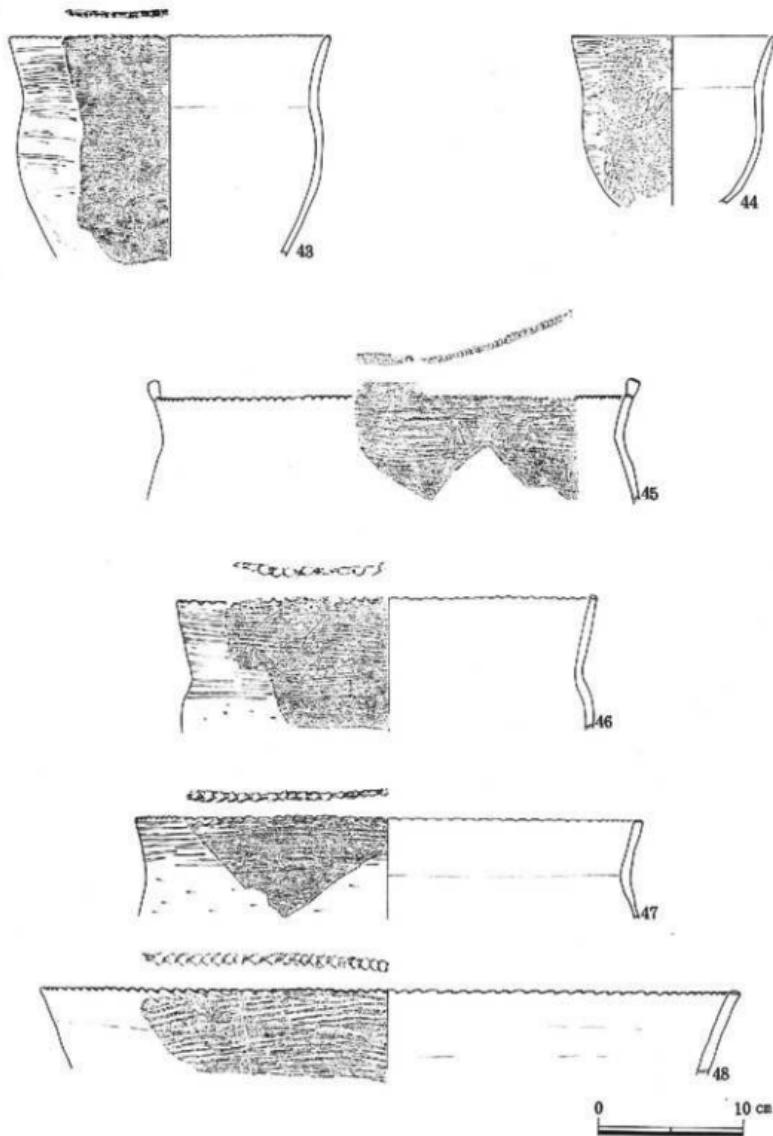
第13図 土器集積（SW）1出土土器(1)



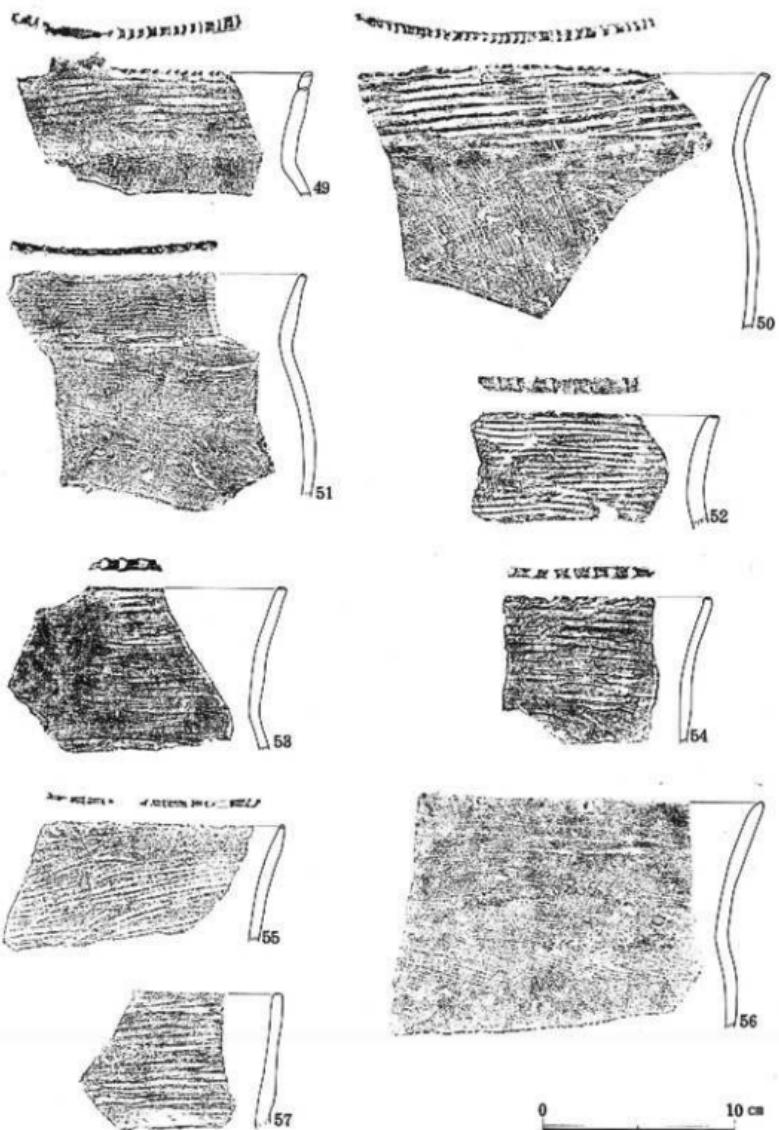
第14図 土器集積（SW）1 出土土器(2)



第15図 土器集積（SW）1出土土器(3)



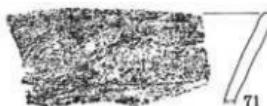
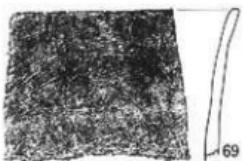
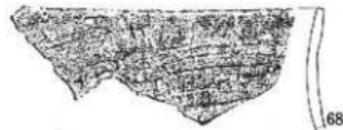
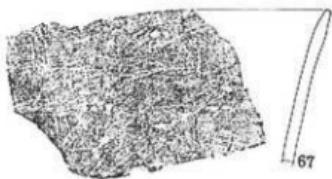
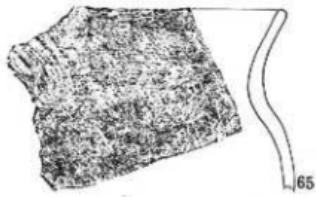
第16図 土器集積（S.W.）1出土土器(4)



第17図 土器集積(SW) 1出土土器(5)



第18図 土器集積（SW）1出土土器(6)

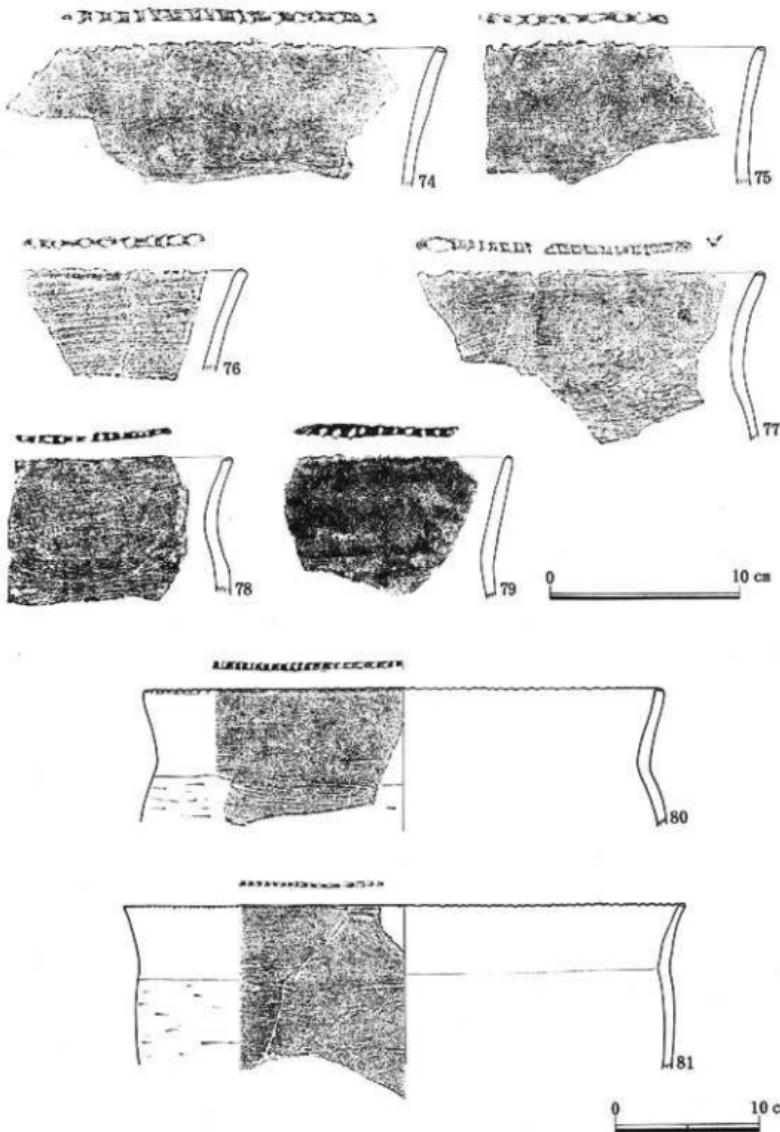


0 10 cm

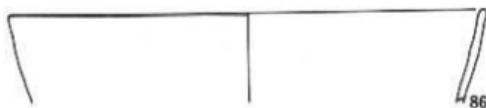
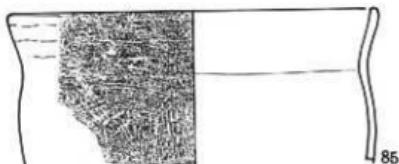
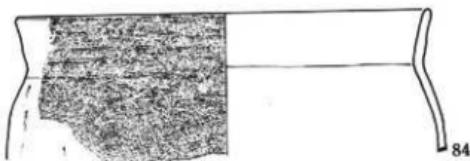
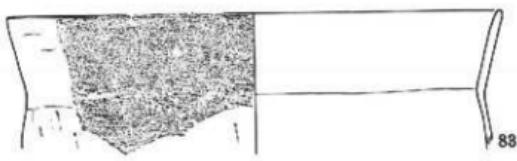
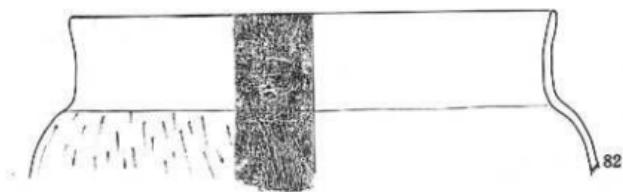


0 10 cm

第19図 土器集積（SW）1出土土器(7)

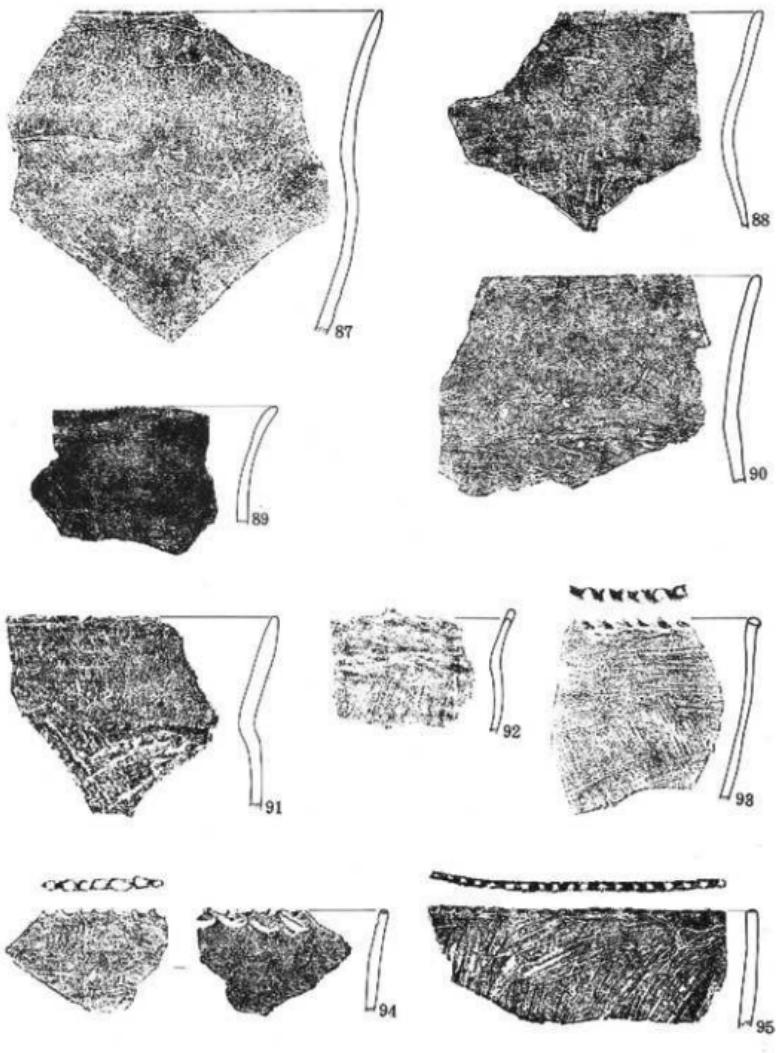


第20図 土器集積（SW）1出土土器(8)



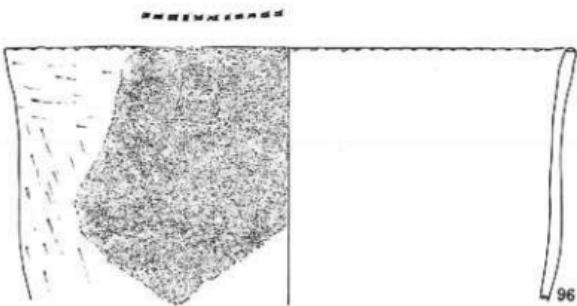
0 10 cm

第21図 土器集積 (S W) 1 出土土器(9)

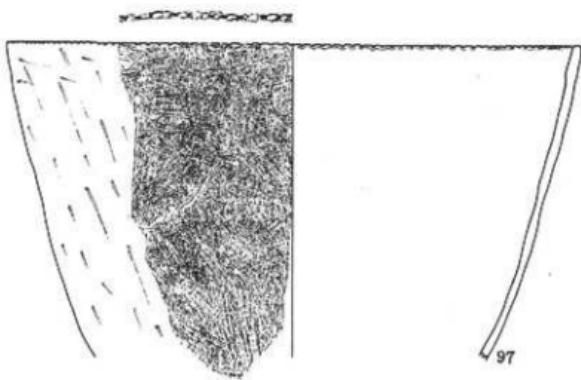


第22図 土器集積（S W）1出土土器

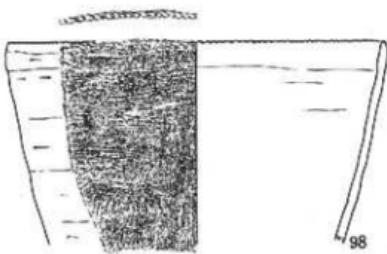
0 10 cm



96



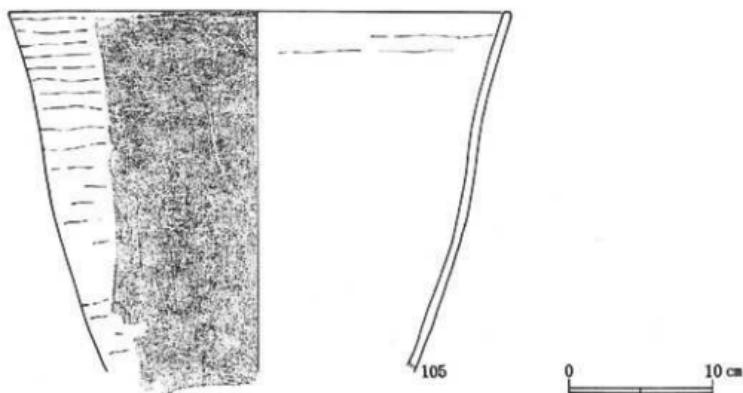
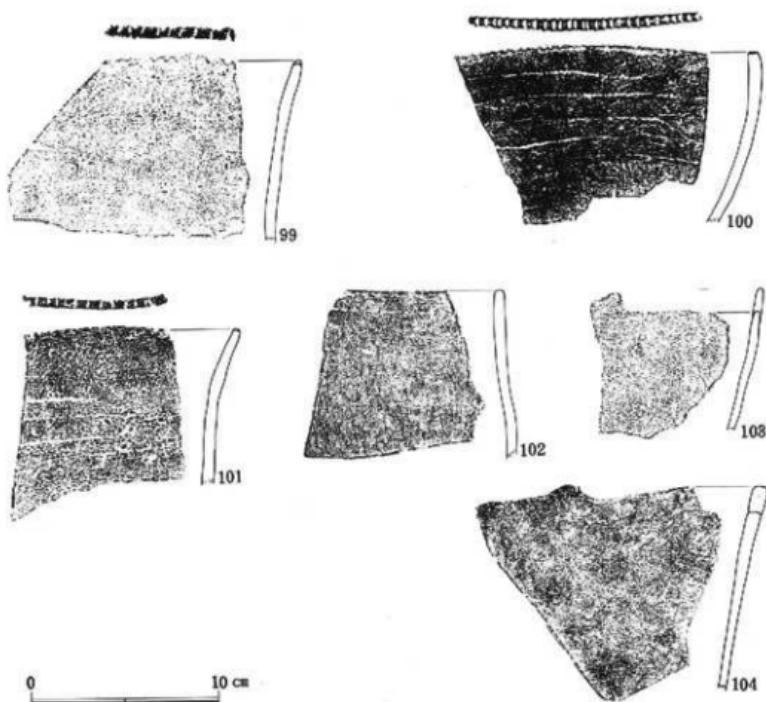
97



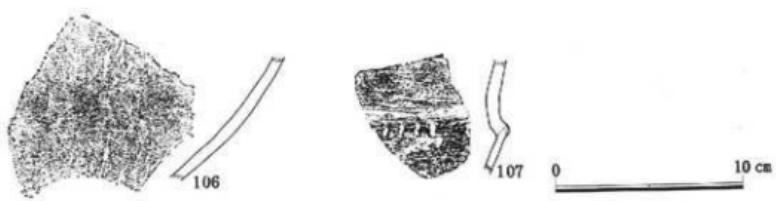
98



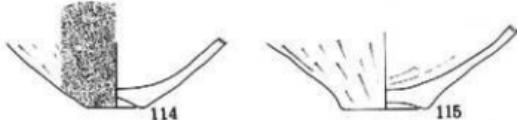
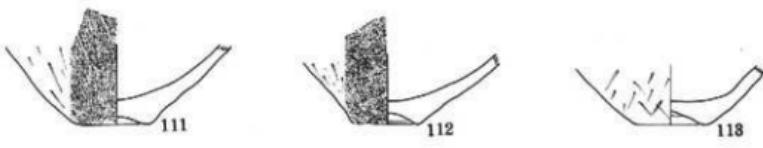
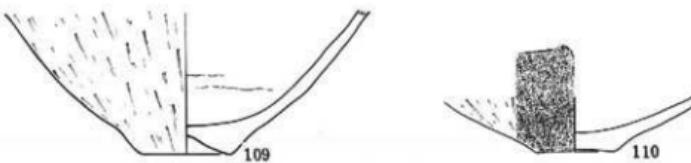
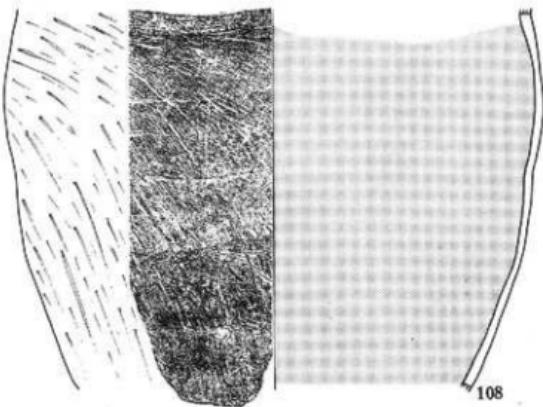
第23図 土器集積(SW) 1出土土器①



第24図 土器集積（S.W.）1出土土器②

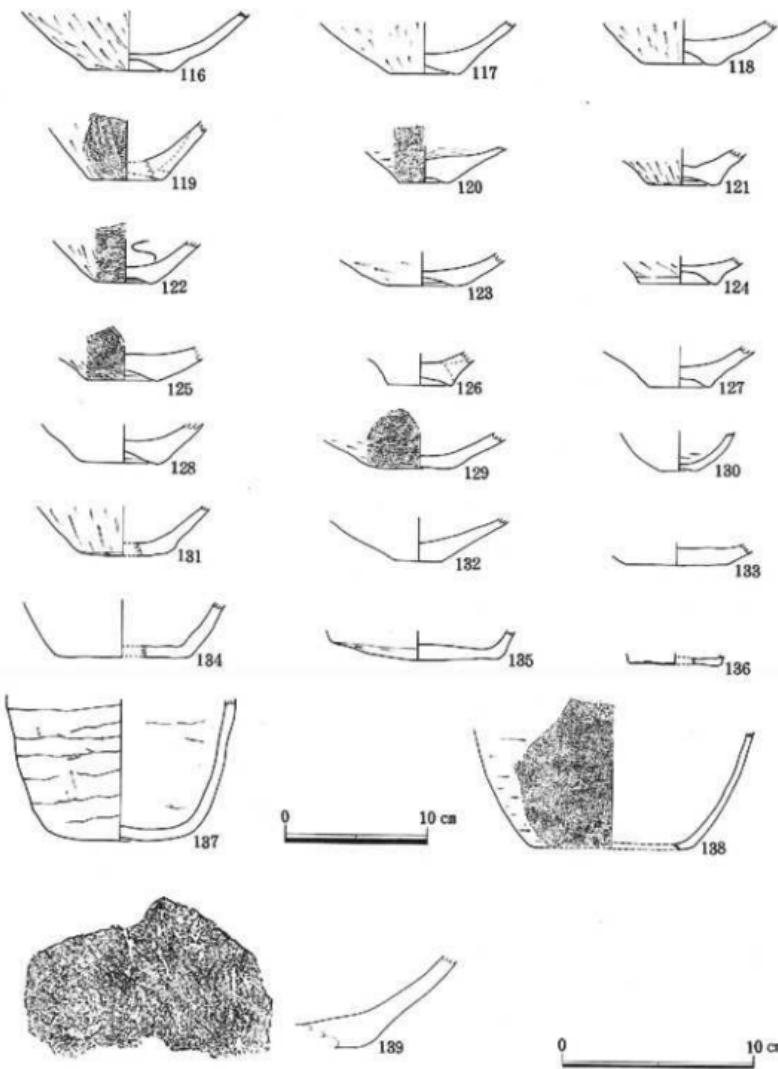


0 10 cm

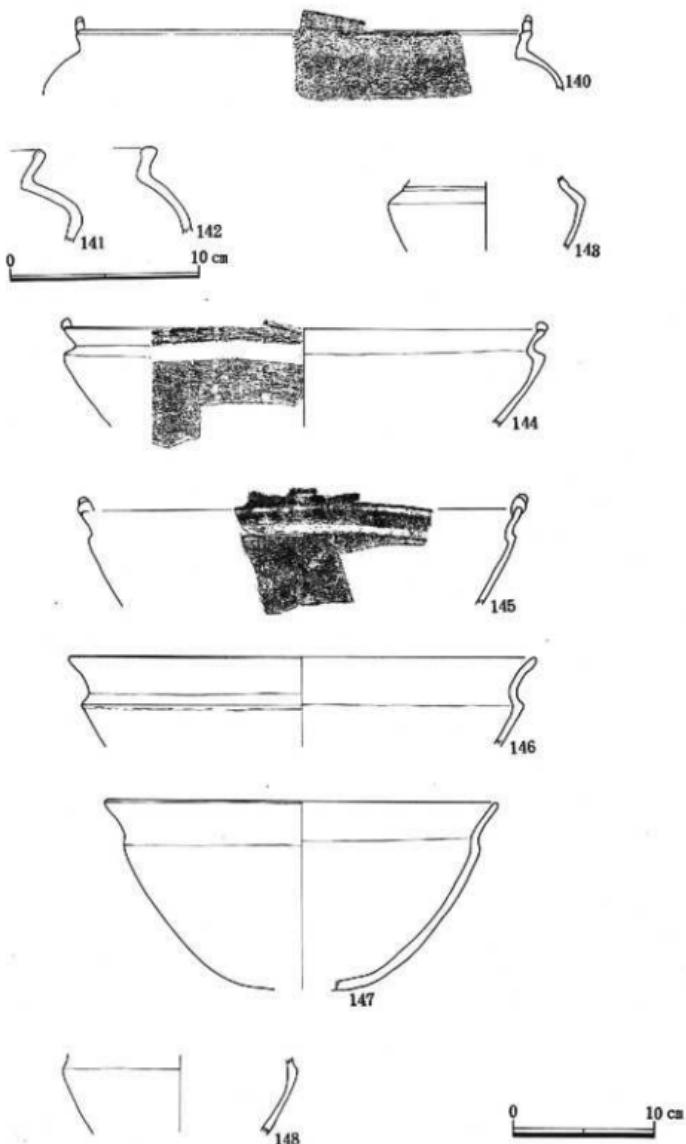


0 10 cm

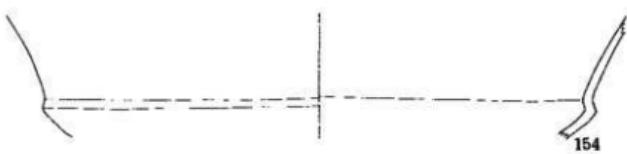
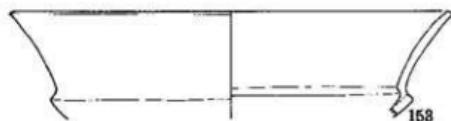
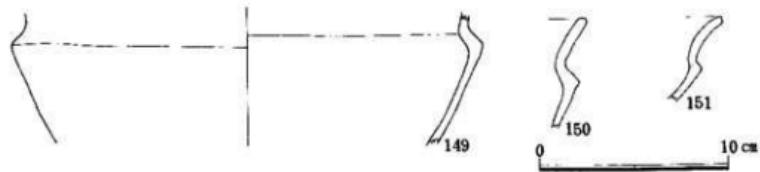
第25図 土器集積 (SW) 1出土土器03



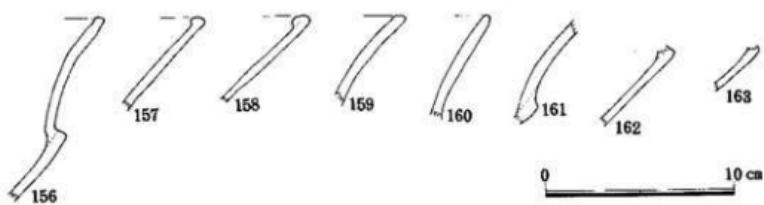
第26図 土器集積 (SW) 1出土土器 (186)



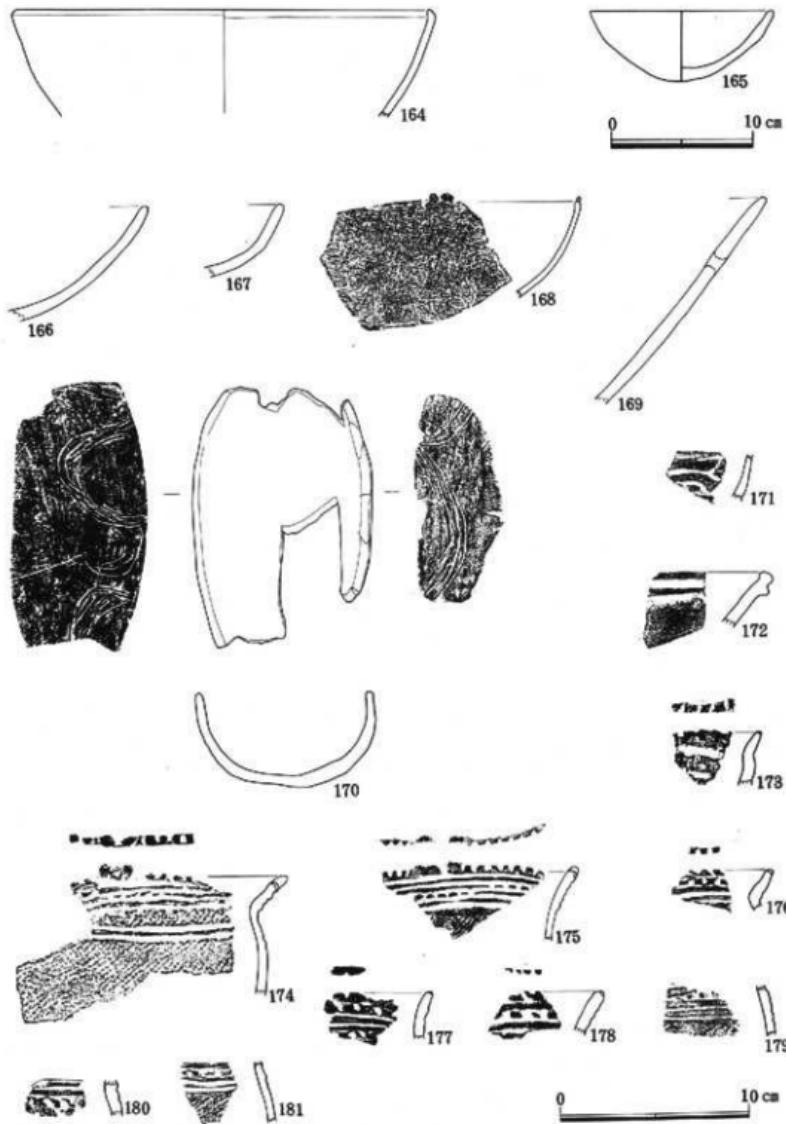
第27図 土器集積（S W）1出土土器15



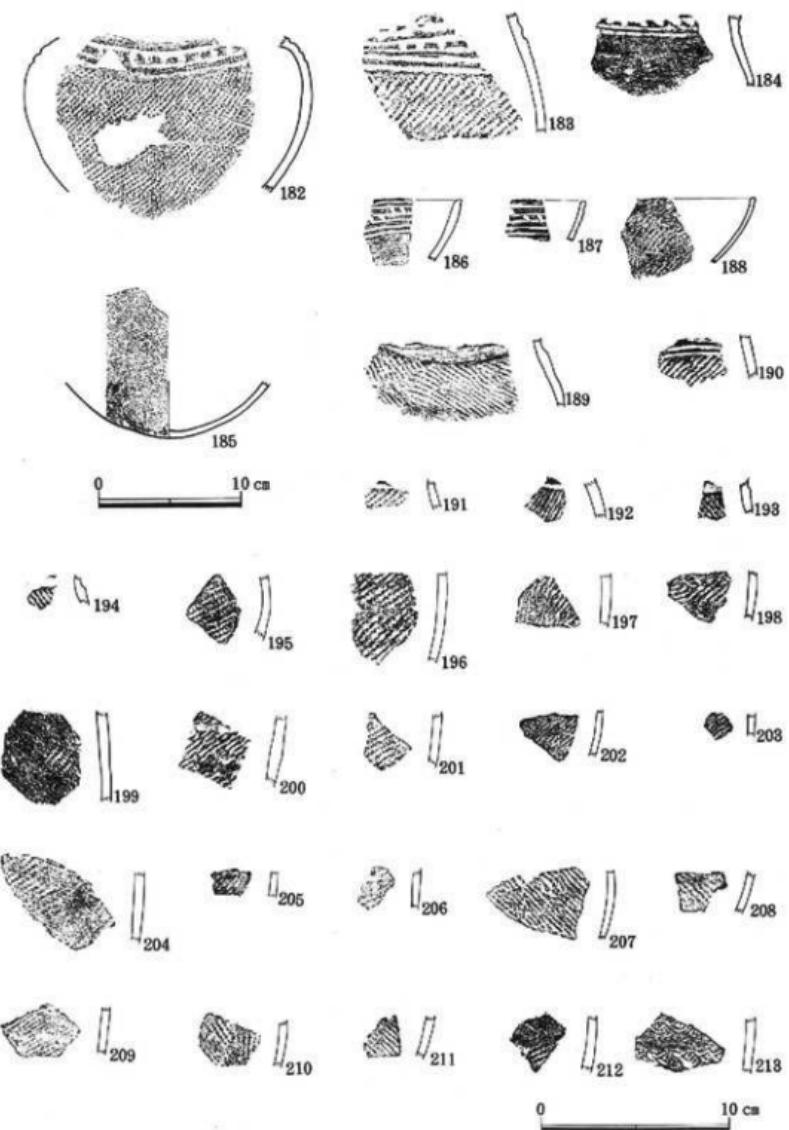
0 10 cm



第28図 土器集積（S.W.）1出土土器16



第29図 土器集積（SW）1出土土器17



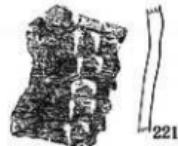
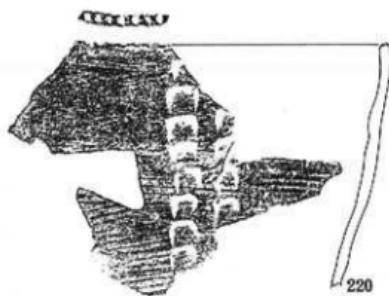
第30図 土器集積（SW）1出土土器18



0 10 cm



0 10 cm



0 10 cm

第31図 土器集積(SW) 1出土土器09

A (43・44・58) 43・44は口縁部から体部に二枚貝条痕を施す。58は体部に二枚貝条痕を施すが、口縁部にはナデを施す。また、43・44は深鉢I類B-2と同形態であるが、58の形態は本遺跡出土土器のなかでは例をみない。43(D字)・58(二枚貝のちょうつがいによる)は口唇部にキザミメが施される。

B-1 b (23~32) 24~32は深鉢I類B-2と同様に口縁部が外反するが、23は口縁部が内傾する。26の口縁部のヘラケズリは縦方向、23~25・27~32は横方向に施される。ケズリの方向は土器の法量、頸部の屈曲の具合によって削り易い方向に施されたものと思われる。なお、一気に口縁部から体部までケズリが施されたものはみられない。24は口唇部にキザミメが施される。

B-1 c (33~40) 体部は深鉢I類B-2と同形態である。33・34は口唇部にキザミメ(D字)が施される。

B-2 a (45~57) 57以外はすべて口唇部にキザミメ(D字)が施され、45には突起がみられる。56は二枚貝条痕を施したのち、ヘラケズリを施す。

B-2 b (59~67・69・71~73) 59・60は口唇部にキザミメ(D字)が施される。73には口唇部に突起がみられる。

B-2 c (74~81・83~92) 口縁部のナデにはヘラ状工具によるもの(74~78)と、擦痕の残らないもの(79~81・83~92)がある。74~76・78~81にはキザミメ(D字)が施され、77はキザミメ(V字)が施される。

B-3 b (68) キザミメは施されない。

B-3 c (82) 体部上半が強くはりだす。キザミメは施されない。

B-4 b (93~98・105) 体部外面にヘラケズリを施すもの(93~98)、繊維束によるケズリを施すもの(105)がある。96・97は口縁部だけに横方向のケズリが施される。繊維束によるケズリが施される105はケズリがあまり顕著ではなく、粘土紐の接合痕が残る。93~95・97・98は口唇部にキザミメ(D字)、96はキザミメ(V字)が施される。ヘラ状工具を用いない105にはキザミメは施されていない。

B-4 c (99~101) いずれも破片であるので、外面全体にナデを施したものか、口縁部だけにナデを施したものかは不明である。口縁部が外反気味に終わるもの(99・101)と内わん気味に終わるもの(100)がみられる。100・101は粘土紐接合痕が残る。99・101はキザミメ(V字)、100はキザミメ(D字)が施される。

C (41・42・102~104) 41・42・104は波状口縁、102・103は平口縁で、103には突起がみられる。41は体部に赤彩が施され、口唇部にキザミメ(D字)が施される。

A (109 ~128 + 139) いずれも体部外面にケズリが施されたものであろう。断面観察のできるものもあり、上げ底の成形は弥生時代第V様式の壺にみられる底部輪台技法とほぼ同じ技法によることがうかがわれる。底部周縁をヘラ状工具で調整したものもかなり多くみられる。

B (129) 底部Aとほぼ同様である。平底であるが、底部付近の断面の観察で、底部Aと同様の成形技法によるものであることがわかる。

D (133 ~138) 底部外面はヘラミガキを施したもの (133)、ナデを施したもの (134 ~136)、ヘラケズリを施したもの (135 + 137 + 138) がある。

浅鉢 I 類 (171)

体部小破片であるため全体の形態は不明である。

浅鉢 II 類

A (140 ~143) いずれも口縁部内面は肥厚する。140 には口唇部に突起がみられる。143 の肩部には沈線が施される。

B - 1 (144 ~151) 148 + 150 は外面にヘラケズリが施されており、粗製土器である。144 + 145 には口唇部に突起がみられる。

B - 2 a (153 + 156 ~159) 口縁部内面の肥厚が大のもの (157 + 158) と、小のもの (153 + 156 + 159) がみられる。

B - 2 b (152) 口縁部内面は肥厚しない。浅鉢 II 類 B - 2 a の手法の退化したものであろう。

B - 2 c (160) 小破片であり、突起の有無等は不明である。

C - 1 (164) 口唇部に突起等はみられない。

C - 4 (165 ~168) 168 の口唇部には突起がみられる。

D (169) 破片のため底部の形状等は不明である。補修孔と思われる穴が1個みられる。

E (170) 体部外面に集合沈溝による文様が描かれている。

浅鉢 III 類 (172)

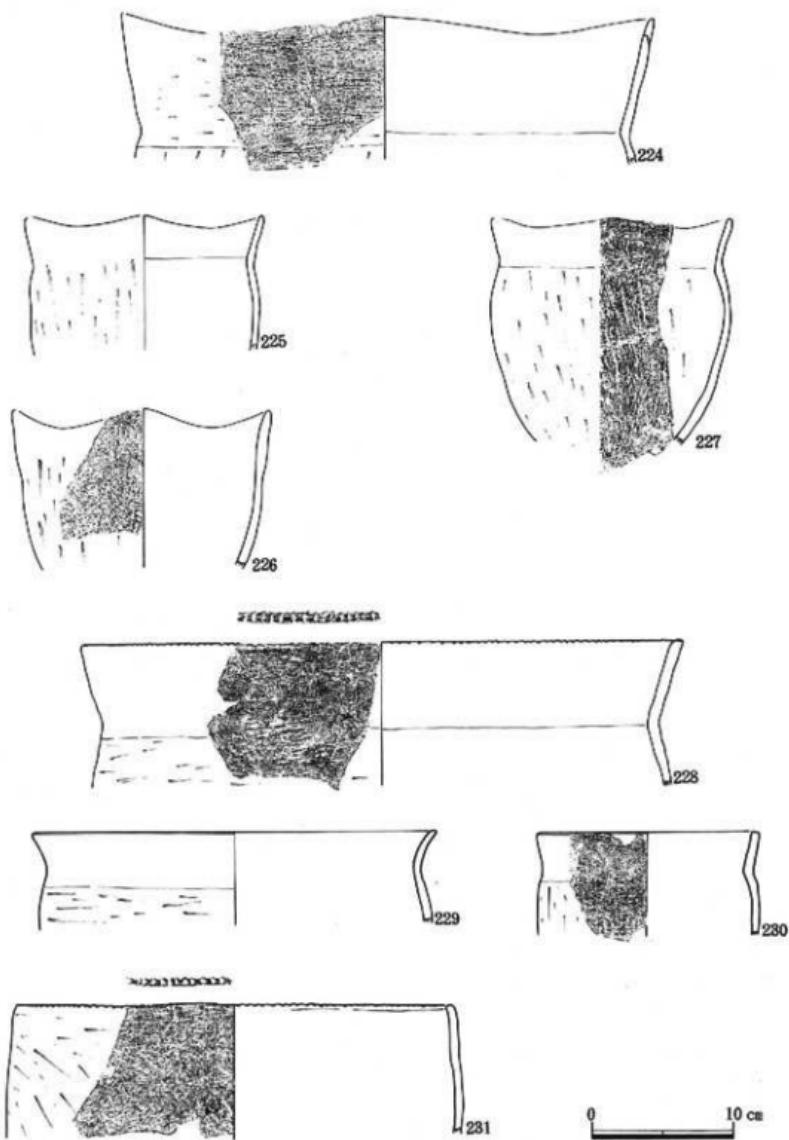
突帯は張り付けによる。

ミニチュア土器 (173)

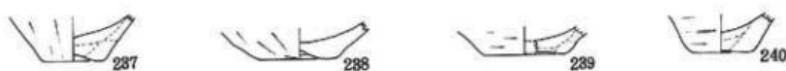
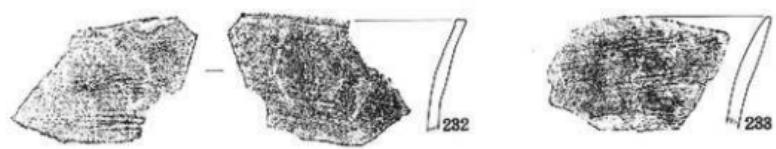
深鉢のミニチュアであると思われる。口唇部にはキザミメ (D字) が施される。

他地域の土器・他地域の影響を受けた土器 (174 ~221)

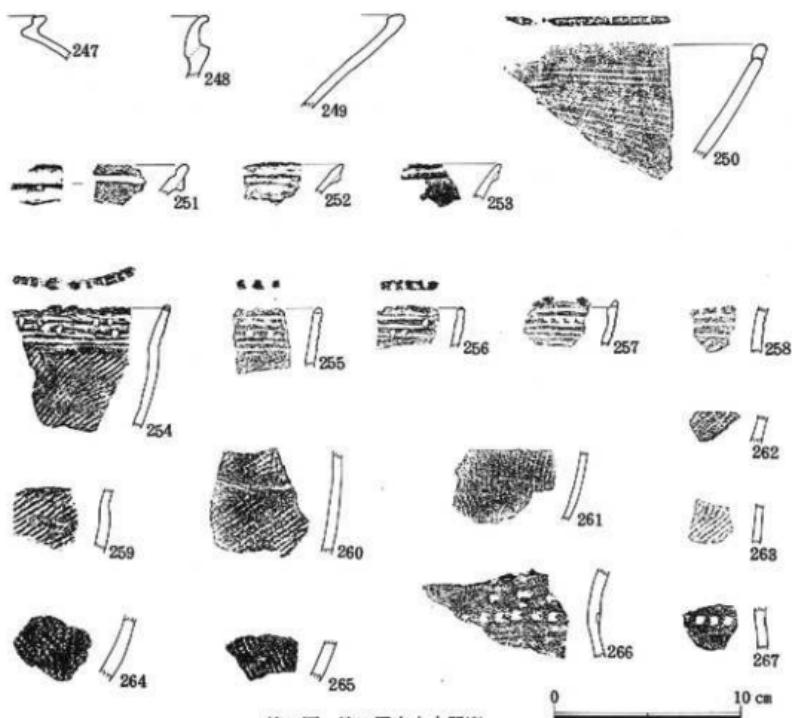
亀ヶ岡式 (174~184+186+187+215)、原下層式 (219 ~221)、縄文を施す土器 (185 + 188~214) 口縁部に刺突文をめぐらす土器 (216 + 217) などがある。179 + 183 は羊齒状文が施されることから、大洞B-C式であると思われる。また、174 ~178+182+186+187



第32図 第5層出土土器(1)



第33図 第5層出土土器(2)



第34図 第5層出土土器(3)

は沈線間に刺突が施されることからは大洞C₁式であると思われる。なお、215は亀ヶ岡式の壺で、底部は上げ底を呈する。

土 製 品 (222)

断面が偏平な部分には2個の穿孔（棒状工具による両面穿孔）があり、その下部には鱗状のものがつまみ出されている。また、その下部は断面が円形を呈しており、粘土紐が巻き付けられている。

(c) 第5層出土土器

縄文時代晩期中葉の上器がコンテナ5箱出土した。

深鉢I類

B-1 a (232) 内外面に二枚貝条痕が施される。深鉢I類B-2と同形態である。口唇部にキザミメは施されない。

B-1 b (224-226) 224は深鉢I類B-2と同形態である。226の口縁部の屈曲は顯

著でない。そのため、224では口縁部横方向、体部は縦方向にヘラケズリが施されるのに対し、226では口縁部から体部まで一気にヘラケズリが施される。いずれも口唇部にキザミメは施されない。

B-1 c (225・227・233) 233はヘラ状工具によってナデが施されるが、225・227の口縁部には擦痕はみられない。いずれも口唇部にキザミメは施されない。

B-2 c (228・230・234) いずれも口縁部には擦痕はみられない。228には口唇部にキザミメ(D字)、234にはキザミメ(O字)が施される。

深鉢II類

236はこの類に含まれるが、口縁部破片のため細分は不可能である。

A-2 (241・242) いずれの突帯も張り付けによる。241の突帯は上辺、下辺の両方から同時にナデが施され、断面形は二等辺三角形を呈する。242の突帯は下辺の調整のうち、上辺にナデを施しており、断面形は直角三角形に近い。口唇部にキザミメは施されない。

深鉢底部

A (237～239) いずれも体部外面にはケズリが施される。

B (240) 底径は底部Aに含まれるものとほぼ同様を測り、同様の成形方法によって成形されている。また、体部外面にはケズリが施される。

C (243・244) いずれも底部外面はナデが施されている。底部A・Bとは異なり、小円盤を成形し、その上に粘土組を積み上げている。

浅鉢II類

A (246・247) 246は破片であるが、体部割れ口近くには補修孔と思われる円孔が1個みられる。

B-1 (248) 破片のため、詳細は不明である。

B-2 a (249) 口縁部内面の肥厚はあまり顕著ではない。

浅鉢III類 (251～253)

いずれも突帯は張り受けによる。251の内面には沈線が施される。

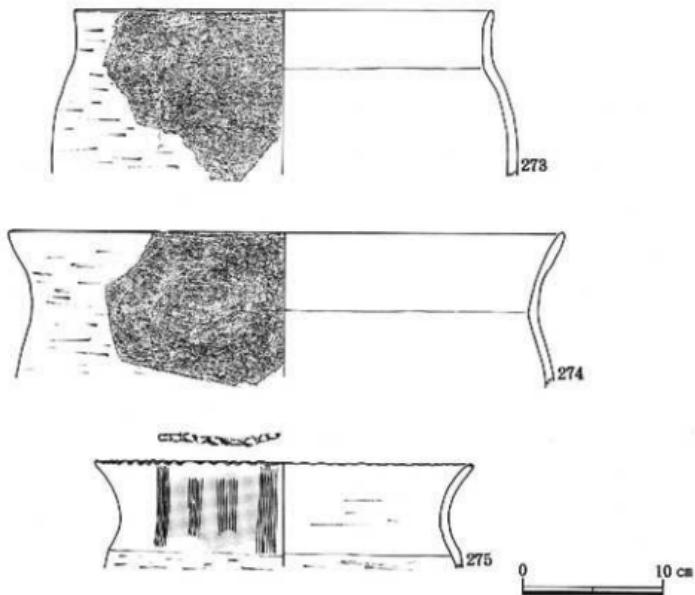
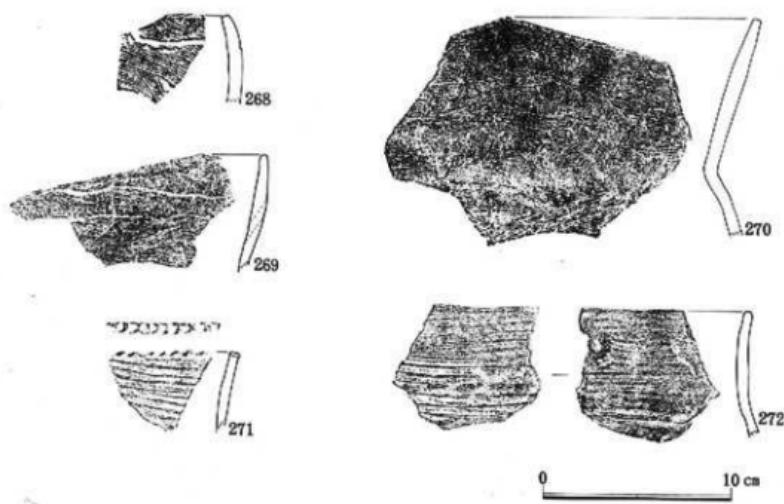
他地域の土器・他地域の影響を受けた土器(254～267)

亀ヶ岡式(254～258)、原下層式(266・267)、繩文を施す土器(259～265)がある。254は口唇部にB突起がみられる。254～258は大洞C式に比定されよう。

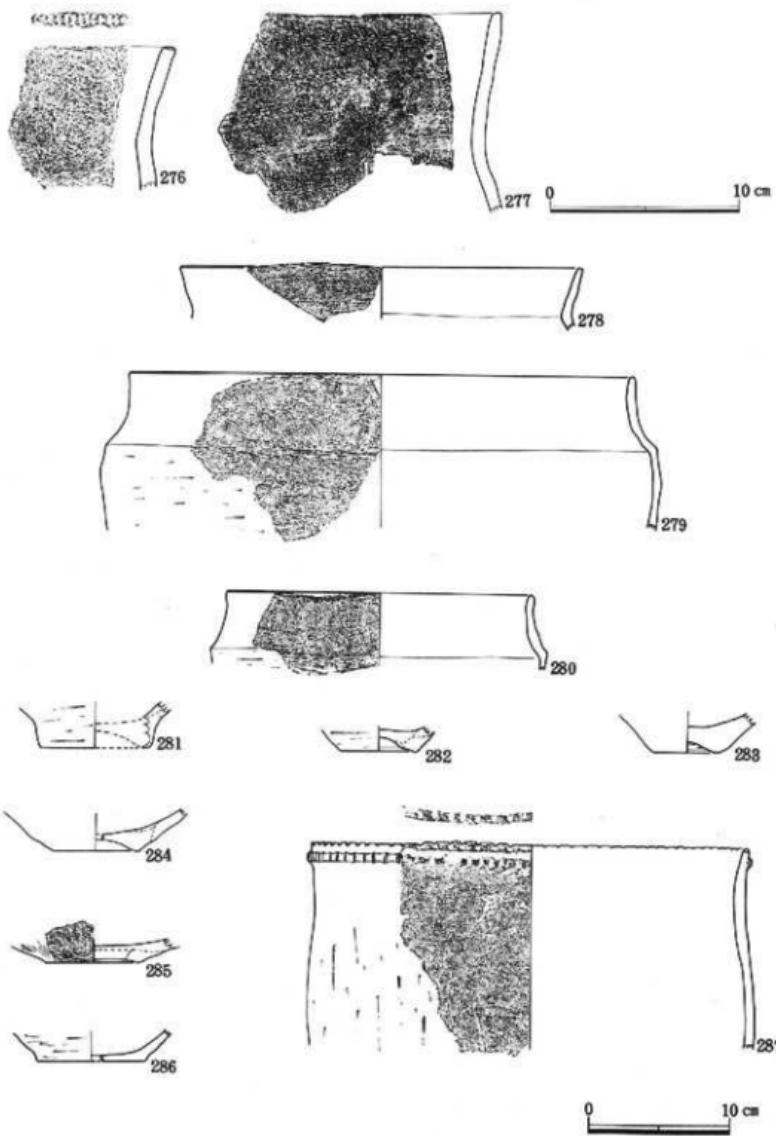
(d) 第4層出土土器

縄文時代後期の土器(268)の他に、縄文時代晩期中葉の土器がコンテナ4箱出土した。

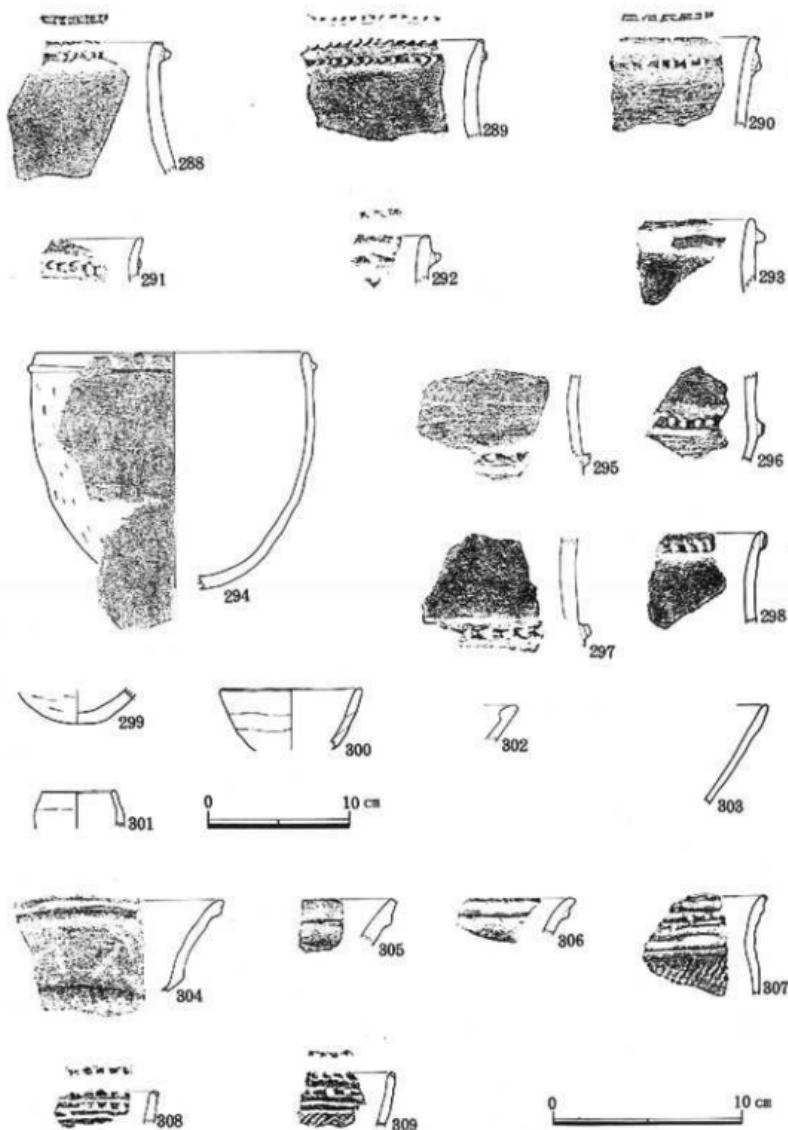
深鉢I類



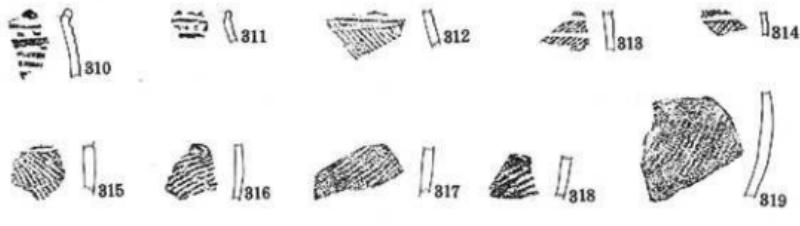
第35図 第4層出土土器(1)



第36図 第4層出土土器(2)



第37図 第4層出土土器(3)



第38図 第4層出土土器(4)

B-1 b (270) 口縁部は横方向にヘラケズリが施される。口唇部にキザミメは施されない。

B-1 c (289) 外面には粘土紐接合痕が残り、擦痕はみられない。口唇部にキザミメは施されない。

B-2 a (271) 破片のため体部の調整は不明である。口唇部にキザミメ(D字)が施される。

B-2 b (274) 口唇部にキザミメは施されない。

B-2 c (275~278) 275は口縁部外面に集合沈線が数単位施されており、その間は赤彩が施される。275・276はキザミメ(D字)が施される。

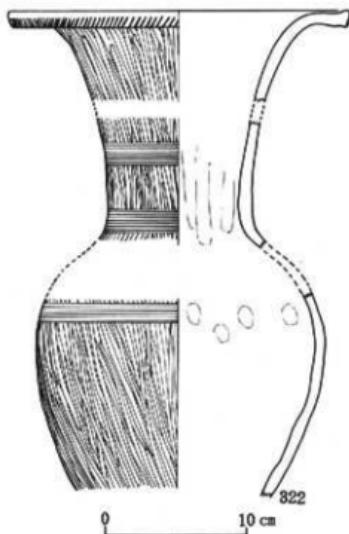
B-3 a (272) 内外面ともに二枚貝条痕が施される。口唇部にキザミメは施されない。

B-3 b (273) 口縁部には横方向のヘラケズリが施される。口唇部にキザミメは施されない。

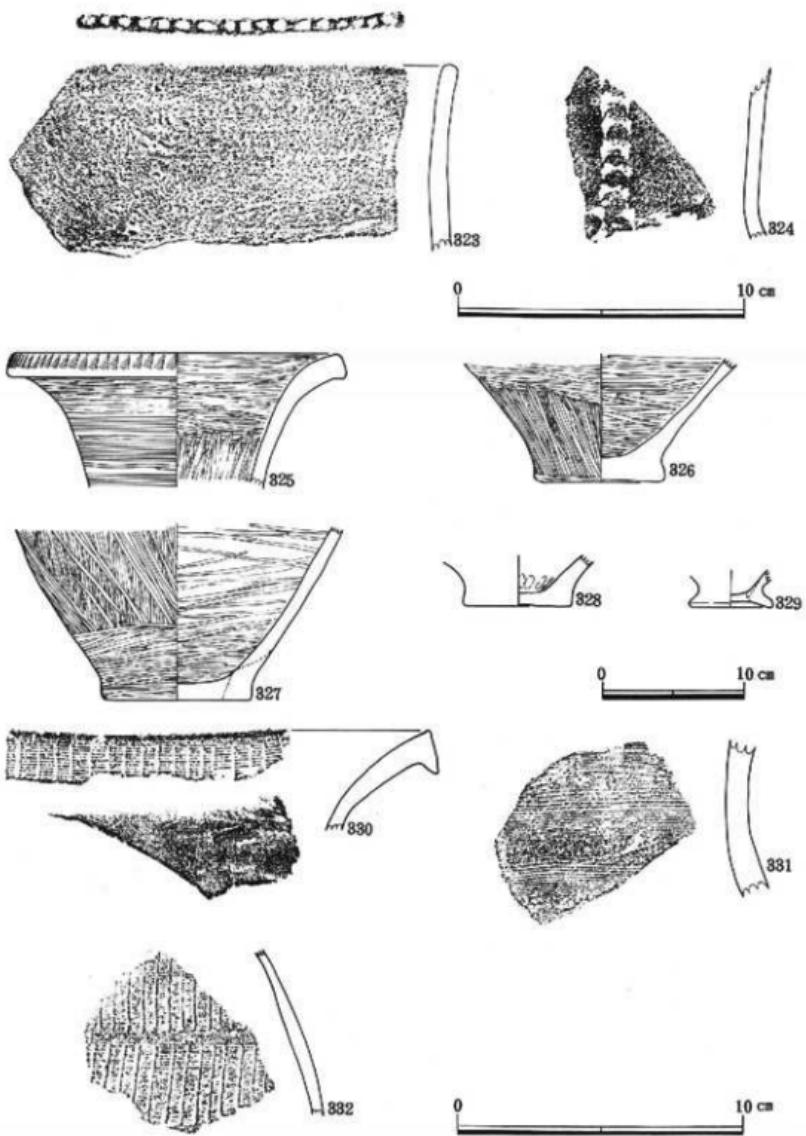
B-3 c (279~280) いずれも口唇部にキザミメは施されない。

深鉢Ⅱ類

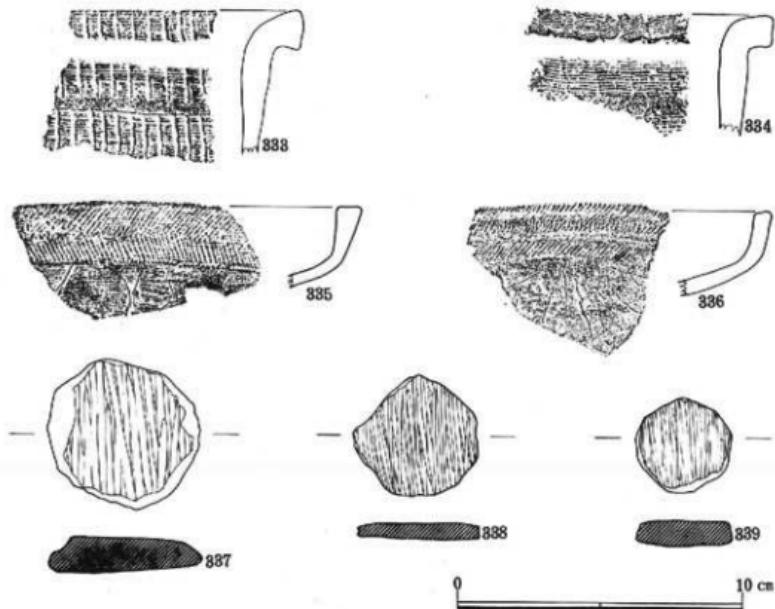
A-1 (288~292) いずれも突帯は張り付けによる。また、突帯のキザミメはD字である。291は小破片のため不明であるが、他はいずれも口唇部にキザミメ(D字)が



第39図 小穴(SP)7出土土器



第40図 第2層出土土器(1)



第41図 第2層出土土器(2)

施される。

B-1 (287) 突帯は張り付けによる。突帯・口唇部のキザミメはV字である。

B-2 (293・294) いずれも突帯は張り付けによる。口唇部にもキザミメは施されない。

深鉢III類(295~297)

いずれも頸部破片で口縁部を欠損する。肩部のキザミメはD字である。

深鉢IV類(298)

突帯は張り付けによる。突帯はキザミメ(D字)が施され、突帯の断面形は深鉢II類、深鉢III類に比べて丸味を帯びる。

深鉢底部

A (281~285) 282・283の底部周辺はヘラミガキが施される。

B (286) 底部の器壁が比較的薄いことから、底部Aの成形方法とは異なり、円盤状の粘土板の上に粘土紐を積み上げることによって成形したものと思われる。

浅鉢II類(302・303)

小破片のため細分は不可能であるが、いずれもこの類に含まれる。

浅鉢Ⅲ類(304～306)

いずれも突帯は張り付けによる。304の体部はヘラケズリが施される。

ミニチュア土器(300・301)

いずれも粗製土器である。300は浅鉢、301は深鉢のミニチュアである。

他地域の土器・他地域の影響を受けた土器(307～321)

亀ヶ岡式(307～312)、原下層式(321)、縄文を施す土器(313～320)がある。307～312

は大洞C₁式に否定されよう。

(G) 小 結

今回の調査では3層にわたる遺物包含層等から、数片の縄文時代中期・後期・晚期前半の土器と多量の縄文時代晚期中葉の土器を検出することができた。これらの晚期中葉の土器は前述のように分類をおこない、報告を行なった。本調査地で出土した深鉢は突帯を施したもの（深鉢Ⅱ類～深鉢Ⅳ類）も微量みられるが、ケズリ調整を主とし、頸部の屈曲するものが大部分を占める（深鉢Ⅰ類【B】(2)・(3)）。深鉢の底部も丸底（深鉢底部【C】）、平底（深鉢底部【B】・【D】）が少量みられるものの、上げ底を呈するもの（深鉢底部【A】）が大部分を占める。浅鉢は突帯文を施すもの（浅鉢Ⅲ類）も微量含まれているが、突帯を施さず、頸部が屈曲し、口縁部が長くのびるもののが少量みられる（浅鉢Ⅱ類【B】）。また、七宝文を施すもの（浅鉢Ⅰ類）は第6層土器集積（SW1）から1片出土したのみである。これらの土器はその特徴から滋賀里Ⅲb式に比定される（註2）。また、第6・5層出土の突帯を施す土器（深鉢Ⅱ類・浅鉢Ⅲ類）は滋賀里IV式で、第4層出土の深鉢Ⅲ類は船橋式、深鉢Ⅳ類は長原式の特徴をもつ。これらのことから、縄文時代中期・後期・晚期前半の土器を數片含んでいるものの、第6層（土器集積1）・第5層出土土器のほとんどは滋賀里Ⅲb式であるが、一部滋賀里IV式もみられ、また、第4層出土土器はそのほとんどが滋賀里Ⅲb式であるが、一部滋賀里IV式・船橋式・長原式もみられると言えよう。

また、在地の土器にまじって他地域の土器が少量出土した。これらの土器はその形態・文様から中部瀬戸内地方の原下層式、東北地方の大洞式B-C式～C₁式と思われる（註3）。原下層式・大洞B-C₁式の土器は本調査地だけではなく、大阪府下の滋賀里Ⅲ式の遺跡の大部分から出土していることから（註4）、当時の活発な地域間交流がうかがえよう。

註

1. 家根祥多「縄文土器から弥生土器へ」「縄文から弥生へ」帝塚山考古学研究所（1984）
2. 家根祥多「近畿地方の土器」「縄文文化の研究」4（1981）

3. 奥田尚氏の分析（第5章に掲載）では形態・文様から、亀ヶ岡式・原下層式と判断される土器の中にも在地の土器と同様の胎土をもつものがあることが指摘されている。
4. 大阪市森の宮遺跡、東大阪市の日下貝塚・鬼塚遺跡、富田林市錦織南遺跡等がある。

第2表 出土土器観察表

落ち込み(SO) 1						
遺物番号	器種	法量(現存部) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成	備考
1	?	体部破片	外面 織文L.R。 内面 ナデ。	外一黒褐色～灰褐色。内一褐灰色～にぶい橙色。断一暗赤灰色～にぶい橙色。白色砂粒(小・中・大)少量、雲母(小・中・大)やや多量、角閃石(小・中・大)やや多量含む。生駒西麓。	焼成良好。外面・内面の一部に焼。	
2	?	体部破片	外面 織文L.R. 内面 ナデ。	外一黒褐色～褐色。内一断一にぶい褐色。白色砂粒(小・中・大)少量、角閃石(小・中・大)やや多量含む。生駒西麓。	焼成良好。外面に焼。	
3	?	体部破片	外面 ナデのち、沈鉢。 内面 ナデ。	外一灰赤色。内一断一にぶい赤褐色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小・中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。	
4	?	口縁部破片	外面 ナデのち、沈鉢。 内面 ナデ。	外一黒褐色～にぶい橙色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小・中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に焼。	
5	深鉢	推定口径 33.8(1/2)	口唇部にキザミメ(D字)。 外側口縁部一二枚貝杂质。体部 一へラケズリ。 内面 ナデ。	外一黒褐色。内一断一にぶい橙色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、角 閃石(小・中)少量、雲母(小・中) 少量、外一暗赤褐色(小・中)少量を含む。	焼成良好。外面に焼。	
6	深鉢	推定口径 41.2(1/8)	口唇部にキザミメ(V字)。 外側口縁部一へラケズリ。 内面 ナデ。	外一黒褐色～にぶい橙色。白色砂粒(小・中) 少量、雲母(小・中)少量、角 閃石(小・中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。外面に焼。	
7	深鉢	推定口径 27.6(1/8)	外面 口縁部一へラ鉄工具による ナデ。体部一へラケズリ。 内面 口縁部一ナデ。体部一へラ 鉄工具によるナデ。	外一黒褐色～にぶい赤褐色。内一断一 黒褐色～にぶい橙色。白色砂粒(小・中) やや多量、雲母(小・中)少量、角 閃石(小・中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部～体部 外面の一部に焼。口縁部 内面に黒斑。	

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
8 深鉢	推定底径 5.6(1/2)	外面 体部一へラケズリ。底部一 ナデのち、周縁のみヘラ ミガキ。 内面 ナデ。	外一にぶい褐色。内一黒褐色～にぶい 橙色。断一赤褐色。白色砂粒(小・中 大) やや多量、雲母(小・中) 少量、 角閃石(小・中・大) 少量を含む。 生駒西麓。	焼成良好。体部内面に焼 成良好。底面部内面に焼 成良好。底面部内面に焼 成良好。	
9 深鉢	底径 4.6(完存)	外面 体部一ナデ。底部一ナデの のち、周縁のみヘラミガキ。 内面 ナデ。	外一橙色～明赤褐色。内一明赤灰色。 断一にぶい褐色。白色砂粒(小・中 少量、雲母(小・中・大) やや多量、 角閃石(小・中・大) やや多量を含む。 生駒西麓。	外一橙色。内・断一にぶい褐色。白 色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 少量、角閃石(小・中) 少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。底面部内面に焼 成良好。
10 深鉢	底径 6.2(完存)	外面 体部一へラケズリ。底部一 ナデのち、周縁のみヘラ ミガキ。 内面 ナデ。	外一にぶい褐色。内・断一黒色～にぶ い褐色。白色砂粒(小・中・大) 少量、 雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	外一にぶい褐色。白褐色砂粒 (小・中・大) やや多量、雲母(小・ 中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含 む。生駒西麓。	焼成良好。
11 深鉢	推定底径 6.0(1/2)	外面 体部一ナデ工具によるナデ。 内面 ヘラ状工具によるナデ。	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 二枚貝条痕。 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい褐色。白色砂粒 (小・中・大) やや多量、雲母(小・ 中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含 む。生駒西麓。	焼成良好。
12 深鉢	口縁部破片	外面 二枚貝条痕。 内面 ナデ。	外一内一黒褐色。断一褐灰色。白色砂 粒(小・中・大) 少量、角閃石(小・中) 少量を含 む。生駒西麓。	外・内・断一黒褐色～にぶい褐色。白 色砂粒(小・中) 少量、雲母(小・ 中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含 む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部外面・ 内面に焼成良好。
13 深鉢	口縁部破片	外面 二枚貝条痕。 内面 ナデ。	外一内一黒褐色～にぶい褐色。白 色砂粒(小・中) 少量、雲母(小・ 中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含 む。生駒西麓。	外一内一黒褐色～にぶい褐色。白 色砂粒(小・中) 少量、雲母(小・ 中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含 む。生駒西麓。	焼成良好。外面・内面に 焼成良好。
14 深鉢	口縁部破片	外面 二枚貝条痕。 内面 ナデ。			

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
15 深 鉢	口縁部破片	外面 ヘラケズリのち、一部ナナデ。 内面	外・内・断一暗赤灰色～明赤褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	燒成良好。口縁部外面・内 面に様。	
16 深 鉢	口縁部破片	外面 口縁部ナナデ。体部ヘラケズリ。 内面	外一褐灰色～灰褐色。内・断一にぶい 橙。白色砂粒(小・中・大)やや多 量、雲母(小・中)少量、角閃石(小 ・中)少量を含む。生駒西麓。	燒成良好。	
17 浅 鉢	推定口径 24.6(1/8)	口唇部に突起。 外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一黒褐色～灰褐色。内・断一にぶい 橙。白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母(小・中)やや多量、 角閃石(小・中)少量を含む。生駒西 麓。	燒成良好。黑色磨研。	
18 浅 鉢?	底部破片	外面 体部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ。 内面 ナナデ。	外一黒褐色～にぶい赤褐色。内一暗赤 褐色。断一暗赤灰色～明赤褐色。白色 砂粒(小・中)少量、雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中)少量を含む。 生駒西麓。	燒成良好。体部外面・内 面に様。	
19 浅 鉢	口縁部破片	口唇部に突起。 外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一黒褐色。内・断一にぶい褐 色。白色砂粒(小・中)を少量、雲母 (小)を少量を含む。	燒成良好。黑色磨研。	
20 ?	体部破片	外一黒褐色。内・断一褐灰色。白色砂 粒(小・中)少量、雲母(小・中)少 量を含む。	燒成良好。		

土器集積(SW) 1

遺物番号	器種	法量(現存部) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
21 深鉢	破片	外面 内面	押し引き、繩文。 ナデ。	にぶい黄橙色。内一に「土器胎土の珍 薄觀察」に記載。	焼成良好。
22 ?	体部破片	外面 内面	ナデのち、沈線。 ナデ。	外・断一にぶい橙色。内一にぶい黄 橙色。白色砂粒(小・中・大)やや多 量、雲母(小・中)少量、黒色砂粒 (小・中)少量を含む。	焼成良好。
23 深鉢	推定口径 31.2(1/4)	波状口縁。 外面 内面	口縁部一ナデのち、ヘラ ケズリ。体部一ヘラケズ リナデ。	外・にぶい橙色。内・断一明褐灰色～ 橙色。第5章「土器胎土の砂隕觀察」 に記載。	焼成良好。口縁部～体部 上半外面・体部下面に焼 に焼。
24 深鉢	推定口径 10.6(1/6)	波状口縁。 外面 内面	波状口縁。(キザミメ D字) ヘラケズリ。 ナデ。	外一黒褐色～にぶい赤褐色。内・断一 にぶい褐色。白色砂粒(小・中)、雲 母(小・中)少量、角閃石(小・中・ 大)少量を含む。生駒西瀬。	焼成良好。体部内面の一 部に焼。
25 深鉢	推定口径 18.8(1/3)	波状口縁。 外面 内面	口縁部上半一ナデ。口縁部 下半～体部一ヘラケズリ。 ナデ。	外・断一褐灰色～にぶい赤褐色。内一 黒褐色。白色砂粒(小・中・大)小量 雲母(小)少量、角閃石(小)少量を 含む。生駒西瀬。	焼成良好。口縁部外面・ 口縁部～体部内面に焼。
26 深鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 内面	口縁部一ナデのち、ヘラ ケズリ。体部一ヘラケズ リ。 ナデ。	外・断一褐灰色～にぶい赤褐色。内一 黒褐色～にぶい褐色。白色砂粒(小・中 ・大)やや多量、雲母(小・中)少量 角閃石(小・中)少量を含む。生駒西 瀬。	焼成良好。体部外面・内 面に焼。
27 深鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 内面	口縁部一ナデのち、ヘラ ケズリ。体部一ヘラケズ リナデ。	外・断一褐灰色～にぶい赤褐色。内一 黒褐色～にぶい褐色。白色砂粒(小・ 中)やや多量、雲母(小・中・大)多 量、角閃石(小・中・大)やや多量を 含む。生駒西瀬。	焼成良好。口縁部内面に 焼。

遺物番号	器種	法量(現存量) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
28 深 鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 口縁部上半一ナデ。体部下半一へラケズリ。体部一 ナデ。	外一褐灰色～にぶい褐色。内・断一灰 黄色砂粒(小・中) やや多量 雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	外一褐灰色～にぶい褐色。内・断一灰 白色砂粒(小・中) やや多量 雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 一部・内面に様。	焼成良好。口縁部～体部 外面・口縁部～体部内面 に様。
29 深 鉢	口縁部～体部破片	波状口縁。 外面 口縁部一へラケズリ。体部一 ナデ。	外一暗赤褐色～にぶい赤褐色。内一黑 褐色。断一にぶい褐色。白色砂粒(小 ・中) やや多量、雲母(小・中・大) 多量、角閃石(小・中・大) 多量を含 む。生駒西麓。	外一暗赤褐色～にぶい赤褐色。内 一黒褐色。白色砂粒(小・中・大) や や多量、雲母(小・中) 少量、角閃石 (小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。体部外面・口 縁部～体部内面に様。
30 深 鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 口縁部一ナデ。体部一へラ ケズリ。	外一暗赤褐色～にぶい赤褐色。内 一黒褐色。白色砂粒(小・中・大) や や多量、雲母(小・中) 少量、角閃石 (小・中) 少量を含む。生駒西麓。	外一暗赤褐色～にぶい赤褐色。内 一黒褐色。白色砂粒(小・中・大) や や多量、雲母(小・中) 少量、角閃石 (小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。体部外面・口 縁部～体部内面に様。
31 深 鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 口縁部一ナデ。体部一へラ ケズリ。	外一褐灰色～にぶい褐色。内一褐 色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 少量を含む。生駒西麓。	外一褐灰色～にぶい褐色。内一褐 色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。外面に様。
32 深 鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 口縁部一へラケズリ。 ナデ。	外一褐灰色～にぶい褐色。内一褐 色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 少量を含む。生駒西麓。	外一褐灰色～にぶい褐色。内一褐 色砂粒(小・中・大) 多量、角 閃石(小・中) 少量を含む。生 駒西麓。	焼成良好。外面に様。
33 深 鉢	口縁部破片	口唇部に突起・キザミミ(D字)。 外面 ナデ。 内面 ナデ。	外・内・断一灰黃褐色。白色砂粒(小 ・中・大) 少量。雲母(小・中・大) 少量、角閃石(小・中) 微量を含む。 生駒西麓。	焼成良好。内面に黒斑。	

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
34 深 鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外-にぶい赤褐色。内-断-黒褐色~ 明赤褐色。白色砂粒(小・中)少量、 雲母(小・中)小量、角閃石(小・ 中)少量を含む。生駒西麓。	外-にぶい赤褐色。内-断-黒褐色~ 明赤褐色。白色砂粒(小・中)少量、 雲母(小・中)小量、角閃石(小・ 中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。体部外面に煤。
35 深 鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外-内-褐灰色-～にぶい橙色。断- 浅黄褐色。白色砂粒(小・中)少量、 雲母(小・中)少量を含む。	外-赤灰色-～赤褐色。内-断-灰褐色 ～橙色。白色砂粒(小・中・大)少 量、雲母(小・中)少量、角閃石(小 ・中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。体部外面の一部 に煤。
36 深 鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリののち、ナデ。 内面 ナデ。	外-内-断-灰褐色。第5章「土器胎土 の妙麗規系」に記載。	外-内-断-灰褐色。内-断- 淡赤褐色～橙色。白色砂粒(小・中 ・大)やや多量、雲母(小・中・大)や や多量、角閃石(小・中・大)やや多 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面の一部に 煤。
37 深 鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外-一掃灰褐色-～にぶい赤褐色。内-断- 淡赤褐色～橙色。白色砂粒(小・中 ・大)やや多量、雲母(小・中・大)や や多量、角閃石(小・中・大)やや多 量を含む。生駒西麓。	外-内-断-灰褐色。内-断- 淡赤褐色～橙色。白色砂粒(小・中 ・大)やや多量、雲母(小・中・大)や や多量、角閃石(小・中・大)やや多 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部～体部 外面に煤。
38 深 鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外-内-断-灰褐色。内-断- 淡赤褐色～橙色。白色砂粒(小・中 ・大)やや多量、雲母(小・中・大)や や多量、角閃石(小・中・大)やや多 量を含む。生駒西麓。	外-内-断-灰褐色。内-断- 淡赤褐色～橙色。白色砂粒(小・中 ・大)やや多量、雲母(小・中・大)や や多量、角閃石(小・中・大)やや多 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。
39 深 鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 口縁部-ナデ。 内面 ナデ。	外-内-断-灰褐色。内-断- 淡赤褐色～橙色。白色砂粒(小・中 ・大)やや多量、雲母(小・中・大)や や多量、角閃石(小・中・大)やや多 量を含む。生駒西麓。	外-内-断-灰褐色。白色砂粒(小・中 ・大)やや多量、雲母(小・中・大)や や多量、角閃石(小・中・大)やや多 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部の一部 外面・口縁部～体部に内 面に煤。
40 深 鉢	推定口径 23.0(1/3)	波状口縁。 外面 口縁部によるケズリ。 内面 ナデ。	外-内-断-灰褐色。白色砂粒(小・中 ・大)やや多量、雲母(小・中・大)や や多量を含む。	外-内-断-灰褐色。白色砂粒(小・中 ・大)やや多量、雲母(小・中・大)や や多量を含む。	焼成良好。口縁部の一部 外面・口縁部～体部に内 面に煤。

遺物番号	器種	法量(現存率)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
41 深鉢	推定口径 14.6(1/3)	波状口縁。口唇部にキザミメ(D字)。外面 口縁部-ナデ。体部-ヘラ。工具によるナデ。	外-黒褐色。内-断-褐色(小・中)少量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。体部外面・内面に様。口縁部-体部上面に赤影。	
42 深鉢	推定口径 17.2(1/3)	外面 口縁部-ナデのち、ヘラミガキ。体部-ヘラケズリのち、ヘラミガキ。内面 口縁部-ナデのち、ヘラミガキ。体部-ナデ。	外-内-黒褐色。断-にぶい橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。外面・内面に様。	
43 深鉢	推定口径 22.6(1/6)	口唇部にキザミメ。外面 二枚貝条痕のち、一部ナデ。内面 ナデ。	外-黒褐色~にぶい橙色。内-断-黒褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、角閃石(小・中・大)やや多量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部~体部外面・内面に様。	
44 深鉢	推定口径 7.2(1/4)	外面 二枚貝条痕。内面 ナデ。	外-内-黒褐色。断-黒褐色(小・中)少量、雲母(小・中)やや多量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部外面に様。	
45 深鉢	推定口径 33.0(1/5)	口唇部に突起(キザミメV字)。キザミメ(V字)。外面 口縁部-二枚貝条痕。体部-ヘラケズリ。内面 ナデ。	外-暗赤褐色。内-浅黄褐色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小・中)微量、角閃石(小・中)微量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部内面に様。断-浅黄褐色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小・中)微量、角閃石(小・中)微量を含む。生駒西麓。	
46 深鉢	推定口径 29.0(1/6)	口唇部にキザミメ(D字)。外面 口縁部-二枚貝条痕。体部-ナデ。内面 ナデ。	外-断-褐色(小・中)。内-黒褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。口縁部外面の一部、内面に様。	

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
47	深鉢	推定口径 35.0(1/8)	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 口縁部-二枚目条痕。体部 一ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外-断-にぶい褐色。内-黒色。白色 砂粒(小・中) 多量、雲母(小・中) やや多量、角閃石(小・中) やや多量 を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に焼。
48	深鉢	推定口径 48.2(1/6)	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 二枚目条痕。 内面 ナデ。	外-黒色-にぶい褐色。 内-褐色。白色砂粒(小・中・ 大) やや多量、雲母(小・中) 少量、 角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西 麓。	焼成良好。口縁部外面に 外-にぶい褐色。白色砂粒(小・中・ 大) やや多量、雲母(小・中) 少量、 角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西 麓。
49	深鉢	口縁部破片	口唇部に突起、キザミメ(D字)。 外面 口縁部-二枚目条痕。体部 一ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外-内・断-灰褐色-にぶい橙色。第 5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。口縁部-体部 外面、口縁部内面に焼。
50	深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 口縁部-二枚目条痕。体部 一ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外-褐灰色-にぶい褐色。内-黒色。 断-浅黃褐色。白色砂粒(小・中・ 大) やや多量、雲母(小・中) 少量、 角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西 麓。	焼成良好。内面に焼。
51	深鉢	口縁部-体部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 口縁部-二枚目条痕。体部 一ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外-内・断-にぶい黄褐色。白色砂粒 (小・中・大) やや多量、雲母(小・ 中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含 む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部-体部 外面の一部に焼。
52	深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 二枚目条痕。 内面 ナデ。	外-内-にぶい赤褐色。断-にぶい橙 色。白色砂粒(小・中・大) やや多 量、雲母(小・中・大) やや多量、角 閃石(小・中) やや多量を含む。生駒 西麓。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
53 深	鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面二枚貝条痕。 内面ナデ。	外・断一にぶい褐色。白色砂粒(小・中・大)や多量、雲母(小・中・大)や多量、角閃石(小・中・大)や多量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部内面に煤。
54 深	鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面二枚貝条痕。 内面ナデ。	外・断一にぶい褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中・大)やや多量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。
55 深	鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面二枚貝条痕。 内面ナデ。	外・褐色～にぶい褐色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小・中)微量、角閃石(小・中)微量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部外面に煤。
56 深	鉢	口縁部破片	口縁部一二枚貝条痕の ち、ヘラケズリ。体部へ ラケズリ。 内面ナデ。	外・黒褐色～にぶい褐色 多量、雲母(小・中・大)多量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部～体部 上半部外面、口縁部下半～ 体部内面に煤。
57 深	鉢	口縁部破片	二枚貝条痕。 内面ナデ。	外・内一褐色～にぶい褐色。断一浅 黄褐色。白色砂粒(小・中・大)や 多量、雲母(小・中)少量、角閃石 (小・中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。外面の一部、 内面の一部に煤。
58 深	鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(二枚貝のちよ うつがいによる)。 外面 口縁部ナデ。体部一二枚 貝条痕。 内面ナデ。	外一褐色。内・断一にぶい黃褐色。白 色砂粒(小・中)少量、雲母(小・中)少量、 黒色砂粒(小・中)やや多量を含む。	焼成良好。内面の一部に 煤。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
59	深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 ヘラケズリ。 内面 口縁部ーナデ。体部ーへラ 状工具によるナデ。	外・断一黒褐色～にぶい褐色。内一に ぶい褐色。白色砂粒(小・中・大)や や多量、雲母(小・中・大)やや多 量、角閃石(小・中)少量を含む。生 駒西麓。	焼成良好。口縁部～体部 外面、口縁部～体部内面 に煤。
60	深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(O字)。 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい褐色。白色砂粒 (小・中・大)やや多量、雲母(小・ 中) 小量、角閃石(小・中) 少量を含 む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部内面に 煤。
61	深鉢	口縁部破片	外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・断一黒褐色～にぶい褐色。内一黒 褐色。白色砂粒(小・中) やや多量、 雲母(小・中) 少量、角閃石(小・ 中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部～体部 外面の一部・内面に煤。
62	深鉢	口縁部破片	外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・断一黒褐色～にぶい褐色。内一にぶい 褐色。白色砂粒(小・中・大) やや多量、 雲母(小・中) 少量を含む。生 駒西麓。	焼成良好。外面に煤。
63	深鉢	口縁部破片	外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・断一にぶい褐色。白色砂粒(小・ 中・大) やや多量、雲母(小・中) や や多量、角閃石(小・中) 少量を含 む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部～体部 外面・内面に煤。
64	深鉢	口縁部破片	外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・断一褐灰色～にぶい褐色。内一黒 褐色。白色砂粒(小・中・大) 多量、 雲母(小・中) 少量、角閃石(小・ 中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部内面に 煤。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
65 深 鉢	口縁部破片	外面 口縁部～体部一ヘラケズリ 内面 ナデ。	外・断一褐色～にぶい褐色。内一黒褐色。白色砂粒(小・中・大) 多量、雲母(小・中) 少量を含む。	焼成良好。口縁部外面の一部・内面に煤。	
66 深 鉢	口縁部破片	外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外一にぶい褐色。内一褐色～にぶい橙色。断一明褐色。白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。外面・内面に煤。	
67 深 鉢	口縁部破片	外面、ヘラケズリのち、ナデ。 内面 ナデ。	外・断一褐色～にぶい橙色。内一黒褐色。白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。一部・内面に煤。	
68 深 鉢	口縁部破片	外面 ナデのち、ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・断一にぶい褐色。内一黒褐色。白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部外面の内面に煤。	
69 深 鉢	口縁部破片	外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・内一褐色～にぶい褐色。白色砂粒(小・中・大) 少量、雲母(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。	
70 深 鉢	口縁部破片	外面 ヘラケズリ。 内面 口縁部一ヘラミガキ。体部一ナデ。	外・内一褐色～にぶい褐色。白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母(小・中・大) 多量、角閃石(小・中・大) 多量を含む。生駒西麓。	焼成良好。断一褐色。	
71 深 鉢	口縁部破片	外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外一黒褐色～にぶい赤褐色。白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母(小・中) 多量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部外面に煤。	

遺物番号	器種	法量(現存重)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
72	深鉢	椎定口径 30.8(1/4)	外面 ヘラ状工具によるナデ。内面 ヘラ状工具によるナデ。	外・内・断一灰青褐色。白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母(中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。生前西端。	焼成良好。口縁部内面に黒斑。
73	深鉢	椎定口径 23.2(1/2)	口縁部に突起(推定4個)。外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	外・断一暗赤褐色～煙色。内一橙色。白色砂粒(小・中・大) 多量、雲母(小・中) 微量、角閃石(小・中) 少量を含む。	焼成良好。外面に煤。
74	深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。外面 ヘラ状工具によるナデ。内面 ナデ。	外一灰褐色。内一黑色。断一にぶい橙色。白色砂粒(小・中・大) 少量、雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。生前西端。	焼成良好。口縁部外面の一部・内面に煤。
75	深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。外面 ヘラ状工具によるナデ。内面 ナデ。	外・内・断一黒褐色～にぶい橙色。白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。生前西端。	焼成良好。口縁部外面・内面の一部に煤。
76	深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。外面 ヘラ状工具によるナデ。内面 ナデ。	外・断一にぶい黄褐色。内一明赤褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。口縁部内面の一部に煤。
77	深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(V字)。外面 口縁部一ヘル状工具によるナデ。体部一ヘラケズリ。内面 ナデ。	外・内・断一褐色～にぶい橙色。白色砂粒(小・中) 少量、雲母(小・中) 少量を含む。生前西端。	焼成良好。口縁部外面・内面の一部に黒斑。
78	深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。外面 口縁部一ヘル状工具によるナデ。体部一ヘルケズリ。内面 ナデ。	外・断一褐色～明褐灰色。内一黑色。白色砂粒(小・中) やや多量、角閃石(小・中) 少量を含む。生前西端。	焼成良好。口縁部内面に煤。

遺物番号	器種	法量(現存部) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
79 深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-黒褐色～に ぶい橙色。白色砂粒(小・中・大) 少量、雲母(小・中) 少量を含む。	外・内・断-黒褐色～に ぶい橙色。白色砂粒(小・中・大) 少 量、雲母(小・中) 少量を含む。	焼成良好。内面に煤。
80 深鉢	推定口径 35.2(1/4)	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-灰黃褐色。白色砂粒(小 ・中) 少量、雲母(小・中) 少量、角 閃石(小・中) 少量を含む。	外・内・断-灰黃褐色。白色砂粒(小 ・中・大) 少量、雲母(小・中) 少量、角 閃石(小・中・大) 少量を含む。	焼成良好。口縁部外面に 煤。
81 深鉢	推定口径 40.0(1/6)	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-灰黃褐色。白色砂粒(小 ・中・大) 少量、雲母(小・中) 少量、角 閃石(小・中・大) 少量を含む。 生跡西端。	外・内・断-灰黃褐色。白色砂粒(小 ・中・大) 少量、雲母(小・中) 少量、角 閃石(小・中・大) 少量を含む。	焼成良好。体部外面に 煤。
82 深鉢	推定口径 34.0(1/6)	口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-黒褐色～に ぶい橙色。白色砂粒(小・中・大) 少 量、雲母(小・中) 少量を含む。 生跡西端。	外・内・断-黒褐色～に ぶい橙色。白色砂粒(小・中・大) 少 量、雲母(小・中) 少量を含む。	焼成良好。口縁部～体部外面 の一部に煤。
83 深鉢	推定口径 34.4(1/5)	口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-黒褐色～に ぶい赤褐色。内一 黒褐色。白色砂粒(小・中・大) やや 多量、雲母(小・中) 少量、角閃石 (小・中) 少量を含む。生跡西端。	外・内・断-灰黃褐色～に ぶい褐色。内一 黒褐色～褐灰色。白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母(小・中) 少量、角閃石 (小・中) 少量を含む。生跡西端。	焼成良好。口縁部外面・ 内面に煤。
84 深鉢	推定口径 29.4(1/5)	口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-灰黃褐色～に ぶい褐色。白色砂粒(小・中・大) 多 量を含む。生 跡西端。	外・内・断-灰黃褐色～に ぶい褐色。内一 黒褐色～褐灰色。白色砂粒(小 ・中・大) やや多量、雲母(小・中) 少量、 角閃石(小・中・大) 多量を含む。生 跡西端。	焼成良好。口縁部～体部 外面・内面に煤。
85 深鉢	推定口径 28.4(1/5)	口縁部-粘土紐接合痕残 存。ナデ。体部-ヘラケズ リ。 内面 ナデ。	外・内・断-灰黃褐色。白色砂粒(小 ・中・大) やや多量、雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。 生跡西端。	外・内・断-灰黃褐色。白色砂粒(小 ・中・大) やや多量、雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。	焼成良好。口縁部内面に 煤。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
86 深 鉢	推定口径 32.8(1/4)	外面 ナデ。 内面 ナデ。	外・内・断-灰黄褐色。白色砂粒(小・中)微量、角閃石(小・中)微量、雲母(小・中)微量を含む。	焼成良好。口縁部内面に 様。	
87 深 鉢	口縁部～体部破片	外面 ケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-褐灰色～にぶい黄褐色。 白色砂粒(小・中・大)少量、雲母(小・中)少 量、角閃石(小・中)少 量を含む。	焼成良好。口縁部～体部 外一面にぶい黄褐色。 口縁部内面の一部に焼 成。	
88 深 鉢	口縁部破片	外面 ケズリ。 内面 ナデ。	外・内・新-褐灰色～にぶい黄褐色。白 色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母 (小・中)少量、角閃石(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部内面に 様。	
89 深 鉢	口縁部破片	外面 ナデ。 内面 ナデ。	外・内・断-黒褐色～灰褐色。白色砂 粒(小・中)やや多量、雲母(小・ 中)少量、角閃石(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部外 面一面に焼 成。	
90 深 鉢	口縁部破片	外面 ケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-赤褐色。 白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母 (小・中)少量、角閃石(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。	
91 深 鉢	口縁部破片	外面 ケズリのものち、一部ヘラミ ガキ。 内面 ナデ。	外・内・断-灰褐色～にぶい赤褐色。 白色砂粒(小・中・大)多量、雲母 (小・中)多量、角閃石(小・中)多 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。	
92 深 鉢	口縁部破片	口唇部に突起。 外面 ケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-灰褐色。 白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲 母(小・中・大)少量、角閃石(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。口縁部～体部 外一面にぶい褐色。 口縁部内面に焼 成。	

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
93 深 鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外一にぶい赤褐色。内・断一にぶい橙色。第5章「土器胎土の砂礫観察」に記載。	外一にぶい赤褐色。内・断一にぶい橙色。口縁部～体部外面に煤。	焼成良好。
94 深 鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外一に暗赤褐色～橙色。白色砂粒(小・中)少 量、角閃石(小・中)少量、雲母(小・中)少 量、赤色粒子(小・中)少 量。生駒西麓。	外一に暗赤褐色。内・断一にぶい褐色。 (小・中)少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。
95 深 鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外一灰褐色。内・断一にぶい褐色。 白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲 母(小・中)少 量、角閃石(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	外一灰褐色。内・断一にぶい褐色。 白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲 母(小・中)少 量、角閃石(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。
96 深 鉢	推定口径 40.0(1/6)	口唇部にキザミメ(V字)。 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外一灰褐色～灰白色。内一 黒褐色。白色砂粒(小・中・大)や 多量、雲母(小・中・大)多量、角閃 石(小・中)や多量を含む。生駒西 麓。	外一断一にぶい赤褐色。内一 黒褐色。白色砂粒(小・中・大)や 多量、雲母(小・中・大)多量、角閃 石(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。
97 深 鉢	推定口径 39.4(1/6)	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外一暗赤灰色～灰白色。内・断一にぶ い褐色。白色砂粒(小・中・大)や 多量、雲母(小・中)少 量、角閃石(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	外一暗赤灰色～灰白色。内・断一にぶ い褐色。白色砂粒(小・中・大)や 多量、雲母(小・中)少 量、角閃石(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。
98 深 鉢	推定口径 26.0(1/6)	口唇部にキザミメ(D字)。 粘土斑接合部異様。 によるケズリ。 内面 ナデ。	外一灰褐色。内・断一にぶい褐色。 白色砂粒(小・中・大)を少量、雲母 (小・中)、角閃石(小・中)を少 量含む。生駒西麓。	外一灰褐色。内・断一にぶい褐色。 白色砂粒(小・中・大)を少量、雲母 (小・中)、角閃石(小・中)を少 量含む。生駒西麓。	焼成良好。
99 深 鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(V字)。 外面 ナデ。	外一灰褐色～灰白色。内・断一にぶい 褐色。白色砂粒(小・中・大)や 多量、雲母(小・中)少 量、角閃石(小 ・中)少 量を含む。生駒西麓。	外一灰褐色。内・断一にぶい 褐色。白色砂粒(小・中・大)や 多量、雲母(小・中)少 量、角閃石(小 ・中)少 	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存量) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
100 深 鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。外面 粘土組接合痕残存。ナデ。内面	外一黒褐色。内・外一黒褐色～にぶい褐色。白色砂粒(小・中・大)多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西鑑。	焼成良好。外面・内面に煤。	焼成良好。外面・内面の一部に黒斑。
101 深 鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(V字)。外面 口縁部一粘土研接合痕残存。ナデ。体部へげびり。内面	外一灰褐色。内一にぶい赤褐色。白色砂粒(小・中・大)少量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西鑑。	焼成良好。断一にぶい赤褐色。白色砂粒(小・中・大)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西鑑。	焼成良好。断一にぶい赤褐色。白色砂粒(小・中・大)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西鑑。
102 深 鉢	口縁部破片	外面 ナデのち、ヘラミガキ。内面 ナデ。	外一灰褐色。第5章「土器始土の砂礫觀察」に記載。	外一灰褐色。口縁部～体部外ににぶい褐色。口縁部外面に黒斑。	焼成良好。口縁部～体部外・内一にぶい黄褐色。断一浅黄褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量を含む。
103 深 鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。内面 ヘラミガキ。	外一灰褐色。内・断一にぶい赤褐色。内・断一にぶい赤褐色。内・断一に記載。	焼成良好。口縁部～体部外・内一にぶい黄褐色。内・断一に記載。	焼成良好。口縁部～体部外・内に煤。
104 深 鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。内面 ヘラミガキ。	外一灰褐色。内・断一にぶい赤褐色。内・断一に記載。	焼成良好。外一面に煤。	焼成良好。外一面に煤。
105 深 鉢	推定口径 35.0(1/5)	粘土組接合痕残存。体部一繩維束によるケアリ。口縁部一粘土研接合痕残存。ナデ。	外一灰褐色～にぶい灰色。第5章「土器始土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。体部外面・体部内面に煤。	焼成良好。外一面に煤。
106 深 鉢	体部破片	外面 ヘラケズリ。内面 ナデ。	外一断一にぶい褐色～橙色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量を含む。生駒西鑑。	焼成良好。外一面に煤。	焼成良好。外一面に煤。
107 深 鉢	口縁部～体部破片	外面 ヘラケズリのち、肩部にキザミメ(V字)。内面 粘土組接合痕残存。ナデ。	外一橙色。内・断一にぶい褐色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西鑑。	焼成良好。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調繕	色調・胎土	焼成・備考
108	深鉢	頭部 (1/6)	外面ヘラケズリ。 内面ヘラ状工具によるナデ。	外・断一にぶい褐色。内一にぶい橙色 へ赤色。白色砂粒(小・中・大)やや 多量、雲母(中)少量、角閃石(小・ 中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。体部外面の一 部に焼。体部内面に赤 色。
109	深鉢	底径 6.0 (完存)	外面体部へラケズリ。底部一 ナデ。 内面ナデ。	外・断一へラケズリ。内一 黄色。内一黃灰色。白色 砂粒(小・中・大)やや多量、雲母 (小・中)やや多量、角閃石(小・ 中)やや多量を含む。	焼成良好。
110	深鉢	底径 5.4 (完存)	外面体部へラケズリ。底部一 ナデ。 内面ナデ。	外・断一へラケズリ。内一褐色。 第 5 章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
111	深鉢	底径 5.0 (3/4)	外面体部へラケズリ。底部一 ナデ。 内面ナデ。	外・内一黒褐色。断一萌赤褐色。白色 砂粒(小・中・大)やや多量、雲母 (小・中)少量、角閃石(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に焼。
112	深鉢	底径 4.4 (完存)	外面体部へラケズリのち、 下半のみナデ。 内面ナデ。	外・断一にぶい橙色。内一黒褐色へ灰 褐色。白色砂粒(小・中・大)やや 多量。雲母(小・中)やや多量、角閃 石(小・中・大)やや多量を含む。 生駒西麓。	焼成良好。内面の一部に 焼。
113	深鉢	底径 4.6 (完存)	外面体部へラケズリのち、 ヘラナデ。底部一ナデの ち、周縁のみラミガキ。 内面ナデ。	外・断一にぶい褐色。内一黒色。白色 砂粒(小・中・大)やや多量、雲母 (小・中)少量、角閃石(小・中)少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。底部外面の一 部・内面に焼。
114	深鉢	底径 4.0 (1/2)	外面体部へラケズリ。底部一 ナデ。 内面ナデ。	外・断一橙色。内一黒褐色。第 5 章 「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。内面に焼。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
115 深鉢	底径 5.8 (完存)	外面 体部一へラケズリ。底部一ナデ。内面 ヘラ状工具によるナデ。	外・断一灰褐色。内一黒褐色。白色砂粒(小・中・大)多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西麓。	外・断一灰褐色。内一黒褐色。白色砂粒(小・中・大)多量、雲母(小・中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。
116 深鉢	底径 6.0 (完存)	外面 体部一へラケズリ。底部一ナデのち、周縁のみヘラミガキ。ナデ。	外・黒褐色～にぶい赤褐色。内一黒褐色。白色砂粒(小・中・大)多量、雲母(小・中)少量を含む。生駒西麓。	外・断一灰褐色～に明赤褐色。白色砂粒(小・中・大)多量、雲母(小・中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。外面の一部・内面に煤。
117 深鉢	底径 4.8 (完存)	外面 体部一へラケズリ。底部一ヘラ状工具によるナデ。内面 ヘラ状工具によるナデ。	外・断一黒褐色～にぶい黒色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外・断一黒褐色～にぶい黒色。内一黒褐色。白色砂粒(小・中・大)多量、角閃石(小・中・大)多量を含む。生駒西麓。	焼成良好。底面～全体外一面に煤。
118 深鉢	底径 4.8 (完存)	外面 体部一へラケズリ。底部一ナデ。内面 ナデ。	外・黒褐色～にぶい黒色。白色砂粒(小・中・大)多量、雲母(小・中・大)多量を含む。生駒西麓。	外・断一黒褐色～に明赤褐色。白色砂粒(小・中・大)多量、雲母(小・中・大)多量を含む。生駒西麓。	焼成良好。底面～全体外一面に煤斑。
119 深鉢	推定底径 5.6 (1/3)	外面 体部一へラケズリ。底部一ナデ。内面 ナデ。	外・断一にぶい黒色。内一灰褐色～にぶい黄褐色。白色砂粒(小・中・大)や多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西麓。	外・断一にぶい黒色。内一灰褐色～にぶい黄褐色。白色砂粒(小・中・大)や多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。外面の一部・内面の一部に煤。
120 深鉢	底径 3.4 (完存)	外面 体部一へラケズリ。底部一ナデ。内面 ナデ。	外・内・断一灰褐色～橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外・内・断一灰褐色～橙色。内一灰褐色～橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。体部内面に煤。
121 深鉢	推定底径 4.6 (完存)	外面 体部一へラケズリ。底部一ナデのち、周縁のみヘラミガキ。ナデ。	外・断一淡褐色～橙色。内一黒褐色。白色砂粒(小・中・大)多量、雲母(小・中)少量、黒色～灰色礫多量を含む。	外・断一淡褐色～橙色。内一黒褐色。白色砂粒(小・中・大)多量、雲母(小・中)少量、黒色～灰色礫多量を含む。	焼成良好。内面に煤。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
122 深鉢	底径 3.8 (完存)	外面 体部一ヘラケズリ。底部一ナデのち、周縁のみヘラミガキ。 内面 外面 体部一ヘラケズリのうち、底部一ナデ。糸の痕跡が残存。	外一にぶい橙色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量化。生駒西麓。	外一黒色。断一明褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量化。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。
123 深鉢	底径 5.0 (完存)	外面 体部一ヘラケズリのうち、周縁のみヘラミガキ。 内面 ナデ。	外一内一褐灰色～赤褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量化。生駒西麓。	外一にぶい橙色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量化。生駒西麓。	焼成良好。底部外表面の一節部・内面に煤。
124 深鉢	底径 5.3 (完存)	外面 体部一ヘラケズリ。底部一ナデのち、周縁のみヘラミガキ。 内面 ナデ。	外・断一にぶい褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中・大)やや多量、角閃石(小・中)少量化。生駒西麓。	外・断一にぶい褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中・大)やや多量、角閃石(小・中)少量化。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。
125 深鉢	底径 4.6 (完存)	外面 体部一ヘラケズリ。底部一ナデのち、周縁のみヘラミガキ。 内面 ヘラナデ。	外一にぶい橙色。内・断一黒褐色～灰黄褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量化。生駒西麓。	外一灰赤色～橙色。内一浅黄褐色。白色砂粒(小・中・大)少量化、雲母(小)微量を含む。	焼成良好。体部下半～底部外表面・底部内面に煤。
126 深鉢	底径 4.3 (3/4)	外面 体部一ヘラケズリ。底部一ナデのち、周縁のみヘラミガキ。 内面 ナデ。	外一灰赤色～橙色。内・断一にぶい褐色。白色砂粒(小・中・大)少量化、雲母(小)微量を含む。	外一黒色。内一浅黄褐色。白色砂粒(小・中・大)少量化、雲母(小)微量を含む。	焼成良好。
127 深鉢	底径 4.2 (完存)	外面 体部一ナデ。底部一ナデ。 内面 ナデ。	外・断一にぶい赤褐色。白色砂粒(小・中)やや多量、雲母(小・中)少量化、角閃石(小・中)少量化。生駒西麓。	外・内・断一暗赤灰色～にぶい赤褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量化、角閃石(小・中)少量化。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。
128 深鉢	底径 5.2 (完存)	外面 体部一ナデ。底部一ナデのち、周縁のみヘラミガキ 内面 ナデ。	外一内一暗赤灰色～にぶい赤褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量化、角閃石(小・中)少量化。生駒西麓。	外一内一暗赤灰色～にぶい赤褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量化、角閃石(小・中)少量化。生駒西麓。	焼成良好。外表面の一部・内面の一部に煤。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
129 深 鉢	底径 4.8 (完存)	外面 体部一へラケズリ。底部一 内面 ヘラケズリ。	外一にぶい褐色。内・断一灰褐色。 白色砂粒(小・中・大) 多量、雲母 (小・中) やや多量、角閃石(小・ 中) や多量を含む。生駒西麓。	外一にぶい褐色。内・断一 白色砂粒(小・中・大) 多量、雲母 (小・中) やや多量、角閃石(小・ 中) や多量を含む。生駒西麓。	焼成良好。
130 深 鉢	底径 2.5 (完存)	外面 体部一ナデ。底部一ヘラミ ガキ。内面 ヘラナデのち、体部上半 のみへラケズリ。	外一黒褐色～にぶい赤褐色。内・断一 灰褐色。第 5 章「土器胎土の砂礫観 察」に記載。	外一黒褐色～にぶい赤褐色。内・断一 灰褐色。第 5 章「土器胎土の砂礫観 察」に記載。	焼成良好。
131 深 鉢	推定底径 6.8 (1/3)	外面 体部一へラケズリ。底部一 内面 ナデ。	外・内一にぶい褐色。断一黒褐色。白 色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 少量、角閃石(小・中) 少 量を含む。生駒西麓。	外・内一にぶい黒褐色。白色砂 粒(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 少量、角閃石(小・中) 少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。
132 深 鉢	底径 2.2 (完存)	外面 体部一ナデ。底部一ナデ。 内面 ナデ。	外一灰褐色。内・断一黒褐色。白色砂 粒(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 少量を含む。生駒西麓。	外・内・断一にぶい褐色～橙色。白色砂 粒(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 少量、角閃石(小・中) 少 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。
133 深 鉢	底径 7.0 (3/4)	外面 体部一ナデ。底部一ヘラミ ガキ。内面 ナデ。	外・内・断一にぶい褐色～橙色。白色砂 粒(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 少量を含む。生駒西麓。	外・内・断一にぶい褐色～橙色。白色砂 粒(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。
134 深 鉢	推定底径 9.4 (1/2)	外面 体部一ナデ。底部一ナデ。 内面 ヘラ状工具によるナデ。	外・内一浅黄褐色。断一明褐灰色。白 色砂粒(小・中) 少量、角閃石(小・ 中) 少量を含む。	外・内一暗赤灰色。断一浅黄褐色。 白色砂粒(小・中・大) 多量、雲母 (小) 微量、角閃石(小) 少量を含む。 生駒西麓。	焼成良好。
135 深 鉢	底径 11.4 (完存)	外面 体部一ナデ。底部一ヘラケ ガキ。内面 ヘラミガキ。	外・内一暗赤灰色。断一浅黄褐色。 白色砂粒(小・中・大) 多量、雲母 (小) 微量、角閃石(小) 少量を含む。 生駒西麓。	外・内一暗赤灰色。断一浅黄褐色。 白色砂粒(小・中・大) 多量、雲母 (小) 微量、角閃石(小) 少量を含む。 生駒西麓。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存部) (単位 cm)	感形・調整	色調・胎土	焼成・備考
136 深 鉢	推定底径 6.2(1/4)	外面ナデ。 内面ナデ。	外・内一褐色～にぶい褐色。 白砂粒(小・中・大)少 量、雲母(小・中)少量、角閃石(小 ・中)少量を含む。	焼成良好。	
137 深 鉢	底径 8.0 (完存)	外面体部一粘土紐接合痕残存。 ナデのうち、一部ヘラケズ リ。底部ナデ。 体部一ヘラ状工具によるナ デ。底部一ナデ。	外・内・断一灰黄褐色。 白色砂粒(小・中・大)やや多 量、雲母(小・中)少量含む。 生駒西麓。	焼成良好。体部～底部外 面、底部内面に焼。	
138 深 鉢	推定底径 11.0(1/4)	外面体部一ヘラケズリ。 ナデ。	外・断一黒褐色～にぶい褐色。 白色砂粒(小・中・大)やや多 量、雲母(小・中)少量、角閃石(小 ・中)少量を含む。	焼成良好。底部外 面～底部内面に焼。	
139 深 鉢	体部～底部破片	外面体部一ヘラケズリのうち、 ヘラ状工具によるナデ。底 部一ヘラミガキ。 ナデ。	外・断一にぶい褐色。 白色砂粒(小・中・大)少 量、雲母(小・中)少量、 角閃石(小・中)少 量を含む。	焼成良好。底部内面に 焼。	
140 浅 鉢	推定口径 22.4(1/8)	口唇部に突起。 外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外・内一黒褐色。 断一にぶい褐色。 白砂粒(小・中・大)少 量、雲母(小 ・中)微量、角閃石(小・中)微量を 含む。	焼成良好。黑色研。	第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載
141 浅 鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。	外・内一黒褐色。 断一にぶい褐色。白 砂粒(小・中・大)少 量、雲母(小 ・中)微量、角閃石(小・中)微量を 含む。	焼成良好。黑色研。	生駒西麓。
142 浅 鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 口縁部一ヘラミガキ。 ナデ。	外・内一黒色。 断一にぶい褐色。白色 砂粒(小・中・大)やや多 量、雲母(小・中)少 量を含む。	焼成良好。黑色研。	生駒西麓。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
143	浅	鉢 体側破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一褐灰色～淡褐色。内一灰褐色。断一白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西鑿。	焼成良好。体部外面に黒斑。
144	浅	鉢 推定口径 34.0(1/5)	口唇部に突起。 外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一内一黒色。断一黒褐色～淡黄色。外「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。黒色磨研。
145	浅	鉢 推定口径 30.6(1/8)	口唇部に突起。 外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一浅黃褐色～黒褐色。内一灰黃褐色。 断一浅黃褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。口縁部外面に黒斑。
146	浅	鉢 推定口径 32.2(1/8)	口縁部一ナデ。体部一ヘラケズリ。 外面 ヘラミガキ。 内面 ナデ。	外一内一褐灰色～灰褐色。断一黒褐色～淡黃褐色。外「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。外面の一部・底面の一部に様な粗製土器。
147	浅	鉢 推定口径 27.4(1/6)	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生駒西鑿。	焼成良好。黒色磨研。
148	浅	鉢 体側破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一内一褐灰色～灰褐色。断一白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中・大)やや多量、角閃石(小・中)やや多量を含む。生駒西鑿。	焼成良好。外面の一部に黒斑。
149	浅	鉢 体側破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一内一黒褐色。断一灰褐色～にぶい橙色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、角閃石(小・中・大)少量を含む。生駒西鑿。	焼成良好。黒色磨研。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
150 浅 脈	口縁部破片	外面 口縁部一ナデ。体部一ヘラ 内面 ナデ。	外一褐色。内一にぶい橙色。白色砂粒(小・中 ・大) 少量、雲母(小・中) やや多 量、角閃石(小・中) 少量を含む。	外一褐灰色。内一にぶい橙色。白色砂粒(小・中 ・大) 少量、雲母(小・中) やや多 量、角閃石(小・中) 少量を含む。	焼成良好。外面に黒斑。 粗製土器。
151 浅 脈	鉢	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一黒褐色～にぶい橙色。白色砂粒(小・ 中・大) やや多量、雲母(小・中) 少 量、角閃石(小・中) 少量を含む。生 物跡西龍。	外一黒褐色～にぶい橙色。内一褐灰 色。断一にぶい橙色。白色砂粒(小・ 中・大) やや多量、雲母(小・中) 少 量、角閃石(小・中) 少量を含む。生 物跡西龍。	焼成良好。黑色磨研。
152 浅 脈	鉢	推定口径 42.8(1/5)	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。口縁部下に沈線。 口縁部一ナデ。	外一黒褐色～にぶい橙色。白色砂粒(小・中 ・大) 少量を含む。第5章「土器胎土の砂礫觀 察」に記載。	焼成良好。黑色磨研。
153 浅 脈	鉢	推定口径 30.8(1/6)	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一黒褐色～にぶい橙色。内一灰 褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」 に記載。	焼成良好。外面の一部・ 内面の一部に黒斑。
154 浅 脈	鉢	体部残 (1/6)	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外・内・断一橙色。第5章「土器胎土 の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
155 浅 脈	鉢	模 (1/6)	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一黒色～にぶい褐色。内一にぶい褐 色。断一浅黄褐色。白色砂粒(小・ 中) 少量、雲母(小・中) 微量、角閃 石(小・中) 微量を含む。生駒西龍。	焼成良好。外面の一部、 内面の一部に様。
156 浅 脈	鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外一黒褐色。内一にぶい黃褐色。 白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲 母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西龍。	焼成良好。黑色磨研。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
157	浅鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外・内 - 黒褐色。断一橙色。白色砂粒 (小・中・大) やや多量、雲母(小・ 中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含 む。生駒西麓。	焼成良好。黒色磨研。
158	浅鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外・内 - 黒褐色。断一浅黃橙色。白色 砂粒(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 微量、角閃石(小・中) 微 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。黒色磨研。
159	浅鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外・内 - ぶい赤褐色。断一橙色。第 5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。黒色磨研。
160	浅鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外・断一褐色。内 - 黑色。白色砂粒 (小・中) 少量、雲母(小・中) 微 量、角閃石(小・中) 少量を含む。生 駒西麓。	焼成良好。黒色磨研。
161	浅鉢	口縁部～体部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外 - 黑褐色。内 - 黑色。断一浅黃橙色 第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。黒色磨研。
162	浅鉢	体部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外 - 黑褐色。内 - 新一い赤褐色。第 5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。黒色磨研。
163	浅鉢	体部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外 - ぶい赤褐色。内 - 黑褐色。断一 橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」 に記載。	焼成良好。
164	浅鉢	推定口径 28.6(1/8)	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外 - 黑褐色～灰褐色。断 - 浅黃橙 色。白色砂粒(小・中) 少量、雲母 (小・中) 微量、角閃石(小・中) 微 量を含む。生駒西麓。	焼成良好。黒色磨研。
165	浅鉢	推定口径 12.5(1/8)	外面 ナデ。 内面 ナデ。	外・内 - 断一明赤褐色。白色砂粒(小 ・中・大) 多量、雲母(小・中) 少量 を含む。	焼成良好。底部内面の一 部に黒斑。

遺物 番号	器 種	法 量 (単位 cm)	成 形 ・ 調 整	色 調 ・ 胎 土	焼 成 ・ 備 考
166 深 鉢	口縁部破片	外面 ナデのち、ヘラミガキ。 内面 ナデ。	外・断一褐色灰色～にぶい橙色。内・黒褐色。白色砂粒（小・中・大）やや多量、雲母（小・中）少量、角閃石（小・中）少量を含む。生軋西端。	外・断一褐色灰色。内・黒褐色。白色砂粒（小・中・大）やや多量、雲母（小・中）少量、角閃石（小・中）少量を含む。生軋西端。	焼成良好。体部外面の一部に黒斑。
167 深 鉢	口縁部破片	外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・内一黒褐色。断一浅黄褐色。白色砂粒（小・中）少量、雲母（小・中）少量、角閃石（小）微量を含む。生軋西端。	外・内一黒褐色。断一浅黄褐色。白色砂粒（小・中）少量、雲母（小・中）少量、角閃石（小）微量を含む。生軋西端。	焼成良好。
168 深 鉢	口縁部破片	口唇部にB突起。 外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	口唇部にB突起。 白色砂粒（小・中）やや多量、雲母（小・中）少量、角閃石（小・中）少量を含む。生軋西端。	口唇部にB突起。 白色砂粒（小・中）やや多量、雲母（小・中）少量、角閃石（小・中）少量を含む。生軋西端。	焼成良好。体部外面に黒斑。
169 深 鉢	口縁部～体部破片	補修孔1個あり。 外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	補修孔1個あり。 白色砂粒（小・中）やや多量、雲母（小・中）少量、角閃石（小・中）少量を含む。生軋西端。	外・内一黒褐色。断一にぶい黄褐色。白色砂粒（小・中）やや多量、雲母（小・中）少量を含む。生軋西端。	焼成良好。外面の一部、内面の一部に黒斑。
170 深 鉢	口縁部～底部破片	外面 ヘラミガキののち、円弧状の集合欠線。 内面 ナデ。	外面 ヘラミガキののち、七宝文。 内面 ナデ。	外面 ヘラミガキののち、七宝文。 内面 ヘラミガキののち、七宝文。	焼成良好。底部外面の一部に黒斑。
171 鉢	体部破片				
172 深 鉢	口縁部破片	外面 口縁部下に突張り付け。 ナデ。 内面 ヘラミガキ。	外・内・断一にぶい褐色。白色砂粒（小・中・大）少量、雲母（小・中）少量、角閃石（小・中）少量含む。生軋西端。	外・内・断一にぶい褐色。白色砂粒（小・中・大）少量、雲母（小・中）少量、角閃石（小・中）少量含む。生軋西端。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
173	ミニチュア鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 口縁部一ナデ。体部へラ ケズリ。 内面 ナデ。	外・断一灰褐色～にぶい褐色。断一橙 色。白色砂粒(小・中)やや多量、角 閃石(小・中)微量を含む。	焼成良好。
174	?	口縁部破片	口唇部にB突起、キザミメ。 外面 口縁部～沈線、沈線間に刺 突文。体部一端文LR施文 のち、沈線。細文LR。 内面 ナデ。	外・内一褐灰色～にぶい赤褐色。断一 浅黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫観 察」に記載。	焼成良好。
175	?	口縁部破片	口唇部にB突起、キザミメ。 外面 口縁部～沈線、沈線間に刺 突文。体部一端文LR。 内面 ナデ。	外一にぶい赤褐色。内・断一にぶい橙 色～灰褐色。第5章「土器胎土の砂礫 観察」に記載。	焼成良好。
176	?	口縁部破片	口縁端部にキザミメ。 外面 沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデ。	外・断一にぶい褐色。内一灰褐色。第 5章「土器胎土の砂礫観察」に記載。	焼成良好。
177	?	口縁部破片	口唇部にキザミメ。 外面 沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデ。	外・内・断一橙色。第5章「土器胎土 の砂礫観察」に記載。	焼成良好。
178	?	口縁部破片	口唇部にキザミメ。 外面 沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデ。	外一にぶい褐色。内・断一にぶい赤褐色。 色～にぶい褐色。第5章「土器胎土の 砂礫観察」に記載。	焼成良好。
179	?	破 片	外面 羊歯状文。 内面 ナデ。	外・断一にぶい黄褐色。内一橙色。第 5章「土器胎土の砂礫観察」に記載。	焼成良好。
180	?	体部破片	外面 沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデ。	外・内・断一黒褐色～にぶい橙色。第 5章「土器胎土の砂礫観察」に記載。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
181	?	体部破片	外面 沈線、沈線間に刺突文。縄文L.R。 内面 ヘラミガキ。	外・内 - 黒褐色。断 - 褐灰色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
182	?	体 部 (1/6)	外面 沈線、沈線間に刺突文。縄文L.R. 内面 ナデ。	外・内 - 断 - 灰褐色～にぶい橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
183	?	体部破片	外面 半削状。縄文R.L. 内面 ナデ。	外・断 - にぶい褐色～灰褐色。内 - にぶい橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。内面に赤彩質。
184	?	体部破片	外面 沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデのち、ヘラミガキ。	外 - 灰褐色。内 - 断 - 黑褐色～にぶい黃褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
185	?	底 部 (完存)	外面 縄文R.L. 内面 ヘラケズリ。	外・断 - にぶい褐色～黒色。内 - 黑褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。外面上に煤。
186	浅 鉢	口縁部破片	外面 沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデ。	外・断 - にぶい赤褐色。内 - 極灰色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
187	浅 鉢	口縁部破片	外面 沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデ。	外・内 - にぶい赤褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
188	浅 鉢	口縁部破片	外面 縄文R.L. 内面 ヘラミガキ。	外・断 - 灰褐色～にぶい赤褐色。内 - 黑褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。体部下半に黒斑。
189	?	体部破片	外面 縄文無筋R. 内面 ナデ。	外・断 - 黑色～暗赤灰色。内 - 明赤褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
190	?	体部破片	外面 沈線、縄文L.R. 内面 ナデ。	外・内 - 断 - 橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
191	?	体部破片	外面 沈錐、繩文L.R。 内面 ナデ。	外・内一褐色。断一黒褐色～灰褐色。 白色砂粒(小・中) 少量、雲母 (小・中) 微量を含む。	焼成良好。
192	?	体部破片	外面 沈錐、繩文L.R。 内面 ナデ。	外・内・断一灰褐色～にぶい橙色。第 5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
193	?	体部破片	外面 沈錐、繩文無鉢R. 内面 ナデ。	外・内・断一灰褐色～にぶい黄褐色。 第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
194	?	体部破片	外面 沈錐、繩文無鉢R。 内面 ナデ。	外・内・断一褐灰色。白色砂粒(小・ 中) 少量を含む。	焼成良好。
195	?	体部破片	外面 繩文L.R. 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい褐色～檀色。第5 章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。内面に煤。
196	?	体部破片	外面 繩文L.R. 内面 ナデ。	外一暗赤褐色。内一にぶい褐色。断一 にぶい褐色。第5章「土器胎土の砂礫 觀察」に記載。	焼成良好。
197	?	体部破片	外面 繩文L.R. 内面 ナデ。	外一黒褐色。内一黑色。断一黒色～浅 黃褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」 に記載。	焼成良好。内面に煤。
198	?	体部破片	外面 繩文L.R. 内面 ナデ。	外一灰褐色～にぶい赤褐色。 第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記 載。	焼成良好。
199	?	体部破片	外面 繩文L.R. 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい赤褐色。 第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記 載。	焼成良好。
200	?	体部破片	外面 繩文L.R.のち、一部ナデ 内面 ナデ。	外・内一にぶい橙色。断一明褐色。 第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記 載。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
201	?	体部破片	外面 繩文 L.R。 内面 ナデ。	外一灰褐色。内一にぶい褐色。断一黒色～にぶい褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
202	?	体部破片	外面 繩文 L.R。 内面 ナデ。	外一黒褐色。内一断一褐灰色～にぶい褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。外面・内面に
203	?	体部破片	外面 繩文 L.R。 内面 ナデ。	外一にぶい褐色。内・断一黒褐色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小)微量を含む。	焼成良好。
204	?	体部破片	外面 繩文 L.R。 内面 ナデ。	外一明赤褐色。内一灰褐色。断一にぶい褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。外面・内面の一部に焼。
205	?	体部破片	外面 繩文 L.R。 内面 ナデ。	外一黒褐色～灰灰色。内・断一灰褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。外面に焼。
206	?	体部破片	外面 繩文無節 L。 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい褐色。(小・中)少量を含む。	焼成良好。
207	?	体部破片	外面 繩文無節 R。 内面 ナデ。	外一黒褐色～灰褐色。内一にぶい赤褐色。断一黒色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
208	?	体部破片	外面 繩文 RL。 内面 ヘラミガキ。	外一にぶい褐色。断一黒褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
209	?	体部破片	外面 繩文 LR。 内面 ナデ。	外一黒褐色。断一明褐灰色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
210	体部破片	外面 繩文 RL。 内面 ヘラミガキ。	外一黒褐色。断一明褐灰色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。	
211	体部破片	外面 繩文無節 R。 内面 ナデ。	外一にぶい黄褐色。内一灰褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。	

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
212	?	体部破片	外面 結節繩文。縄文LR。 内面 結節。	外・内にぶい褐色。断・浅黄褐色。 第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
213	?	体部破片	外面 ナデのち、結節繩文。 内面 ナデ。	外・褐灰色。内・ぶい褐色。断・にぶい 褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」 に記載。	焼成良好。
214	?	体部破片	外面 縄文RL。 内面 ナデ。	外・橙色。内・断・黒褐色～浅黄褐色。 第5章「土器胎土の砂礫觀察」に 記載。	焼成良好。底部内面に焼 成良好。
215	壺	底径 2.6 (完存)	頸部下に沈捺。体部一へラ ミガキ。底部一ナデ。 颈部下、体部に粘土斑接合 痕残存。ナデ。	外・浅黄褐色～黒褐色。内・黒褐色。 第5章「土器胎土の砂 礫觀察」に記載。	焼成良好。
216	深鉢	推定口径 22, 2(1/5)	外面 ナデのち、口縁部下にへラ 状工具で刺突をめぐらす。 ナデ。	外・灰褐色。内・灰褐色～にぶい褐色。 断・黒褐色。第5章「土器胎土の 砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
217	?	口縁部破片	外面 ヘラ状工具によるナデの ち、口縁部にへラ状工具に よる押圧。 内面 ヘラ状工具によるナデ。	外・内・断・黒褐色。白色砂粒(小・ 中・大) やや多量、角閃石(小・中) 少量を含む。	焼成良好。
218	?	体部破片	外面 沈捺。 内面 ヘラミガキ。	外・内・にぶい褐色。第5章「土 器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
219	深鉢	口縁部～体部破片	外面 口縁部一ナデのち、へラ 状工具による押圧。体部一 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断・灰褐色。白色砂粒(小・ 中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含 む。	焼成良好。内面の一部に 焼成。

遺物番号	器種	法量(現存率)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
220 深鉢	口縁部～体部破片	口唇部にキザミ。 外面二枚目条縫ののち、ヘラ状工具による押ししきぎ。 内面ナデ。	外一にぶい褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外一にぶい褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
221 深鉢	口縁部～体部破片	ヘラ状工具によるナデののち、ヘラ状工具によつてコの字状の刺突。 内面ヘラミガキ。	外・内一黒褐色。断一にぶい橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外・内一黒褐色。断一にぶい橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存部) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
224 深 鉢	推定口径 37.4(1/5)	波状口縁。 外面 口縁部へラケズリ。体部 内面 ナデ。	外・内・断-灰黄褐色。白色砂粒(小 ・中) 少量、雲母(小・中) 微量、 角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西 館。	焼成良好。体部外面に 煤。口縁部外面に 煤。	
225 深 鉢	推定口径 16.6(1/3)	波状口縁。 外面 口縁部-ナデ。体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-灰黄褐色。白色砂粒(小 ・中) 少量、雲母(小・中) 少量、 角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西 館。	焼成良好。口縁部外面、 口縁部から脚部下半内面 に煤。	
226 深 鉢	推定口径 18.2(1/5)	波状口縁。 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外一にぶい褐色。内・断-にぶい褐色。 白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲 母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西館。	焼成良好。口縁部-脚部 外一面にぶい褐色。	
227 深 鉢	推定口径 17.2(1/4)	外一面 内面 ナデ。	外一灰黄褐色。内一にぶい黃褐色。 断-灰黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫 觀察」に記載。	焼成良好。口縁部-体部 外一面、体部下半に煤。	
228 深 鉢	推定口径 42.4(1/7)	口縁部にキザミメ(D字)。 外面 口縁部-ナデ、体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外一にぶい赤褐色。白色砂粒 (小・中) やや多量、雲母(小・中) やや多量、角閃石(小・中) やや多量 を含む。生駒西館。	焼成良好。口縁部外面に 煤。	
229 深 鉢	推定口径 29.4(1/5)	外面 口縁部-ナデ。 内面 ナデ。	外・内・断-にぶい黄褐色。第5章 「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。口縁部外面・ 内面に黒斑。	
230 深 鉢	推定口径 15.6(1/5)	外面 口縁部-ナデ、体部-ヘラ ケズリ。 内面 ナデ。	外一褐色。内・断-灰褐色。白色砂 粒(小・中・大) やや多量、雲母(小 ・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を 含む。生駒西館。	焼成良好。外面・内面に 煤。	

遺物番号	器種	法量(現存部) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
231 深 鉢	推定口径 30.6(1/6)	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-灰黄褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。 生鉄西端。	焼成良好。口縁部外面に 煤。口縁部内面に黒斑。	
232 深 鉢	口縁部破片	外面 二枚貝条模。 内面 二枚貝条模。	外・断-にぶい黄橙色。内-黑色。白色砂粒(小・中・大)少量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生鉄西端。	焼成良好。口縁部外面、 内面に煤。	
233 深 鉢	口縁部破片	波状口縁。 外面 ヘラ状工具によるナデ。 内面 ナデ。	外・断-にぶい黄橙色。内-黑色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。口縁部外面に 黒斑。	
234 深 鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(O字)。 外面 ナデ。 内面 ナデ。	外・内・断-灰黄褐色。白色砂粒(小・中)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生 鉄西端。	焼成良好。口縁部外面・ 内面に煤。	
235 深 鉢	口縁部～体部破片	外画 口縁部一ナデ。体部一ヘラ ケズリ。肩部一キサミメ。 内面 ナデ。	外・内・断-にぶい黄橙色。第5章 「土器胎土の砂礫觀察」に記載。		
236 深 鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 口縁部下にキザミメ(0字) 突起貼り付け。 内面 ナデ。	外・内・断-灰黄褐色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。 生鉄西端。	焼成良好。口唇部に黒 斑。	
237 深 鉢	推定底径 4.4(1/3)	外画 体部一ヘラケズリ。底部一 ナデ。 内面 ナデ。	外・内・断-にぶい黄橙色。白色砂粒(小・中)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。 生鉄西端。	焼成良好。体部下半外 面に煤。	

遺物 番号	器種	法量 (現存率) (単位 cm)	外 面	底 部	内 面	成形・調整	色調	胎土	焼成・備考
238 深 鉢	底径 5.6 (完存)	体部一へラケズリ。底部一ナデのち、周縁のみヘラケズリ。	外 面	外 面	内 面	ナデ。	外一にぶい褐色。内一断一灰黄色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。		焼成良好。
239 深 鉢	推定底径 6.4(1/4)	体部一へラケズリのち、ナデ、底部一ナデ。	外 面	外 面	内 面	ナデ。	外一断一にぶい褐色。内一褐灰色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小・中)微量、角閃石(小・中)微量を含む。生駒西麓。		焼成良好。
240 深 鉢	推定底径 5.0(1/2)	体部一へラケズリ。底部一ナデ。	外 面	外 面	内 面	ナデ。	外一断一灰褐色。内一黒色。白色砂粒(小・中)やや多量、雲母(小・中)少量を含む。生駒西麓。		焼成良好。
241 深 鉢	推定口径 33.6(1/6)	口縁部下に突起貼り付け。口縁部一ナデ。体部一へラケズリ。工具によるナデ。	外 面	外 面	内 面	ナデ。	外一内一にぶい黄橙色。断面一黒色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。		焼成良好。口縁部外面・内面に煤。口縁部内面に黒斑。
242 深 鉢	推定底径 20.0(1/6)	ヘラ粘工具によるナデ。	外 面	外 面	内 面	ナデ。	外一内一黒色。断一灰オリーブ色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量化。生駒西麓。		焼成良好。
243 深 鉢	底部破片	口縁部直下に突起貼り付け。口縁部一ナデ。体部一へラケズリ。	外 面	外 面	内 面	ナデ。	外一内一にぶい褐色。白 色。白色砂粒(小・中・大)やや多 量、雲母(小・中)少量化。角閃石(小 ・中)少量化。生駒西麓。		焼成良好。体部下半外 面に煤。
244 深 鉢	底部破片		外 面	外 面	内 面	ナデ。	外一内一にぶい黄橙色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小・中)少量化、角閃石(小・中)微量を含む。生駒西麓。		焼成良好。底部内面に煤。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
245	鉢	推定口径 15.2(1/6)	外面 口縁部下に突帯貼り付け。 口縁部-ナデ。体部-ヘラ ミガキ。 内面 ナデ。	外-にぶい橙色。内-灰黄褐色。断- 黄灰色。第5章「土器胎土の砂礫觀 察」に記載。	焼成良好。体部外面・内 面に焼。
246	鉢	推定口径 29.2(1/8)	補修孔(両面穿孔)が1孔あり。 外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラ部-ヘラミガキ。体部 -ヘラ状工具によるナデ。	外-内-黒色。断-灰黄色。白色砂粒 (小・中) 少量を含む。	焼成良好。
247	鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ナデ。	外-内・断-橙色。第5章「土器胎土 の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
248	鉢	口縁部破片	外面 ナデ。 内面 ナデ。	外-内・断-灰白色。第5章「土器胎 土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
249	浅	鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外-にぶい赤褐色。内-断-灰黄褐色。 白色砂粒(小・中) やや多量、雲 母(小) 少量、角閃石(小) 少量含 む。生駒西端。
250	浅	鉢	口縁部破片	口唇部、突帯にキザミメ(D字)。 外-二枚目条模。	外-内・断-にぶい黄褐色。第5章「土 器胎土の砂礫觀察」に記載。
251	浅	鉢	口縁部破片	外面 口縁部下に突帯貼り付け。 口縁部下に沈線、ナデ。	白色砂粒 (小・中) 少量、雲母(小) 微量、角 閃石(小) 微量を含む。生駒西端。
252	浅	鉢	口縁部破片	外面 口縁部下に突帯貼り付け。 内面 ナデ。	外-断-灰黄褐色。内-黒色。白色砂 粒(小・中) 少量、雲母(小・中) 少 量、角閃石(小・中) 少量を含む。
253	浅	鉢	口縁部破片	外面 口縁部下に突帯貼り付け。 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	白色砂粒(小・中) やや多量、雲 母(小) 少量を含む。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
254	鉢	口縁部破片	口唇部にB突起。キザミ。 外面 口縁部-沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデ。	外・内・断-黒褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
255	?	口縁部破片	口唇部にキザミ。 外面 沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデ。	外・内・断-黒褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
256	鉢	口縁部破片	口唇部にキザミ。 外面 沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデ。	外・内・断-黒褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
257	?	口縁部破片	口唇部にB突起。 外面 沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデ。	外・内-灰黃褐色。断-黒色。第5章 「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
258	?	体部破片	口縁部にB突起。 外面 沈線、沈線間に刺突文。 内面 ナデ。	外-黒褐色。内-断-灰黃色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小)少量、 黒色砂粒(小)少量を含む。	焼成良好。
259	?	体部破片	外面 繩文L.R。 内面 ナデ。	外・内-断-黒褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
260	?	体部破片	外面 繩文L.R。結節繩文。 内面 ナデ。	外・内・断-黒褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
261	?	体部破片	外面 繩文R.L。 内面 ヘラミガキ。	外-断-灰黃色。内-黒色。第5章 「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
262	?	体部破片	外面 繩文L.R。 内面 ヘラケズリ。	外・内・断-黒褐色。白色砂粒(小・中・大)少量、雲母(小・中)微量を 含む。	焼成良好。
263	?	体部破片	外面 繩文L.R。 内面 ナデ。	外・内・断-黒褐色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小)微量を含む。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
264	?	体部破片	外面 繩文RL。 内面 ヘラミガキ。	外・内・断一にぶい褐色。第5章「土器胎土の分析觀察」に記載。	
265	?	体部破片	外面 繩文LR。 内面 ナデ。	器胎土の分析觀察(小)や多量、雲母(少)少量を含む。 外・内・断一灰白色。白色砂粒(小)少量を含む。	焼成良好。
266	深鉢	口縁部～体部破片	外面 口縁部～ナデのうち、ヘラ状工具を押圧。体部～ヘラケズリ。 内面 口縁部～ナデ。体部～ヘラケズリ。	外・内・断一灰褐色。第5章「土器胎土の分析觀察」に記載。	焼成良好。
267	?	口縁部～体部破片	外面 口縁部～ナデのうち、ヘラ状工具による押圧。体部～ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい赤褐色。第5章「土器胎土の分析觀察」に記載。	焼成良好。

第4層

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
268	?	口縁部破片	外面 口縁部一ナデ。背部一沈線 区画内側文 R.L. 内面 ナデ。	外・内・断-灰黄褐色。第5章「土器 胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
269	?	口縁部破片	波状口縁。外面に粘土組接合痕残 存。 外面 ナデ。 内面 ナデ。	外・断-にぶい橙色。内-黒色。白色 砂粒(小・中・大)やや多量、紫母 (小・中)少量、角閃石(小・中)少 量を含む。生駒西端。	焼成良好。口縁部外面に煤。 一部、口縁部内面に煤。
270	深 鉢	推定口径 35.2(1/5)	波状口縁。 外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・内-にぶい黄褐色。断-灰黄褐 色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に 記載。	焼成良好。口縁部-体部 外面に煤。
271	深 鉢	口縁部破片	口唇部にキザミミ(D字)。 外面 二枚貝杂质。 内面 ナデ。	外・断-灰黄色。内-黒色。白色砂粒 (小・中)少量、紫母(小)微量、角 閃石(小)微量を含む。生駒西端。	焼成良好。内面に煤。
272	深 鉢	口縁部破片	内面 二枚目条痕。 内面 二枚目条痕。	外・内・断-灰黄褐色。白色砂粒(小 ・中・大)やや多量、紫母(小・中) 少量、角閃石(小・中)少量を含む。	焼成良好。口縁部内面に 煤。
273	深 鉢	推定口径 29.2(1/6)	外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ。	外・内・断-灰黄色。第5章「土器胎 土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。口縁部-体部 上半外面に煤。口縁部- 体部内面に黒斑。
274	深 鉢	推定口径 38.4(1/6)	外 面 口縁部へラケズリ。 内 面 ナデ。	外-灰黄褐色。内・断-にぶい黄 色。白色砂粒(小・中)やや多量、紫 母(小・中)少量、角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西端。	焼成良好。口縁部-体部 外面に煤。
275	深 鉢	推定口径 26.4(1/6)	口唇部にキザミミ(D字)。 外面 口縁部一ナデのち、集合 沈線。体部へラケズリ。 内 面 ヘラケズリ。	外・内・断-にぶい黄褐色。第5章 「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。外面の一部に 煤。口縁部外面に赤彩。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
276 深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。体部へラケズリ。	外一灰黄褐色。内・断一にぶい黄橙色。白色砂粒(小・中)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。	焼成良好。	
277 深鉢	口縁部破片	外面 口縁部一ナデ。体部へラケズリ。 内面 ナデ。	外一褐灰色。内・断一に灰黄色。白色砂粒(小・中)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生胸西端。	焼成良好。口縁部~体部外面に煤。	
278 深鉢	推定口径 28.0(1/5)	外面 ナデ。 内面 ナデ。	外一内・断一にぶい黄橙色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小・中)微量、角閃石(小・中)微量を含む。生胸西端。	焼成良好。口縁部内面に煤。	
279 深鉢	推定口径 35.2(1/5)	外面 口縁部一ナデ。体部へラケズリ。 内面 ナデ。	外一内・断一にぶい黄橙色。白色砂粒(小・中)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。生胸西端。	焼成良好。口縁部内面に煤。	
280 深鉢	推定口径 31.4(1/6)	外面 口縁部一ナデ。体部へラケズリ。 内面 ナデ。	外一内・断一にぶい黄橙色。内一黑色。白色砂粒(小・中・大)少量、雲母(小・中)微量、角閃石(小・中)微量を含む。	焼成良好。体部外面、口縁部~体部内面に煤。	
281 深鉢	推定口径 7.6(1/4)	外面 体部へラケズリ。 内面 体部一ナデ。	外一断一にぶい黄橙色。内・断一灰黑色。白色砂粒(小・中・大)やや多量、雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量を含む。	焼成良好。	
282 深鉢	推定底径 5.4(1/4)	外面 体部へラケズリ。底部へラケズリのうち、周縁のみナデ。	外一内・断一灰黄色。白色砂粒(小・中)やや多量、雲母(小・中)少量を含む。生胸西端。	焼成良好。	

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
283 深鉢	推定底径 4.4(1/5)	外面 体部一ヘラケスリのうち、周縁のみナデ。内面 ナデ。	底部一ヘラケスリのうち、周縁のみナデ。	外・内・断一にぶい橙。白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。生駒西端。	焼成良好。底部外面に焼成良好。
284 深鉢	底径 6.0(1/2)	外面 体部一ヘラケスリのうち、外縁のみナデ。内面 ナデ。	底部一ヘラケスリのうち、外縁のみナデ。	外・内・断一灰白色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
285 深鉢	推定底径 6.4(1/4)	外面 体部一板状工具によるナデ。底部ナデ。内面 ナデ。	体部一板状工具によるナデ。	外・内一にぶい橙色。断一黒色。白色砂粒(小・中) やや多量、雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量、茶色砂粒(小・中) 少量を含む。	焼成良好。
286 深鉢	推定底径 7.4(1/5)	外面 体部一ヘラケスリ。底部一ナデ。内面 ナデ。	底部一ナデ。	外・断一灰黄色。内一にぶい褐色。白色砂粒(小・中・大) やや多量、雲母(小・中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含む。	焼成良好。
287 深鉢	推定口徑 31.4(1/6)	口唇部にキザミメ(V字)。口縁部下にキザミメ(V字)。突帯貼り付け。体部中位一ヘラケズリ。内面 ナデ。	口唇部にキザミメ(V字)。口縁部下にキザミメ(D字) 突帯貼り付け。体部中位一ヘラケズリ。内面 ナデ。	外・内一灰黄色。断一赤褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。口縁部～体部上半内面に焼成良好。
288 深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(V字)。口縁部下にキザミメ(D字) 突帯貼り付け。内面 ナデ。	口唇部にキザミメ(V字)。口縁部下にキザミメ(D字) 突帯貼り付け。内面 ナデ。	外・内・断一灰黃色。白色砂粒(小・中・大) 少量、雲母(小・中) 微量、角閃石(小) 微量を含む。生駒西端。	焼成良好。口縁部外面・内面に焼成良好。
289 深鉢	口縁部破片	口唇部にキザミメ(V字)。口縁部下にキザミメ(D字) 突帯貼り付け。内面 ナデ。	口唇部にキザミメ(V字)。口縁部下にキザミメ(D字) 突帯貼り付け。内面 ナデ。	外・断一にぶい黄橙色。断一黒色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。口縁部内面に黒斑。

遺物番号	器種	法量(現存部) (単位 cm)	成形・調整	色調	胎土	焼成・備考
290 深	鉢 口縁部破片	口唇部にキザミメ(D字)。 外面 口縁部下にキザミメ(D字) 実帶貼り付け。ナデ。ナデ。	外・断一灰黄褐色。内-黑色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 微量を含む。生駒西麓。	外・断一灰黄褐色。内-黑色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 微量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。	
291 深	鉢 口縁部破片	口縁部下にキザミメ(D字) 実帶貼り付け。ナデ。ナデ。	外・内・断一灰黄褐色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 微量を含む。生駒西麓。	外・内・断一灰黄褐色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 微量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。	
292 深	鉢 口縁部破片	口縁部下にキザミメ(D字) 実帶貼り付け。ナデ。ナデ。	外・内・断一灰黄褐色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	外・内・断一灰黄褐色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。	
293 深	鉢 口縁部破片	口縁部下に突端貼り付け。 外面 内面 ナデ。	外・内・断一灰黄褐色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	外・内・断一灰黄褐色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。	
294 深	鉢 推定口径 18.8(1/6)	口縁部下に突端貼り付け。 外面 ハラケシリ。ナデ。	外・内・断一灰黄褐色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	外・内・断一灰黄褐色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。	
295 深	鉢 口縁部破片	帶文貼り付け。 外面 ナデ。内面 ハラケシリ。	外・内・断一灰黄褐色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	外・内・断一灰黄褐色。白色砂粒(小・中) 少量、石英(小・中) 少量を含む。生駒西麓。	焼成良好。内面に煤。	
296 深	鉢 体部破片	肩部にキザミメ(D字) 実帶文貼り付け。口縁部-ナデ。体部-ハラケシリ。ナデ。	外・内・断一灰黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外・内・断一灰黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。口縁部外面・内面に煤。	

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調	胎土	焼成・備考
297 深 鉢	体部破片	肩部にキサミメ(D字)突帯文貼り付け。外・内・断-灰白色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外・内・断-灰白色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。内面に焼。		
298 深 鉢	口縁部破片	肩部にキサミメ(D字)突帯文貼り付け。外・内・断-灰黄色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外・内・断-灰黄色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。		
299 深 鉢	底部破片	外面 ヘラケズリ。 内面 ナデ ^ア 。	外・内-灰黄色。断-灰黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。		
300 ミニチュア	推定口径 9.0(1/5)	外面 粘土組合直残存。ナデ。 内面 板状工具によるナデ。	外・内・断-にぶい黃褐色。白色砂粒(小・中・大)少、雲母(小)少、角閃石(小)少、少量を含む。生駒西龍。	焼成良好。外面上に焼。		
301 ミニチュア	推定口径 5.2(1/4)	外面 ナデ ^ア 。 内面 ナデ ^ア 。	外・内・断-黒色。白色砂粒(小・中)少、雲母(小・中)少、角閃石(小・中)少、少量を含む。生駒西龍。	焼成良好。		
302 浅 鉢	口縁部破片	外面 ナデ ^ア 。 内面 ナデ ^ア 。	外・内・断-にぶい褐色。白色砂粒(小・中)少、雲母(小)少、角閃石(小)少、少量を含む。生駒西龍。	焼成良好。口縁部内面に焼。		
303 浅 鉢	口縁部破片	外面 ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外・内・断-にぶい黃褐色。白色砂粒(小・中)少、雲母(小・中)少、角閃石(小・中)少、少量を含む。生駒西龍。	焼成良好。		
304 浅 鉢	口縁部破片	口縁部直下に突帯張り付け。 外面 口縁部-ナデ。体部-ヘラケズリ。 内面 ナデ ^ア 。	外・内・断-灰褐色。白色砂粒(小・中)やや多量、雲母(小・中)少、角閃石(小・中)少、少量を含む。生駒西龍。	焼成良好。外面・内面に焼。		

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
305 浅鉢	口縁部破片	外面 口縁部下に突起貼り付け。 内面 ヘラミガキ。	外・内一黒色。断一灰黄褐色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小)少量を含む。	白色砂粒(小・中)少量、雲母(小)少量を含む。	焼成良好。
306 浅鉢	口縁部破片	外面 口縁部下に突起貼り付け。 内面 ヘラミガキ。	外・内・断一赤褐色。白色砂粒(小・中)やや多量、雲母(小)少量、角閃石(小)少量を含む。	外・内・断一赤褐色。白色砂粒(小・中)やや多量、雲母(小)少量を含む。	焼成良好。
307 ?	口縁部破片	口唇部にキザミメ。 外面 沈線文。沈線文の間に刺突文。編文 L R。 内面 ナデ。	外・内・断一灰黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外・内・断一灰黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。外面・内面に煤。
308 ?	口縁部破片	口唇部にキザミメ。 外面 沈線文。沈線文の間に刺突文。編文 L R。 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外・内・断一にぶい橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。口縁部外面の一部に黒斑。
309 ?	口縁部破片	口唇部にキザミメ。 外面 沈線文。沈線文の間に刺突文。編文 L R。 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外・内・断一にぶい黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
310 ?	口縁部破片	口唇部に突起。 外面 沈線文。沈線文の間に刺突文。ナデ。	外・内・断一にぶい黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外・内・断一にぶい黄褐色。白色砂粒(小・中)少量を含む。	焼成良好。
311 ?	口縁部破片	口唇部にキザミメ。 外面 沈線文。沈線文の間に刺突文。ナデ。	外・内・断一にぶい黄褐色。白色砂粒(小・中)少量、雲母(小・中)少量を含む。	外・内・断一灰黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
312 ?	体部破片	外面 沈線文。沈線文の間に刺突文。ナデ。	外・内・断一灰黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	外・内・断一灰黄褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存半) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
313	?	体部破片	外面 沈鉢文。繩文L.R。 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい黄褐色。第5章 「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
314	?	体部破片	外面 沈鉢文。繩文L.R。 内面 ナデ。	外・内・断一灰黄褐色。白色砂粒(小 ・中)少量を含む。	焼成良好。
315	?	体部破片	外面 沈鉢文。繩文R.L。 内面 ナデ。	外一にぶい黄褐色。内・断一黒褐色。 第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
316	?	体部破片	外面 繩文L.R。 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい黄褐色。第5章 「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。内面に焼。
317	?	体部破片	外面 繩文L.R。 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい黄褐色。第5章「土 器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
318	?	体部破片	外面 繩文L.R。 内面 ナデ。	外・内・断一にぶい黄褐色。第5章 「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。内面に焼。
319	?	体部破片	外面 繩文L.R. 内面 ヘラケズリ。	外・内・断一灰黄褐色。第5章「土器 胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
320	?	体部破片	外面 繩文R.L。 内面 ナデ。	外一にぶい黄褐色。内一灰黃色。断一 黒色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」 に記載。	焼成良好。
321	深鉢	体部破片	外面 ナデ。 内面 ナデ。	外・断一にぶい黄褐色。内一褐灰色。 第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。

S P 7

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
322	壺	推定口径 24, 2(1/3)	口唇部に施籠列点文。 外面 ヘラミガキのち、櫛描直線 文。 内面 指押さえ、ナデ。	にぶい緑色。第5章「土器胎土の色彩 観察」に記載。	焼成良好。

第2層

遺物番号	器種	法量(現存率)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
323	深鉢	口縁部破片	口縁端部にキザミ。外面ナデ。内面ナデ。	外・断一灰褐色。内-にぶい赤褐色。雲母(小・中)少量、角閃石(小・中)少量、長石(小・中)少量を含む。	焼成良好。
324	深鉢	頸部碗片	外面ナデ。ヘラ状工具による圧痕。内面ナデ。	外・断一赤灰色。内-にぶい赤褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。原下層式。
325	壺	推定口径 20.4(1/4)	外口縁端部-崩形文。頸部-輪構文のち、ヘラミガキ。内面ヘラミガキ。	外・内-赤灰色-にぶい橙色。断-にぶい橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
326	壺	底径 9.2(完存)	外体部-ハケののち、ヘラミガキ。底部-ハケののち、ヘラミガキ。内面体部-ハラミガキ。底部-ナデ。	外-黒色-赤褐色。内-断-赤黒色-にぶい橙色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
327	壺	底径10.5(完存)	外体部・底部-ヘラミガキ。内面体部・底部-ヘラミガキ。	外-赤褐色-にぶい赤褐色。内-断-明赤褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
328	壺	底径 7.6(完存)	外体部・底部-ナデ。内面体部・底部-ナデ。	外-断-灰褐色-にぶい褐色。内-黒褐色-灰褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
329	壺	底径 5.8 (2/3)	外口縁端部-ナデ。内面ナデ。	外-内-にぶい褐色。断-褐灰色-にぶい褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
330	壺	口縁部破片	外口縁端部-崩形文(左回り)。内面ハケ。	外-内・断-にぶい赤褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
331	壺	頸部碗片	外口縁直線文。内面ヘラミガキ。	外-赤褐色。内-断-にぶい赤褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。

遺物番号	器種	法量(現存率) (単位 cm)	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
332	蓋	頸部破片	外面 内面 鱗状文。 ナデ。	外一明褐色。内・断一赤灰色。第5章 「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
333	鉢	胴部破片	外面 内面 鱗状文ののち、ヘラミガキ。 ヘラミガキ。	外・内一橙色。断一にぶい橙色。第5 章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
334	鉢	口縁部破片	外面 内面 鱗状文。 ヘラミガキ。	外・内一褐灰色～明褐色。断一褐灰 色。第5章「土器胎土の砂礫觀察」に 記載。	焼成良好。
335	高 環	口縁部破片	外面 内面 一部一輪排列点文。 体部一部ヨコナデ。	外一灰褐色。内・断一にぶい橙色 ～灰褐色。第5章「土器胎土の砂礫觀 察」に記載。	焼成良好。
336	高 環	口縁部破片	外面 内面 口縁部一輪排列点文。体部 一ヘラミガキ。 ヨコナデ。体部一 ヘラミガキ。	外・断一にぶい橙色。内一橙色。第5 章「土器胎土の砂礫觀察」に記載。	焼成良好。
337	土製円盤	径 約 5.3	外面 内面 ヘラミガキ。 ナデ。	外・断一にぶい赤褐色。 長石(小・中・大) やや多量、雲母 (小・中) 少量、角閃石(小・中) 少 量を含む。	焼成良好。弥生土器甕を 再利用。
338	土製円盤	径 約 4.4	外面 内面 ヘラミガキ。	外一黒褐色。内・断一褐灰色。長石 (小・中) 少量、雲母(小・中) 少 量、角閃石(小・中) 少量を含む。	焼成良好。
339	土製円盤	径 約 3.3	外面 内面 ヘラミガキ。 ヘラミガキ。	外一にぶい赤褐色。 長石(小・中) 少量、雲母(小 中) 少量、角閃石(小・中) 少量を含 む。	焼成良好。

2. 石 器

(a) 落ち込み (S O) 1 出土土器

スクレイパーが1点出土している。

明瞭な刃部は作られていないが周辺部の2ヶ所のみに使用痕がみられる。

「使用痕を有する剝片」としたほうが良いかもしれない。石質はサヌカイトである。



第42図 落ち込み (S O) 1 出土石器

(b) 土器集積 (S W) 1 出土土器

石鋸27点(未製品)、石錐2点、スクレイパー4点、ピエスエスキュー20点、打製石斧1点。石棒1点、石刃1点、石錘3点、敲打器1点、磨石1点の計62点が出土している。

石 錐

27点全点図化した。S 2～S 14は基部がわずかにくぼんでいる凹基三角錐である。S 15～S 17の3点は平基三角錐である。S 18は基部が欠損しているために形態がはっきりしないが、三角錐と思われる。S 19～S 24は五角錐である。いずれも基部がゆるく彎曲する特殊な形態である。S 26～S 28は仕上げを施される前に製作を放棄された未成品である。石錐の石質はいずれもサヌカイトである。

石 锥

S 30は逆三角形の形態をもつ石錐である。先端部がごくわずかに磨耗している。図化していないもう1点は、先端部の小破片である。石質は両方ともサヌカイトである。

スクレイパー

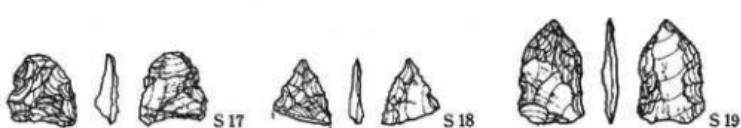
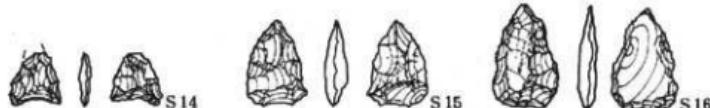
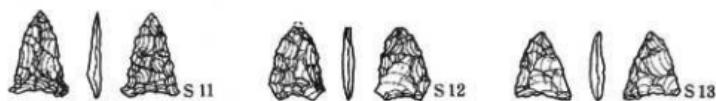
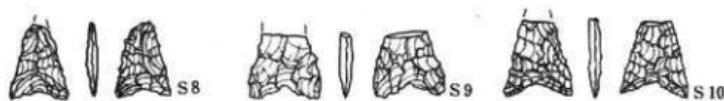
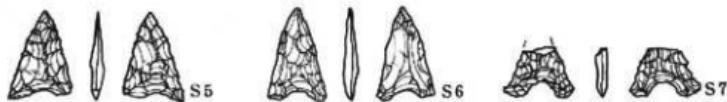
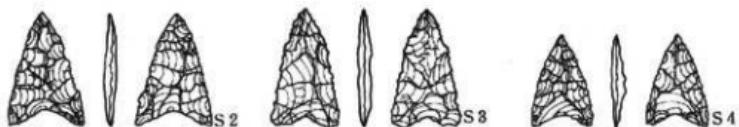
S 31・S 32・S 34の3点は平面形態が三角形を呈し、その一边に刃がつくられている。3点とも横長剝片を利用しており、刃の反対側を厚くつくって縦断面が細長い三角形を呈すのも共通している。S 31は破損品である。S 32は隅丸長方形の横長剝片の二辺に刃をつくっている。石質は4点ともサヌカイトである。

ピエスエスキュー

S 34・S 35・S 37・S 39・S 41は剪断面をもつピエスエスキューである。この剪断面は20点中10点にみられた。また、S 40・S 41のように、大形品には上下両端の階段状剥離が少ないので特徴である。石質はいずれもサヌカイトである。

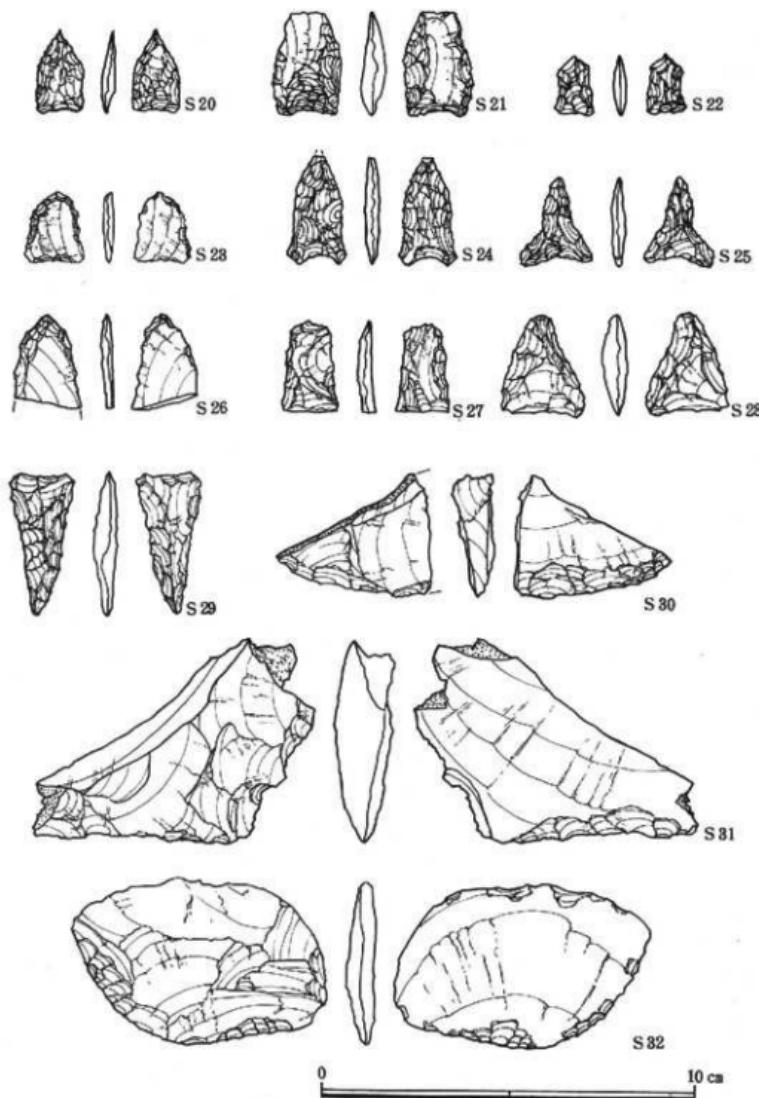
打製石斧

S 42は刃部が欠損している打製石斧で、側縁に「つぶし」はみられない。加工から推

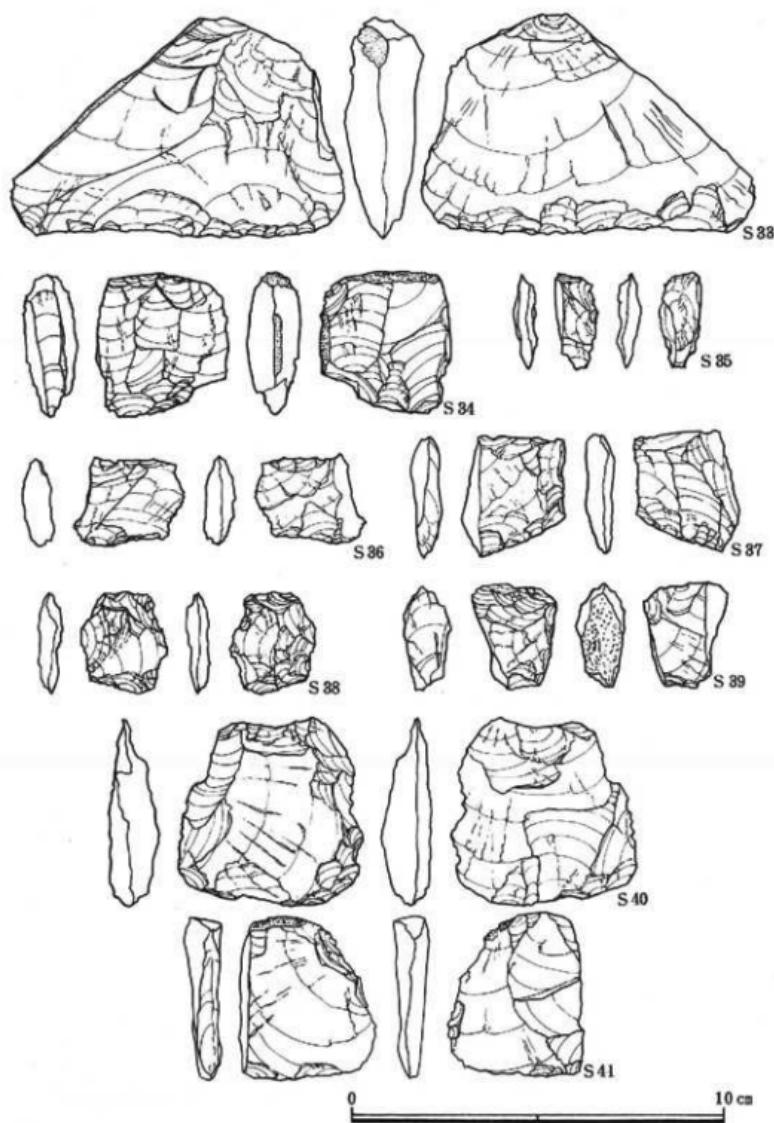


0 10 cm

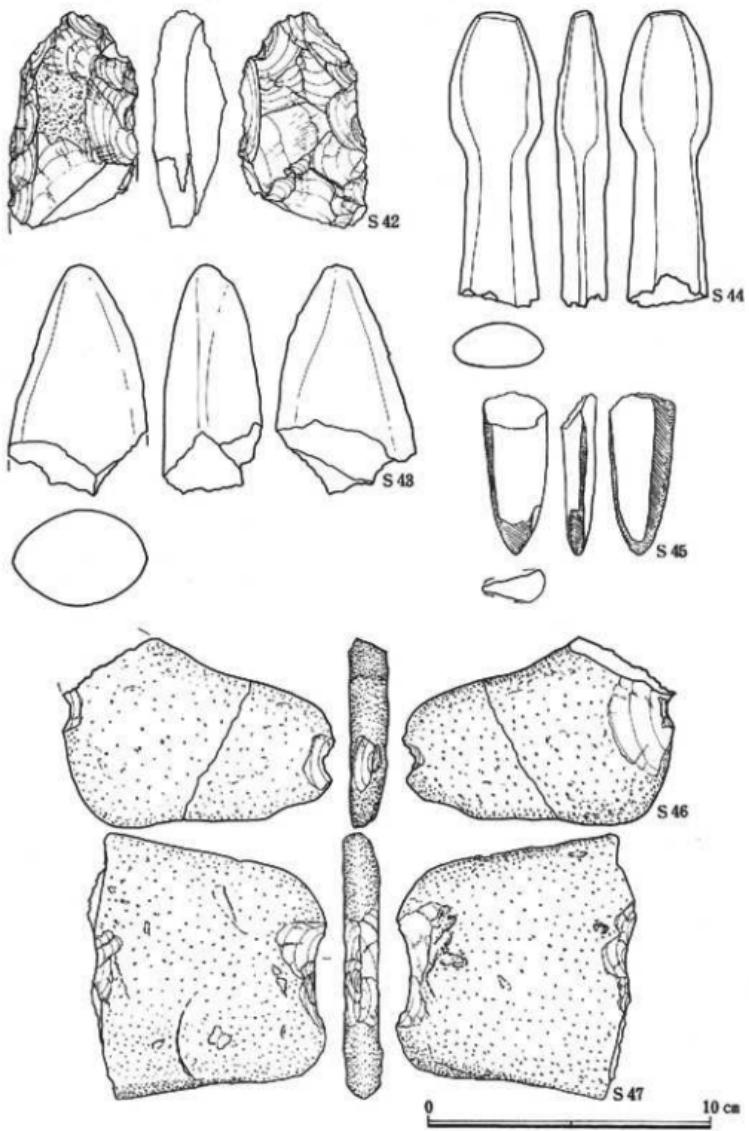
第43図 土器集積（SW）1出土石器(1)



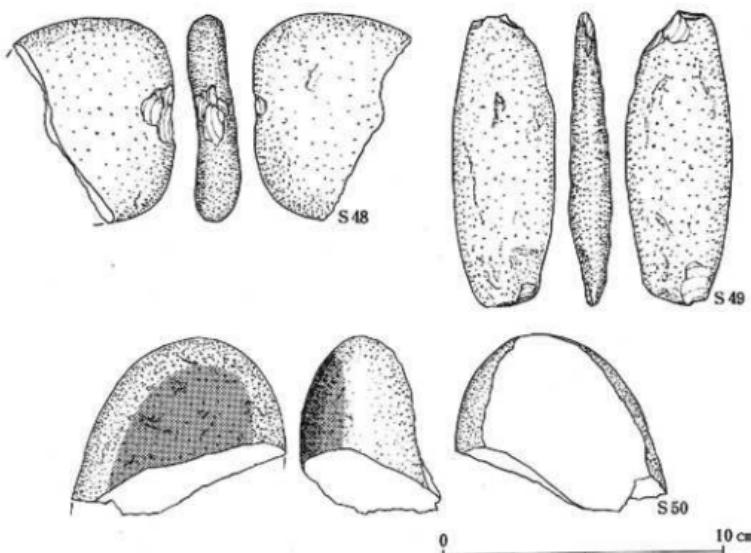
第44図 土器集積(SW) 1出土石器(2)



第45図 土器集積（S W）1出土石器(3)



第46図 土器集積 (SW) 1 出土石器(4)



第47図 土器集積（S W）1出土石器(5)

定すると、剥片石器ではなく石核石器のようである。

磨製石斧

S43は断面が梢円形の乳棒形磨製石斧である。仕上げは雑で、ところどころ整形加工である敲打痕が残る。石質は輝緑岩である。固化していない1点は刃部部分がうすく剥離した小破片である。石質は輝緑岩である。

石 棒

S44は断面が梢円形を呈する。頸部に文様はみられない。石質は点紋片岩である。

石 刀

S45は石刀の先端部分の破損品である。破損が著しく、断面から石刀ではないかと推定した。表面に仕上げの痕と思われる線条痕がみられる。石質は頁岩である。

石 锤

3点とも扁平な亜角錐を用い、長軸上の両端に打撃を数回加えて凹部をつくっている。S46は熱によって表面が変色している。S46の石質は砂岩、S47は輝石安山岩、S48は礫質砂岩である。

敲 打 器

細長くて扁平な亜角錐の長軸上の両端に敲打痕がみられる。石質は董青石ホルンヘルスである。

磨 石

楕円形の円錐を利用して磨石をしている。熱を受けて表面が変色している。石質は砂岩である。

(c) 第5層出土石器

石錐19点(未成品2点)、石錐1点、スクレイバー3点、ピエスエスキュー22点、敲打器1点の計46点が出土している。

石 錐

S51～S60は三角錐である。S51～S55は基部が大きくくぼんでいる凹基に対し、S56～S60は土器集積(SW)1の石錐と同様にわずかに彎曲する凹基である。S61は五角錐であるが、飛行機錐に近い形態をもつ。S62はS25と同様の形態をもつと思われる。S63～S65は破損品であるが、S63が三角錐、S64・S65が五角錐と推定される。S66・67は未成品である。石質はいずれもサヌカイトである。

石 锥

S68は先端部に簡単な調整を施しただけの、逆三角形の形態をもつ石錐である。石質はサヌカイトである。

スクレイバー

S69はS31・S32と同じ三角形のスクレイバーである。S70は素材の凹みをそのまま利用している。S71は丁寧な刃部加工をしている。石質はいずれもサヌカイトである。

ピエスエスキュー

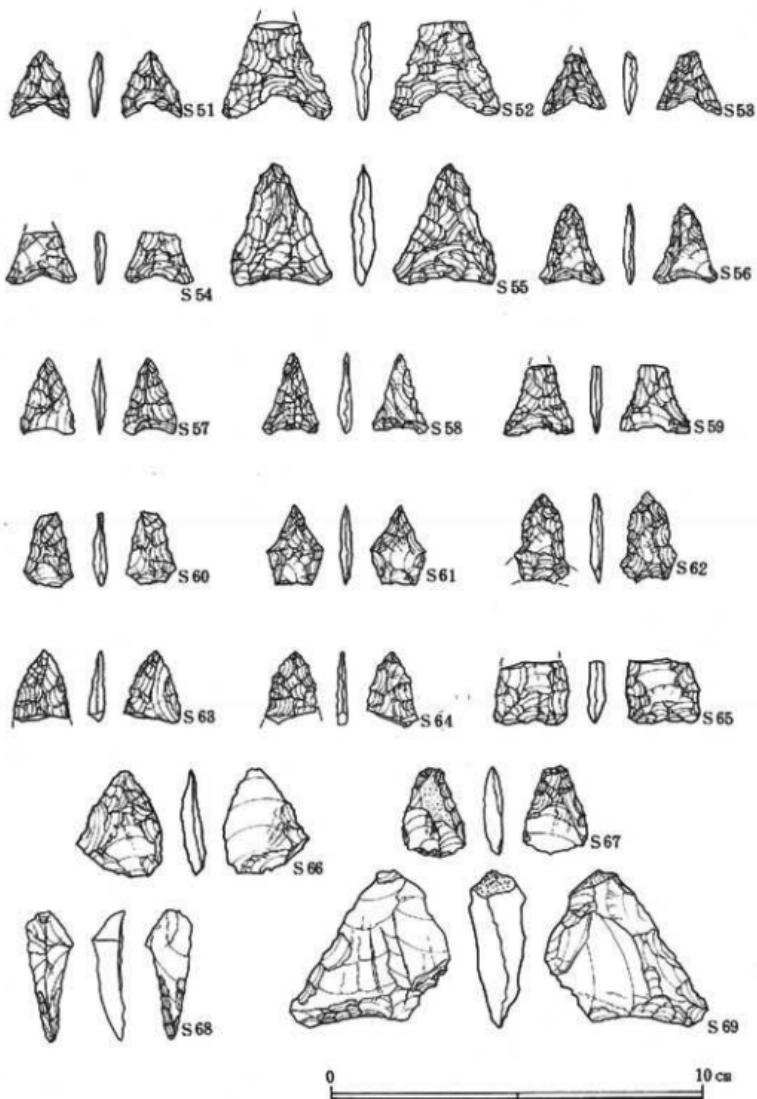
S72・S73はじめとして5点が剪断面を持つ。S80～S84は剪断面を打面として利用していたと思われる。そのため、いずれも平面形態が三角形、台形を呈す。このうち4点が近接した地点から出土していることも注目に値する。石質はいずれもサヌカイトである。

敲 打 器

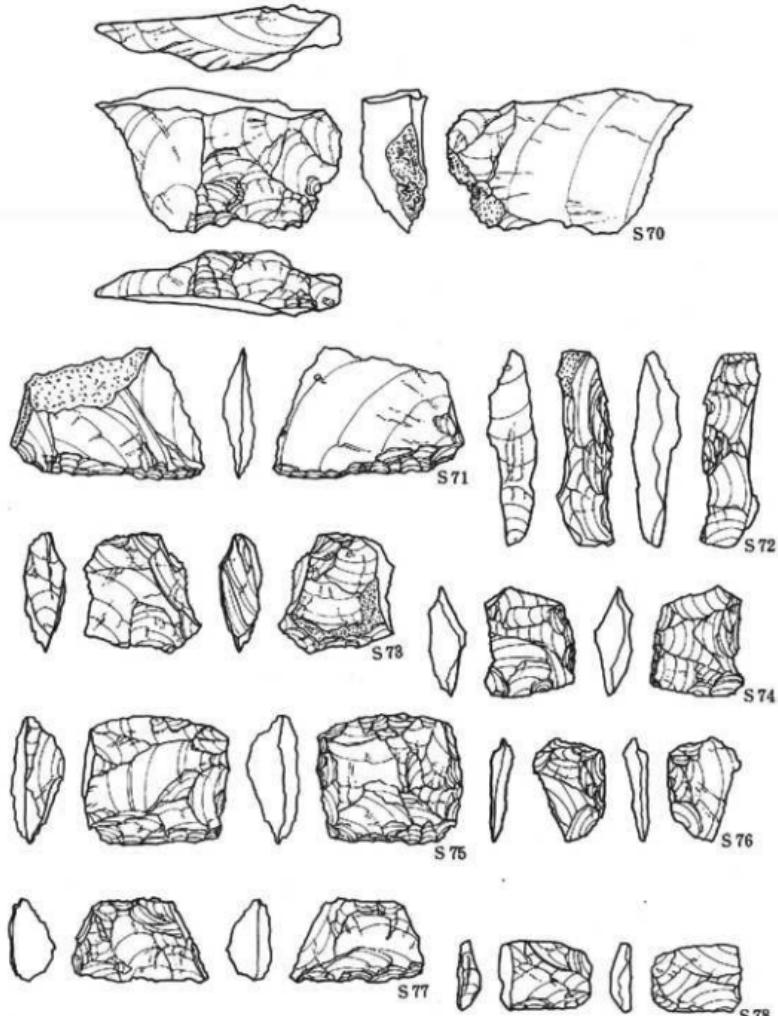
頭頂部と、底面部の周辺に敲打痕が集中する。形態が、東日本で縄文時代早期に盛行するスタンプ形石器に類似するが、系統は異なるものと思われる。石質はサヌカイトである。

(d) 第4層出土石器

石錐23点(未成品3点)、石錐1点、スクレイバー2点、ピエスエスキュー21点、磨製石斧2点、石錐1点、磨石1点の計51点出土している。

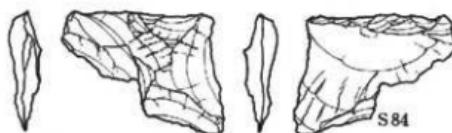
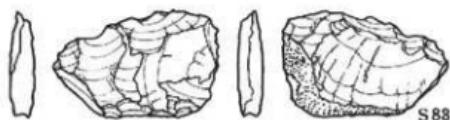
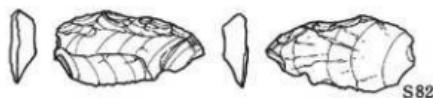
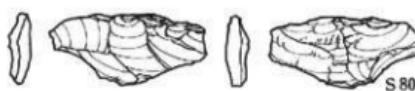
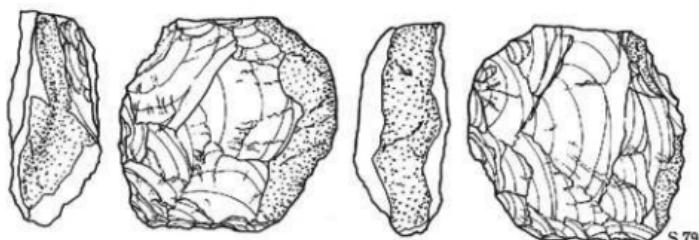


第48図 第5層出土石器(1)

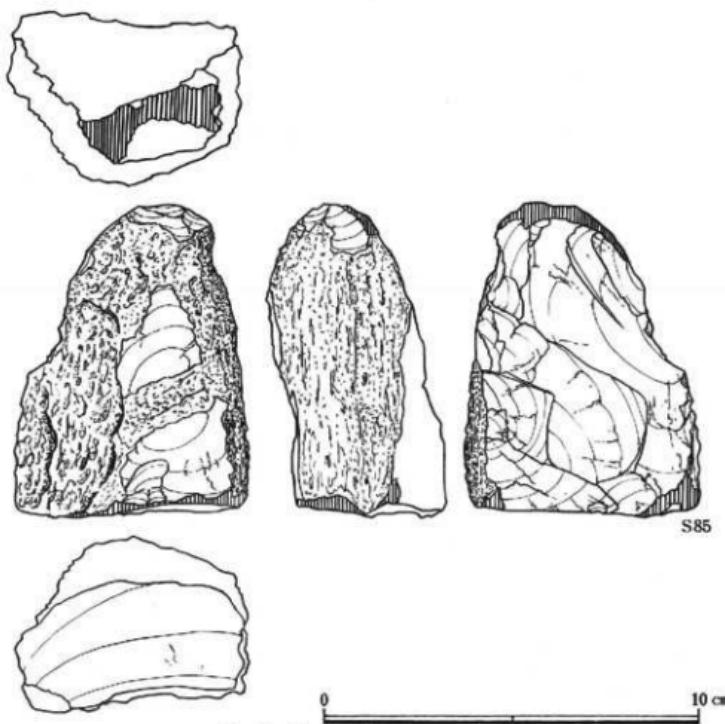


0 10 cm

第49図 第5層出土石器(2)



第50図 第5層出土石器(3)



第51図 第5層出土石器(4)

石 錐

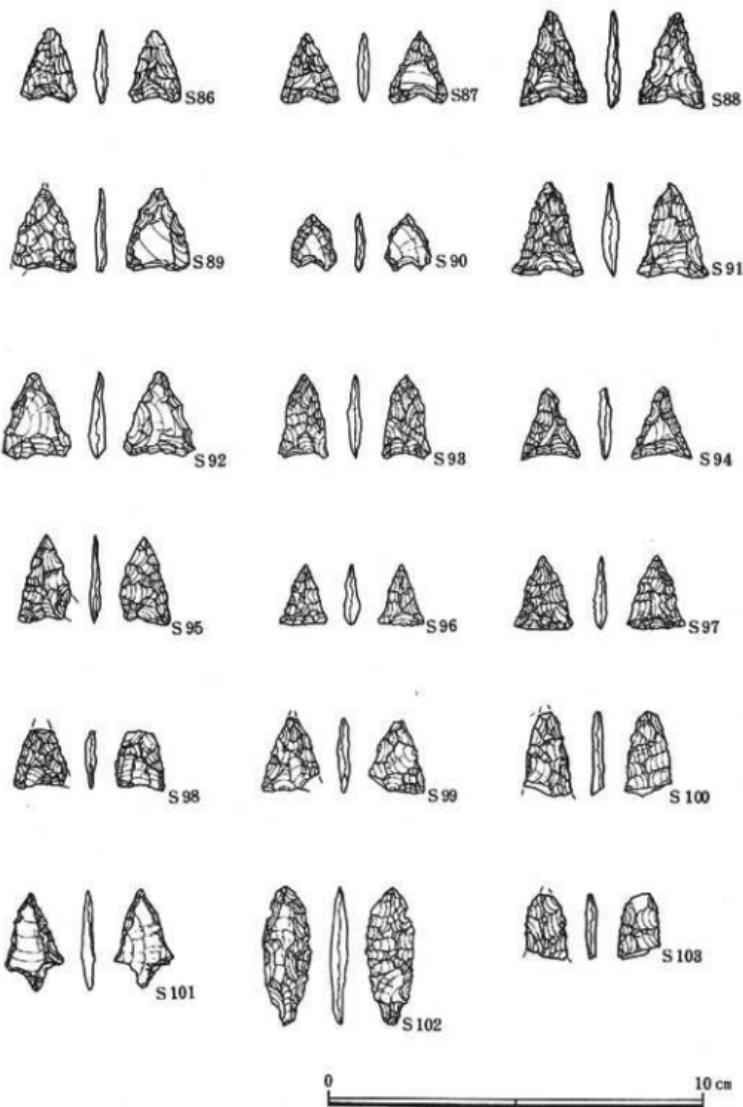
S 86～95は基部がゆるく彎曲する凹基三角錐で、S 96・S 97は平基三角錐である。S 98～S 100 は破損品であるが、いずれも三角錐と思われる。S 101 は有茎三角錐で、調整が簡単なのが特徴である。S 102 は尖基形石錐で、S 103 も同様の形態と思われる。S 104～S 107 は未成品である。石質はいずれもサヌカイトである。

石 锥

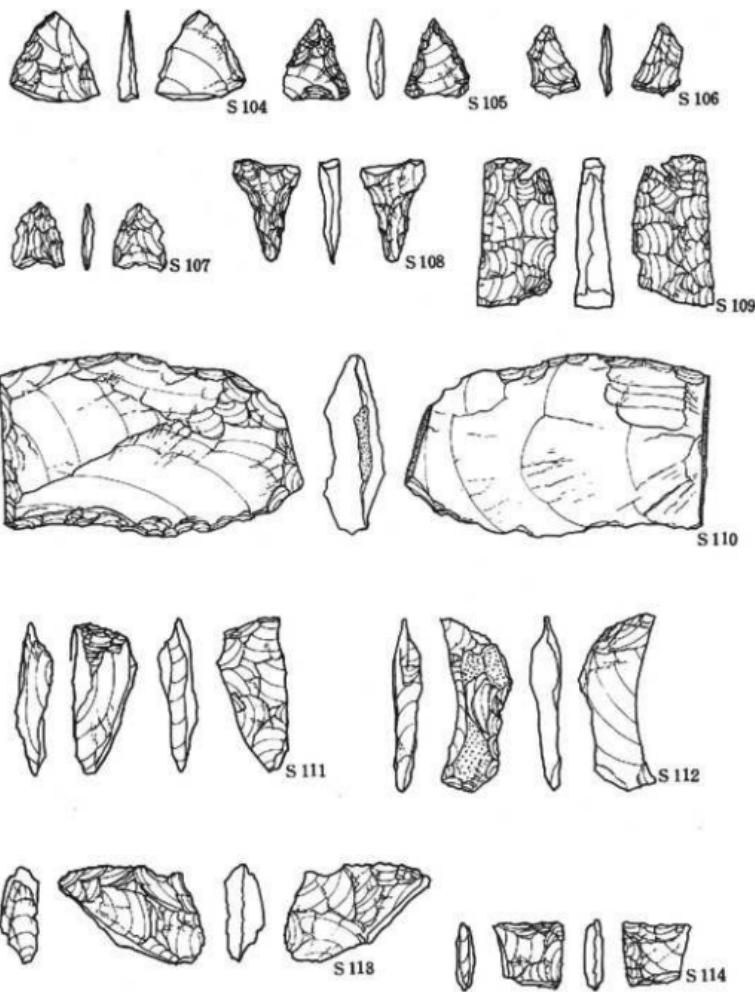
S 108 は逆三角形の形態をした石錐である。先端部が少し磨耗しており、わずかに光沢をもつ。石質はサヌカイトである。

スクレイパー

S 109 は下半部の欠損したサイドスクレイパーである。上端の凹みは加工によってではなく、自然にできていたものである。S 110 は縦長剥片を利用し、簡単な調整で刃をつくりだしている。石質は両方ともサヌカイトである。

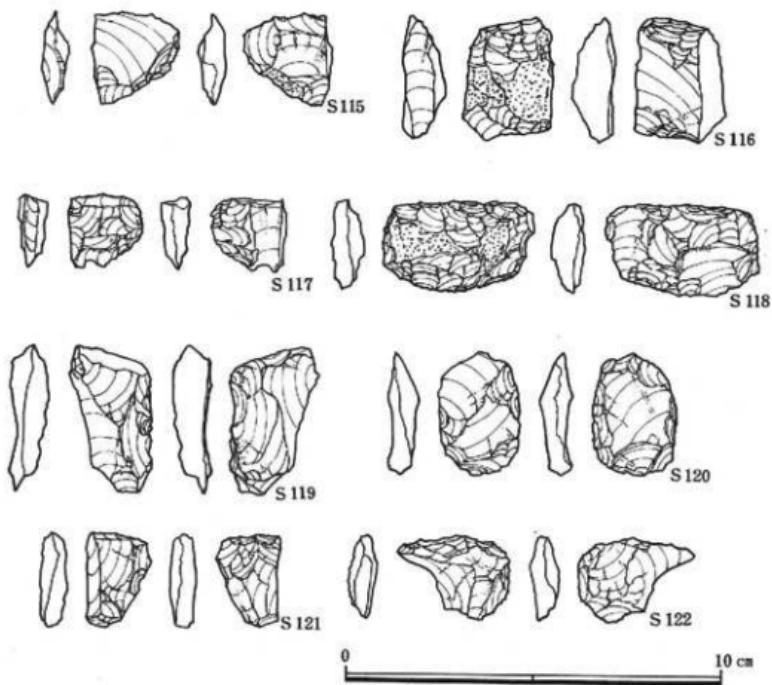


第52図 第4層出土石器(1)



0 10 cm

第53図 第4層出土石器(2)



第54図 第4層出土石器(3)

ピエスエスキュー

S101～S117は剪断面をもつピエスエスキューである。S122はS80～S84と同様の剪断面を打面として利用している。石質はすべてサヌカイトである。

磨製石斧

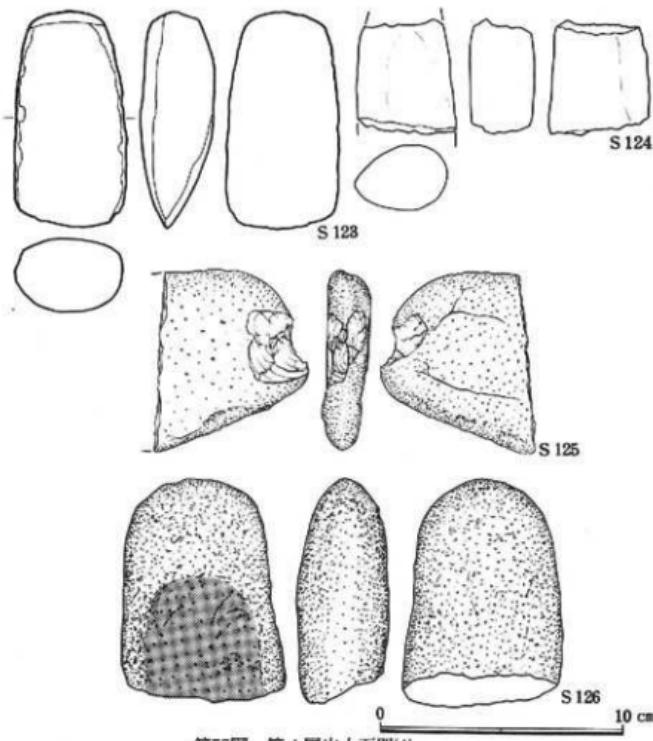
S123は片面にだけ稜をもつ定角形磨製石斧である。稜をもつ面はきれいに磨き上げられているが、反対側の面は敲打したままである。石質は玄武岩質凝灰岩である。S124は断面が精円形の乳棒形磨製石斧である。各面とも中央部が磨かれているのが特徴である。石質は輝緑岩である。

石 鍤

S125は亜角礫を用いた石鍤で、半分が欠損している。石質は砂岩である。

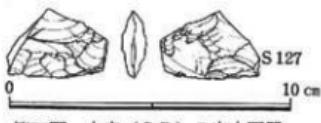
磨 石

S126はやや肉厚の亜角礫を用い、片面の中央部に顯著な磨耗部がみられる。石質は



第55図 第4層出土石器(4)

砂岩である。



第56図 小穴(S P) 7出土石器

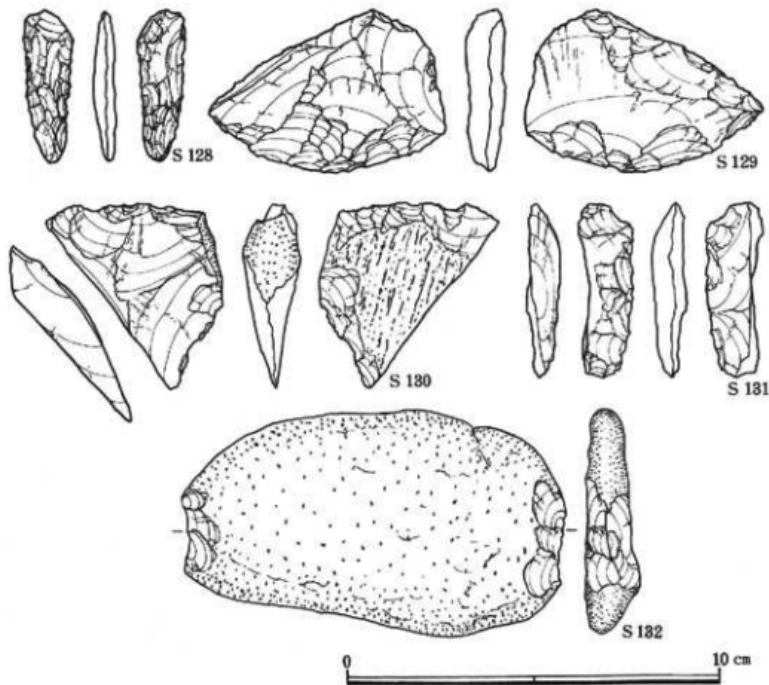
(e) 小穴(S P) 7出土石器

スクリーパーの破損品が1点出土している。S 30
やS 33と同じ形態をもつスクリーパーの先端部と思
われる。石質はサヌカイトである。

(f) 第2層出土石器

石錐1点、スクリーパー1点、ピエスエスキュー2点、石錐1点の計6点が出土して
いる。

石錐



第57図 第2層出土石器

S 128 は柳葉形の石椎である。先端部が磨耗し、光沢をもつ。石質はサヌカイトである。

スクレイバー

S 129 は平面形態が三角形を呈するスクレイバーである。簡単な調整で刃をつくりだしている。石質はサヌカイトである。

ピエスエスキュー

2点とも剪断面をもつピエスエスキューである。石質はサヌカイトである。

石錘

偏平な亜角錐の長軸上の両端に調整を加えて石錘にしている。石質は礫質砂岩である。

3. 植物遺存体

土器集積(SW) 1から材木片2片、種子1個が出土した。材木片は針葉樹と広葉樹で、種子は常緑のカシ類(*cyclo + balanopsis*)の子葉である。

4. 動物遺存体

奈良国立文化財研究所 松井 章

出土種名表

魚類 Class Pisces

タイ科の一種 Sparidae gen et sp. indet.

哺乳類 Class Mammalia

ニホンジカ *cervus nippon* TEMMINCK

イノシシ *Sus scrofa leucomystax* LINNABUS

筆者の手元に搬入された動物遺存体は、出土時の小さな単位毎に取り上げられたもので、その単位から、およそその出土状態が推定可能である。それらの動物遺存体は縄文晩期の土層から、多くの土器破片と共に出土したものである。骨には、この様な遺跡ではありがちな青いビビアナイトの析出は見られない。しかし、大部分が土中で腐食して、原形を保って取り上げられたものは皆無に近い。その中でも、イノシシやニホンジカの臼歯、切歯のエナメル部、ニホンジカの鹿角は腐食に強く、かなりの点数が本来この遺構に埋没していたことを示す。

同定できた動物種では、ニホンジカが圧倒的に多く、イノシシがそれに続く。その他ではわずかにタイ類の歯骨、あるいは前上顎骨の破片が1点同定できただけである。以下、その概要と考察を述べる。

それぞれの種の部位別の出土量を見ると、ニホンジカでは、歯、特に臼歯の破片が多いことに気が付く。しかも、発掘時に取り上げられた単位を見ると、数個体、あるいは顎骨の破片を伴う例が多く、本来は上下の顎骨に植わった状態で埋没していたものが多かったと考えられる。それに続いて鹿角の破片も多い。歯のエナメル質も鹿角も、腐食に対して強く、残りやすい部位であることは事実であるが、指骨、手根骨、足根骨なども同様に残りやすい部位である。それにもかかわらずそれらは残っていない。やはり、元来からこの土坑にはニホンジカの頭部が多く存在した可能性を示す。イノシシもまた臼歯のエナメル質が多いことが挙げられる。しかしその数はニホンジカに比べると非常に少ない。概して、東日本ではニホンジカがイノシシに比べて多く、西日本では逆になる傾向があるが、この遺構からの出土状態が、なんらかの人間の文化的な選択を示しているとすれば興味深い。

従来、畿内の縄文、弥生時代の遺跡出土の動物遺存体は、貝塚、溝、井戸の埋土からの例が大部分で、今回のように、土坑から多量の土器と共に出土したものは少ない。同定できなかつた小破片にも火熱を受けたことが明瞭な例が少なくなく、他の遺跡でのこれまでの例とは異なる。今後、他の出土遺物との平面的な分布と考え併せ、考察を行いたい。

第3表 動物遺存体一覧表

出土位置	種類	部位：左右：概要	備考	出土位置	種類	部位：左右：概要	備考
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	肩甲骨 右 遠位端		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	鹿角破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	下顎骨第 -3 後臼齒 左			イノシシ	上第3後臼齒 左	摩耗少ない
土器集積(SW) 1	イノシシ	顎骨 右 体部破片		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	距骨 右 中心足根骨 右	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上顎骨 左 白齒破片		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	下角 角座部 右	
土器集積(SW) 1	イノシシ	下顎 白齒破片		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	距骨 右	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上顎 白齒破片 右 × 2			ニホンジカ	上顎骨 左 第2前臼齒 - 第2後臼齒 左	第4前臼齒 羽山中 全て破片
土器集積(SW) 1	イノシシ	上顎第2後臼齒破片	摩耗激しい		ニホンジカ	上顎骨 右 第2-3後臼齒 第3後臼齒	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上顎臼齒破片 × 3			タイ類	齒骨破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	肩甲骨 右 破片		土器集積(SW) 1	イノシシ	下顎骨 左 破片、齒無し	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	中手 又は 中足骨 近位端破片		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	鹿角破片	
土器集積(SW) 1	イノシシ	切歯破片			ニホンジカ	下顎切歯 左 × 2 前臼齒破片 第1-3後臼齒 臼齒 破片 中手骨 左 遠位端	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	中手 又は 中足骨 遠位端破片		土器集積(SW) 1	イノシシ	第3後臼齒 × 2 共に左 前臼齒 破片	
土器集積(SW) 1	イノシシ	上顎骨 右 破片		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上顎臼齒破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上顎臼齒破片		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	臼齒破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	距骨 右		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	臼齒破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	肩甲骨 右		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	鹿角破片	
土器集積(SW) 1	イノシシ	下顎骨 左 切歯有り		土器集積(SW) 1	イノシシ	下顎骨 左 第3後臼齒 片有り	摩耗
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	下顎骨 左 第2.3後臼齒 第3後臼齒 未		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	第1.第3後臼齒 臼齒 破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	尺骨 右		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上顎臼齒破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	中手、中足骨破片		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上顎臼齒破片	
土器集積(SW) 1	イノシシ	切歯 破片 × 2本分		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	下顎臼齒破片 第2-3後臼齒 臼齒 右	
土器集積(SW) 1	イノシシ	下 第2後臼齒	摩耗無し	土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上顎臼齒破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上臼齒破片 左		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	白齒 破片	
土器集積(SW) 1	イノシシ	第3後臼齒 左		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	臼齒破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	下顎臼齒破片		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上顎臼齒破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	鹿角片 臼齒破片多數		土器集積(SW) 1	ニホンジカ	下顎臼齒破片 第4前臼齒 - 第3後臼齒破片	他の臼齒破 片有り
				第 4 層	ニホンジカ	臼齒破片	未発見
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	大歯 切歯破片 白齒破片多數	♂	第 4 层	ニホンジカ	臼齒破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	鹿角片		第 4 层	ニホンジカ	中手・中足骨破片 遠位端	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	臼齒破片		第 4 层	ニホンジカ	下顎第2-3後臼齒 右 破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	臼齒破片 鹿角破片		第 4 层	ニホンジカ	上顎 第1-3後臼齒破片 右	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	鹿角破片		倒溝層位不明	ニホンジカ	鹿角破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	下顎骨 左 破片		倒溝層位不明	ニホンジカ	上顎臼齒 第4前臼齒 - 第2後臼齒 中足骨 遠位端 右 破片	絶え破片
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	臼齒破片		倒溝層位不明	ニホンジカ	下顎骨破片	
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上顎臼齒破片 在 第3後臼齒					
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上後臼齒 左 開口					
土器集積(SW) 1	ニホンジカ	上顎骨 破片 右 第3後臼齒	M3摩耗 なし				

第4章 まとめ

今回の調査区では弥生時代の遺物包含層は既に破壊されていたが、その下層に存在する縄文時代の遺物包含層を検出することができた。恩智遺跡は縄文時代から始まる遺跡であることは今里幾次氏によって戦前から指摘されており（註1）、恩智川調査区でも二次堆積層出土の縄文時代前期から晩期の土器の報告がされている（註2）が、恩智遺跡で縄文時代の遺物包含層を面的に調査できたのは今回の調査が初めてであった。本調査地の第4層から第6層からは主に縄文時代晩期中葉の土器が出土したが、恩智川調査区で出土した縄文時代前期の土器はみられないこと、摩滅した後期の土器が晩期の包含層にふくまれていること、層位の検討等から第6層の下層にも間層をはさんで遺物包含層が存在していると考えられることから、この調査地付近での遺跡の開始は今回の調査で検出した縄文晩期をはるかにさかのぼるものと思われる。

本調査地の第4層から第6層は縄文土器破片を多量に含んでいたが、第6層には特に土器廃棄に伴う多量の土器破片が集中していた（土器集積1）。この集積には土器の他に多量の獸骨が含まれていたが、その出土状況から食べかすの骨を土器とともに廃棄したものであろうと思われる。また、祭祀的性格をもつミニチュア土器・土製品・石棒が含まれていたことより、廃棄に伴うなんらかの祭祀が行なわれたと考えられる。このような土器捨て場は普通集落の縁辺にみられること（註3）や、調査地の北方に土器集積が続くことから、集落の中心は「天王の社」方向に存在したものと思われる。

また、本調査地では縄文時代晩期前半の滋賀里I・II式の土器はほとんど出土しておらず、恩智川調査区でも同様にこの時期の土器は1片も出土していないことから、滋賀里I・II式は恩智遺跡では主体的に存在していないものと考えられる。なお、恩智遺跡の南方1.5kmに位置する柏原市大県遺跡では滋賀里I・II式の土器が多量に出土しており、恩智遺跡で多量に出土した滋賀里III式の土器はほとんどみられない。また、恩智遺跡と大県遺跡は距離もあまり離れていないことから、縄文時代においてはこの両遺跡は補完関係にあったものと思われよう。

第6層・第5層と同様に縄文時代晩期滋賀里IIIb式の土器を多量に含む第4層か滋賀里IV式・船橋式・長原式の土器も少量含まれており、ほそぼそではあるが長原式まで遺跡が営まれていることがうかがわれる。また、第4層の上層には長原式の時期に起こった山の土砂崩れによる粗砂の堆積がみられた。なお、土砂崩れのうち本調査地では大部分が破壊されていたが、本調査地周辺では長原式以降も遺跡は営まれており、第2層の出土土器や周囲の調査地の状況から弥生時代中期に恩智遺跡は大発展するものと考えられる。

註

1. 今里幾次『河内恩智の繩文土器』『日本考古学』1－3（1948）
2. 瓜生堂遺跡調査会『恩智遺跡I・II』（1980）
3. 長野県阿久遺跡、山梨県糸迦堂遺跡などの例がある。

第5章 土器胎土の砂礫観察

八尾市立刑部小学校 奥田 尚

1.はじめに

土器の表面に見られる砂礫を裸眼と倍率30倍の実体鏡とで観察した。観察した土器は破片であるため、同一個体を2試料以上の観察試料としている可能性もある。観察事項は、砂礫種とその粒形・粒径・量・色である。また、石英と角閃石については、粒形から他形と自形の区分をした。粒形は角、亜角、亜円、円の4段階で表した。雲母については、板状と粒状に区分した。火山ガラスは貝殻状、束状、筒状、フジツボ状に区分した。粒径はmm単位で表した。量は、ごくごく僅か、ごく僅か、僅か、中、多い、非常に多いの6段階で表した。

2.砂礫について

土器の表面に見られる砂礫種は、花崗岩、閃緑岩、流紋岩、砂岩、泥岩、チャート、片岩、火山ガラス、石英、長石、黒雲母、角閃石である。

花崗岩：色は灰白色である。粒形は角、粒径が0.5mm～8mmである。造岩鉱物のかみ合せは、石英・長石、石英・長石・黒雲母である。

閃緑岩：色は灰色である。粒形は角、粒径が0.5mm～1mmである。造岩鉱物のかみ合せは、石英・角閃石である。

流紋岩：色は白色である。粒形は角、亜角、亜円で、粒径が1mm～8mmである。石英の斑晶が認められるものがある。石基は玻璃質である。

砂岩：色は灰色、暗灰色である。粒形は亜角、亜円で、粒径が0.5mm～1.5mmである。構成砂粒は細粒である。

泥岩：色は灰白色、暗灰色である。粒形は亜角、亜円で、粒径が0.5mm～1.5mmである。

チャート：色は灰色、黒色、茶褐色である。粒形は亜角、亜円で、粒径が0.5mm～7mmである。

片岩：色は灰色である。粒形は亜円、粒径が0.5mm～1mmである。石英質片岩、泥質片岩である。

火山ガラス：色は無色、黒色で、透明である。粒形は筒状、貝殻状、フジツボ状で、粒径が0.2mm～1mmである。

石英：色は無色、赤褐色で、透明である。粒形は角、粒径が0.2mm～3mmである。複六角錐をなす場合、三角形の結晶面が見られる場合がある。

長石：色は無色、白色で、透明である。粒形は角、粒径が0.2mm～5mmである。

黒雲母：色は黒色、金色で、金属光沢がある。粒形は板状、粒径が0.2 mm～3 mmである。
 角閃石：色は黒色である。粒形は角で、粒状、柱状である。粒径は0.2 mm～5 mmである。柱状を示す角閃石には、結晶面で囲まれている場合、一部に結晶面が認められるものがある。

3. 類型区分

土器の表面にみられる砂礫種構成をもとにI類型～VII類型に区分した。表面に見られる砂礫の少ないもの、油煙等が付着して観察不良のものを区分不能とした。

流紋岩質岩起源の砂礫を主とし、碎屑岩が含まれ、自形の角閃石が認められる

	I 類型
自形の石英が認められ、花崗岩類起源の砂礫からなる	II 類型
流紋岩質岩起源の砂礫を主とする	II a 類型
流紋岩が認められなく、自形の石英がごく僅かに含まれる	II b 類型
流紋岩が認められなく、自形の石英がごく僅か～僅かである	II c 類型
流紋岩が認められなく、自形の石英が中である	II d 類型
花崗岩類起源の砂礫を主とし、碎屑岩が含まれ、自形の石英が認められる	III 類型
花崗岩類起源の砂礫を主とする	IV 類型
碎屑岩が認められない	IV a 類型
碎屑岩が認められる	IV b 類型
花崗岩類、斑構岩類起源の砂礫からなり、角閃石が比較的多い	V 類型
角閃石に結晶面が認められない	V a 類型
角閃石に結晶面が認められる	V b 類型
花崗岩類、斑構岩類起源の砂礫を主とし、自形の石英が僅かに認められる	VI 類型
花崗岩類、斑構岩類起源の砂礫を主とし、自形の石英、結晶面のある角閃石が認められる	VII 類型
自形の石英が比較的少ない	VII a 類型
自形の石英が比較的多い	VII b 類型
I 類型～VII 類型のいずれにも属さないもの	VIII 類型
表面に油煙等が付着して観察が不良のもの、砂礫が少ないもの	区分不能

4. 類型の特徴

各類型の特徴について述べる。

I 類型：構成砂礫種は、鉱物片として、花崗岩、流紋岩、砂岩、泥岩、チャート、片岩、火山ガラス、鉱物片として、石英、長石、雲母、角閃石である。花崗岩は粒形が角で、量

がごく僅かである。流紋岩は粒形が角、亜角、円で、量がごくごく僅かである。砂岩は粒形が亜角、亜円で、量がごくごく僅か～僅かである。チャートは粒形が亜角、亜円で、量がごくごく僅か～僅かである。片岩は粒形が亜角、亜円で、量がごくごく僅かである。火山ガラスは貝殻状、フジツボ状で、量がごく僅かである。石英は量が中～多いである。自形の石英が多い場合とごくごく僅か～僅かの場合とがある。長石は僅かである。雲母は板状で、量がごくごく僅かである。角閃石は量がごくごく僅か～ごく僅かである。自形の角閃石はごく僅か～非常に多い場合まである。

II類型：構成砂礫種は、岩石片として、花崗岩、流紋岩、チャート、火山ガラス、鉱物片として、石英、長石、黒雲母、角閃石である。花崗岩は粒形が角で、量がごくごく僅かである。流紋岩は粒形が角、亜角で、量がごくごく僅か～僅かである。チャートは1試料にのみ認められ、粒形が亜角、量がごくごく僅かである。火山ガラスは貝殻状、筒状で量がごくごく僅か～僅かである。石英は量が僅か～多いであり、自形を示すものはごくごく僅か～多いである。長石は量がごくごく僅か～ごく僅かである。黒雲母は量がごくごく僅か～僅かである。角閃石は量がごくごく僅か～僅かである。

III類型：構成砂礫種は、岩石片として、花崗岩、砂岩、チャート、鉱物片として、石英、長石、黒雲母、角閃石である。花崗岩は粒形が角で、量がごくごく僅かである。砂岩は1試料にのみ認められ、粒形が亜角、量がごくごく僅かである。チャートは粒形が亜角で、量がごくごく僅かである。石英は量が中で、自形をなすものはごくごく僅か～中である。長石はごく僅か～中である。黒雲母は板状で、ごくごく僅か～ごく僅かである。角閃石は量がごくごく僅か～ごく僅かの場合と多い場合とがある。

IV類型：構成砂礫種は、岩石片として、花崗岩、閃緑岩、流紋岩、チャート、火山ガラス、鉱物片として、石英、長石、黒雲母、角閃石である。花崗岩は粒形が角で、量がごくごく僅か～ごく僅かである。閃緑岩は僅か1試料にのみ認められ、粒形が角で、量がごくごく僅かである。チャートは粒形が角で、亜角で、量がごくごく僅かである。石英は量が僅か～多いである。長石は量がごくごく僅か～多いである。黒雲母は板状で、量がごくごく僅か～ごく僅かである。角閃石は量がごくごく僅か～僅かである。

V類型：構成砂礫種は、岩石片として、花崗岩、火山ガラス、鉱物片として、石英、長石、黒雲母、角閃石である。花崗岩は粒形が角で、量がごくごく僅かの場合が多く、僅かの場合もある。火山ガラスは2試料にのみ認められ、粒形が貝殻状、量がごくごく僅かである。石英と長石は量がごくごく僅か～僅かである。種に中の場合もある。黒雲母は板状で、量がごくごく僅か～僅かである。角閃石は量が中～非常に多いである。Vb類型に属する試料中の角閃石には結晶面が認められるものが、ごくごく僅か～僅かに含まれ

る。

VI類型：構成砂礫種は、岩石片として、花崗岩、鉱物片として、石英、長石、黒雲母、角閃石である。花崗岩は粒形が角で、量がごくごく僅か～中で、自形の石英がごくごく僅か～僅かの場合と多い場合とがある。長石は量がごくごく僅か～僅かである。黒雲母は板状で量がごくごく僅か～僅かである。角閃石は量が中～非常に多いである。

VII類型：構成砂礫種は、岩石片として、花崗岩、火山ガラス、鉱物片として、石英、長石、黒雲母、角閃石である。花崗岩は粒形が角で、量がごくごく僅かである。火山ガラスは貝殻状、筒状で、量がごくごく僅かである。石英は量がごくごく僅か～中で、自形を示すものがごくごく僅か～多いである。長石は量がごくごく僅か～僅かである。黒雲母は板状で、量がごくごく僅か～中である。角閃石は量が多い～非常に多いであり、結晶面があるものはごくごく僅か～ごく僅かである。

5. 砂礫の採取地

当遺跡を中心にして近距離で、土器胎土中の砂礫種構成と同じ砂礫種構成を示す場所を求める。

恩智遺跡の西方には河内平野が開け、大和川が運んで来た砂礫からなる沖積層が分布する。東方には生駒山地があり、花崗岩類からなる岩石が分布するとされていた。最近、恩智神社付近に、斑臘岩がごく小範囲に分布することが米田敏幸氏により指摘されてきた。遺跡が位置する「天王の杜」南側の砂礫は花崗岩類起源の砂礫を主とし、僅かに角閃石が認められ、碎屑岩が認められない。大和川の砂礫は、花崗岩類起源の砂礫を主とし、碎屑岩がごくごく僅かに認められる場合もある。大和川の砂礫種構成と一致または酷似するものはIV類型に属する土器の砂礫構成である。恩智神社北方の斑臘岩の媒乱砂には花崗岩類起源の砂礫が僅かに加わったものがあり、V類型に属する土器の砂礫種構成に酷似または類似する。I類型に属する土器の砂礫種構成は、流紋岩質岩起源の砂礫を主とし、碎屑岩が含まれ、角閃石に自形が認められることから、鳥取市千代川下流域の砂礫種構成に一致または酷似する。II類型に属する土器の砂礫種構成は流紋岩質岩起源の砂礫を主とし、花崗岩類起源の砂礫が含まれることから、花崗岩類の分布地域で、流紋岩質岩が広く分布している地域の砂礫種構成であると推定される。このような条件に合う地域としては、奈良県宇陀郡の大字陀町や菟田野町付近に広く分布する室生火山岩の分布地近くが推定される。

他の類型については砂礫の採取地を推定しがたいが他地域の砂礫種構成である。

砂礫の採取地付近が土器の製作地であるとすれば、IV類型とV類型に属する土器は恩智付近で製作されたものであり、I類型に属する土器は鳥取市千代川下流域から、II類型に属する土器は大字陀町から菟田野町にかけての付近から運ばれたものであると推定される。

第4表 土器胎土の砂礫種構成表

出土位置	遺物番号	岩						石						物						
		花崗岩	輝長岩	閃長岩	斜長岩	安山岩	砂岩	板岩	片岩	火山ガラス	岩	英安岩	石墨	电气石	碧玉	角閃石	矽线石	石榴子石	石英	土壤
第4層	308 (大洞床)	岩層不明 H-骨									岩質 頁	L-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	無	IVa
第4層	309 (大洞床)	岩層不明									岩質 頁	L-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	無	IVa
第4層	312 (大洞床)	岩層不明	其他								5-層 Y-骨	L-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	無	IVa
第4層	320 (大洞床)	岩層不明									5-層 Y-骨	L-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	5-層 Y-骨	無	IVa
土器類	130 (SB) I	深	杯	長柄	角						L-層 Y-骨								無	IVb
土器類	153 (SB) I	浅	杯	長柄	角						L-層 Y-骨								無	IVb
土器類	160 (SB) I	浅	杯	L-層	角						L-層 Y-骨								無	IVb
土器類	214 (SB) I	岩層不明	L-層 Y-骨	角	長柄	長柄	角				岩質 頁	無	IVb							
第5層	264 (大洞床)	岩層不明									5-層 Y-骨	無	IVb							
第2層	325 (中凹)	直	（生） L-層 Y-骨	L-層 Y-骨							岩質 頁	無	IVb							
土器類	23 (SB) I	深	杯	L-層	角						L-層 Y-骨								無	Va
土器類	117 (SB) I	深	杯	L-層	角						L-層 Y-骨								無	Va
土器類	144 (SB) I	浅	杯	長柄	角						L-層 Y-骨								無	Va
土器類	179 (SB) I	岩層不明									岩質 頁	無	Va							
土器類	185 (SB) I	岩層不明	L-層 Y-骨	角							L-層 Y-骨								無	Va
土器類	205 (大洞床)	岩層不明									岩質 頁								無	Va
土器類	210 (SB) I	岩層不明	L-層 Y-骨								L-層 Y-骨								無	Va
第5層	227 []	深	杯	L-層	角						岩質 頁	無	Va							

出土位置	調査番号	物種名	岩												石												物											
			花崗岩	細	閃	碧	矽	斜	片	岩	尾	岩	チャート	片	岩	火山ガラス	石	英	長	石	雲	母	角	四	石	輝	土	西	東	地	層	地	層					
土器集積 (SW) 1	202	器種不明 骨	粗粒 骨	3% 粒	粗粒	30% 粒	粗粒	30% 粒	粗粒	30% 粒	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板						
土器集積 (SW) 1	218	器種不明 骨	粗粒 骨	3% 粒	粗粒	30% 粒	粗粒	30% 粒	粗粒	30% 粒	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板						
土器集積 (SW) 1	220	深鉢 (原 L-棒)	L-棒	L-棒	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板	板		
第 5 層	233	深 鉢	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨		
第 5 層	250	深 鉢	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨		
第 5 層	266	深鉢 (原 下端式)	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨		
第 5 層	257	器種不明 (大洞系)	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨		
第 4 層	297	器種不明 L-棒	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角	角		
第 4 層	321	深鉢 (原 下端式)	L-棒	L-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒
第 2 層	329	要 (你生 L-棒)	L-棒	L-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒	Y-棒
第 2 層	333	祥 (你生 中段)	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	
第 2 層	327	要 (你生 中段)	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	
土器集積 (SW) 1	114	深 鉢	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	
土器集積 (SW) 1	169	器種不明 (大洞系)	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	
第 5 層	241	深 鉢	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	
第 4 層	268	器種不明 (中段式)	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	
第 4 层	294	深 鉢	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	
第 2 层	325	要 (中段)	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	

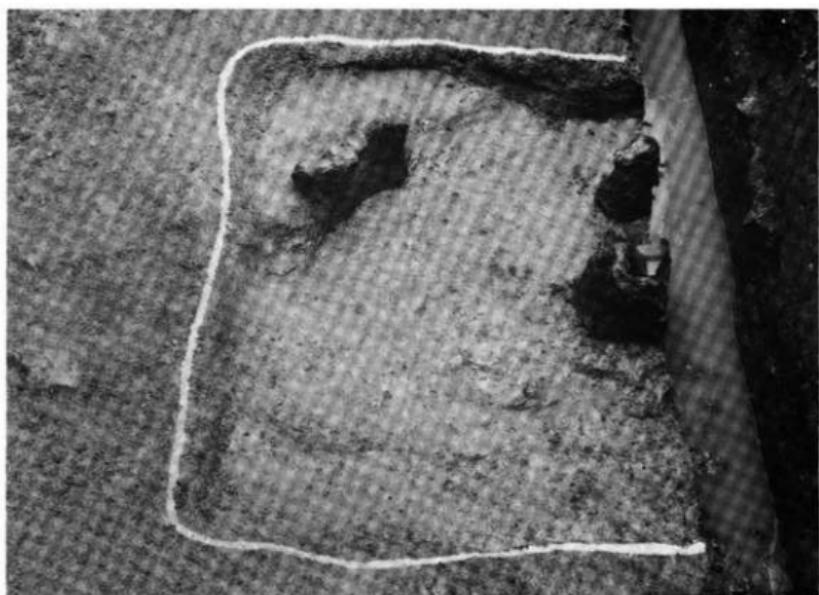
出士位置	層 号	遺 物	性 质	花 岗 岩	閃 长 岩	灰 岩	砂 岩	岩 砾	岩 片	岩 屑	火 山 灰 石	石 膏	長 英 石	石 墨	母 岩	角 砾	石 砾	石 膏	土 质	燃 烧 量
				透 透 性	透 透 性	透 透 性	透 透 性	透 透 性	透 透 性	透 透 性	透 透 性	透 透 性	透 透 性							
第 2 層	334 (中层)	株	L-青 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角								
土质带状	37	深 层	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角								
七西灰带	46	深 层	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角								
土质夹层	149	浅 层	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角								
第 5 层	229	深 层	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角								
第 5 层	238	深 层	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角								
第 5 层	245	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	
第 5 层	248	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	
第 2 层	332 (中层)	带 (浮生)	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	
第 2 层	336 (中层)	高环 (浮生)	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	
土质带状	105	深 层	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角								
土质夹层	110	深 层	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角								
土质带状	183 (大砾石)	带 明	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	
土质夹层	186 (大砾石)	带 明	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	
第 4 层	273	深 层	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角								
第 4 层	275	深 层	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角								
第 4 层	280	深 层	块	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角								
二层带状	200 (大砾石)	带 明	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	L-透 角	



「天王の社」風景（北東から）、石柵の向こうが調査地



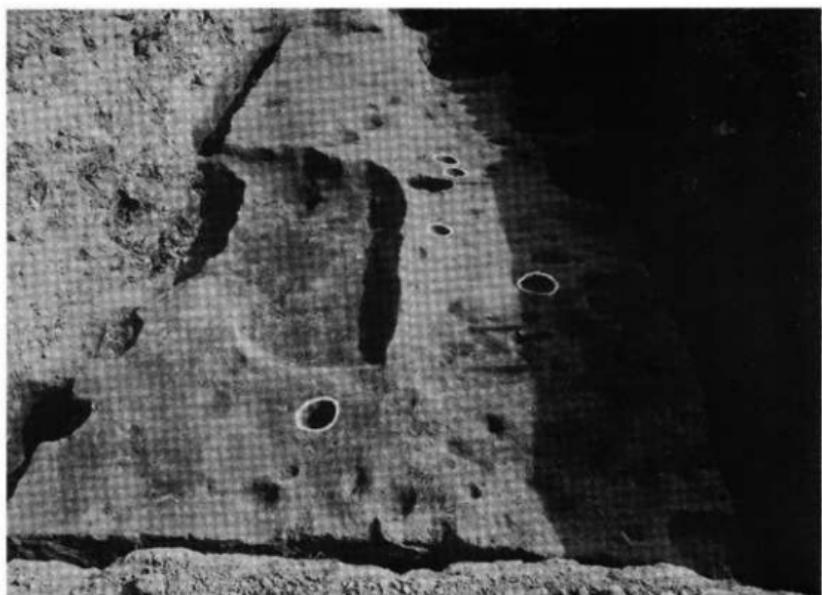
調査地 調査前全景（北から）



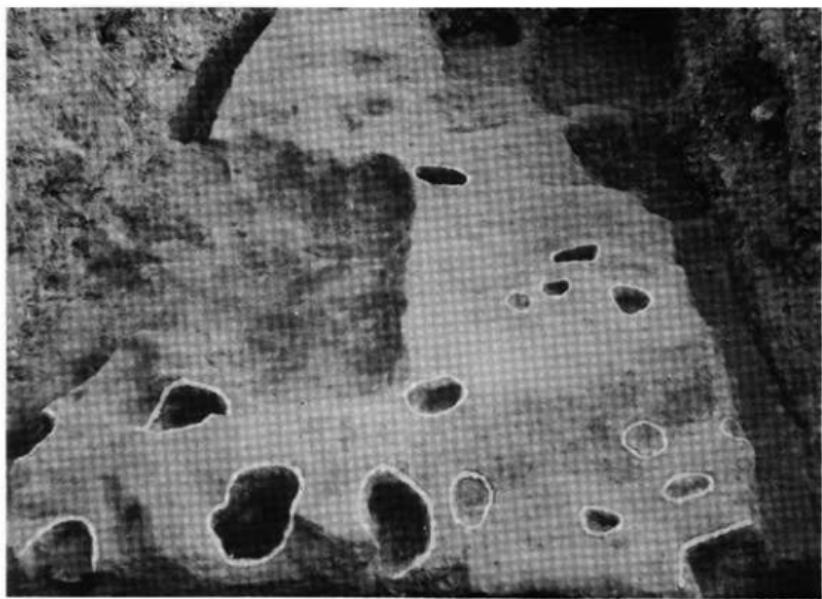
落ち込み（SO）1検出状況（北から）



第6層土器集積検出状況（北から）



第4層上面遺構検出状況（北から）



第8層上面遺構検出状況（北から）



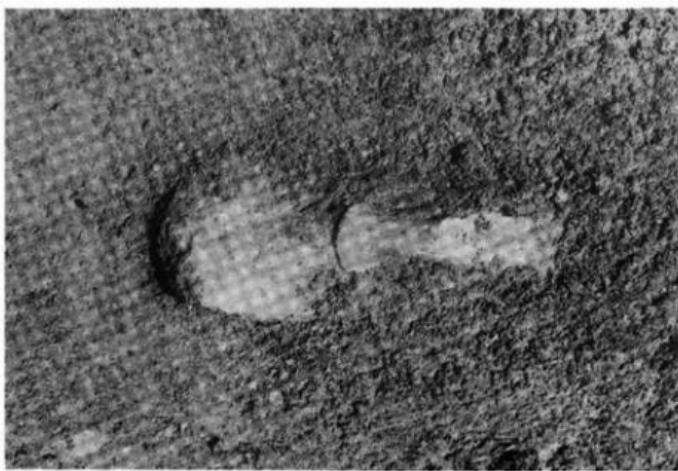
第6層 ニホンジカ下頸骨(右)出土状況(南から)



第6層 獣骨(種不明椎骨破片)・土器出土状況



第6層 獣骨（イノシシ環椎）出土状況



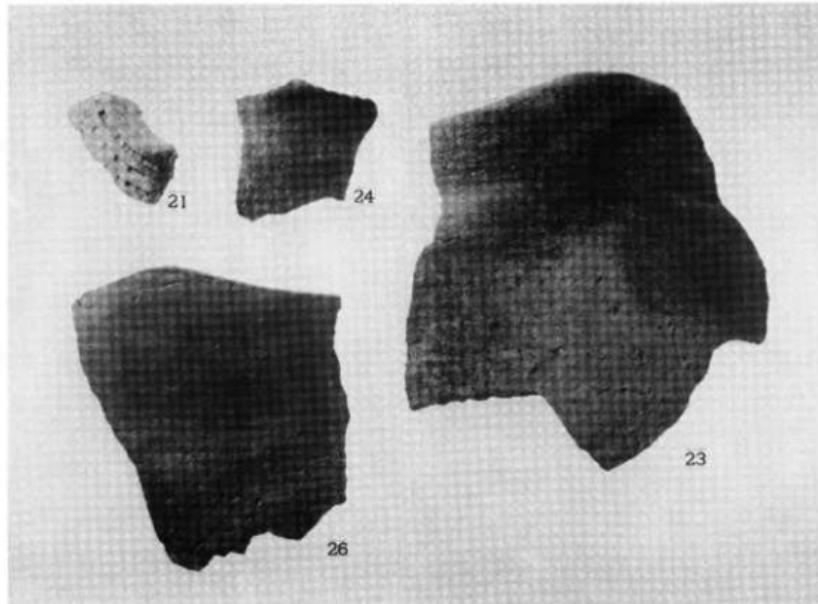
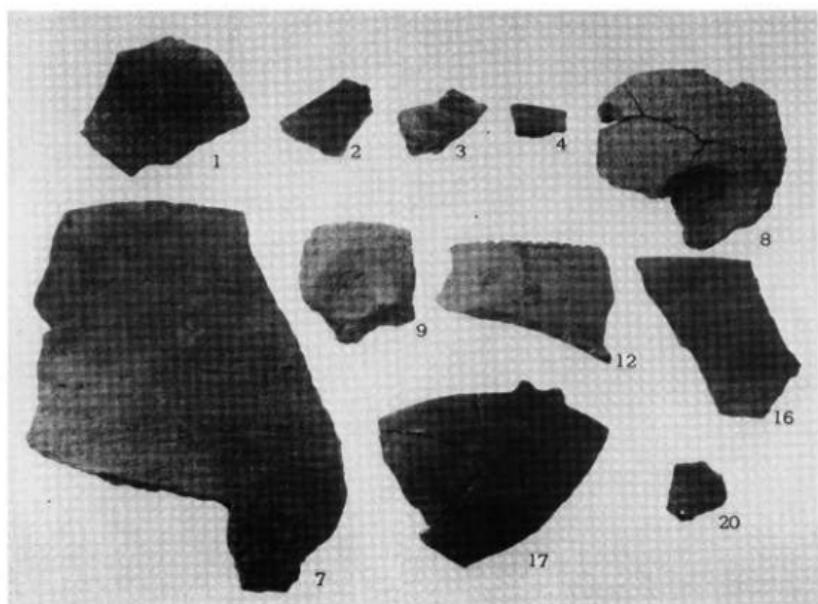
第6層 獣骨（種不明）出土状況

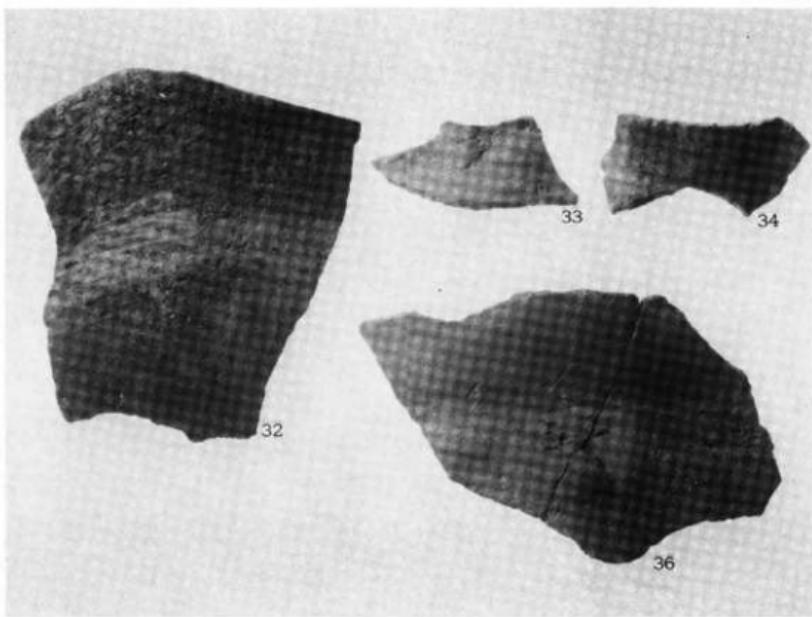
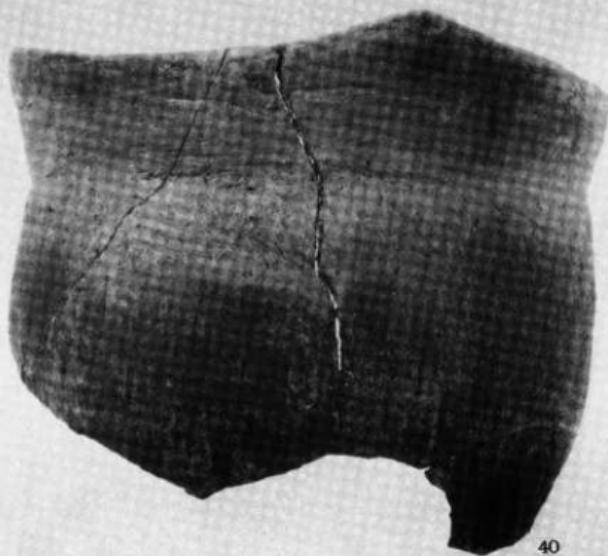


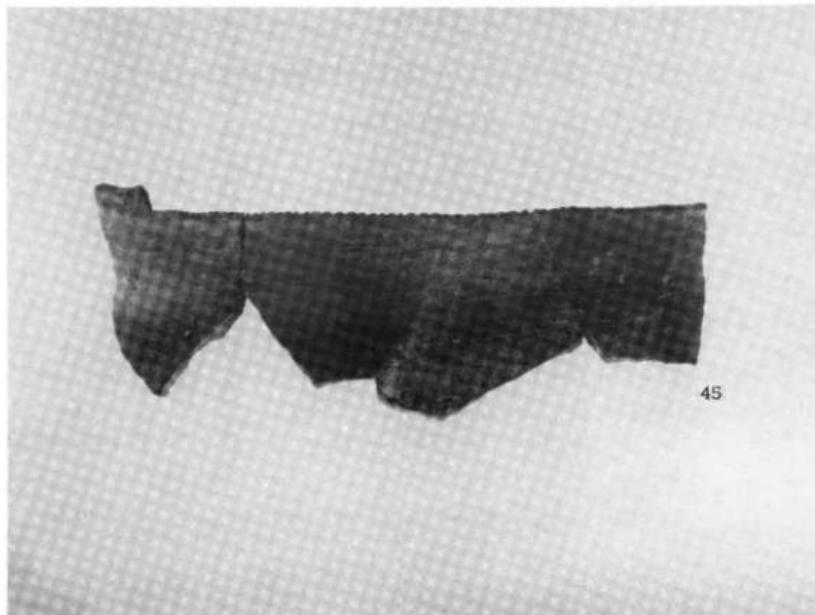
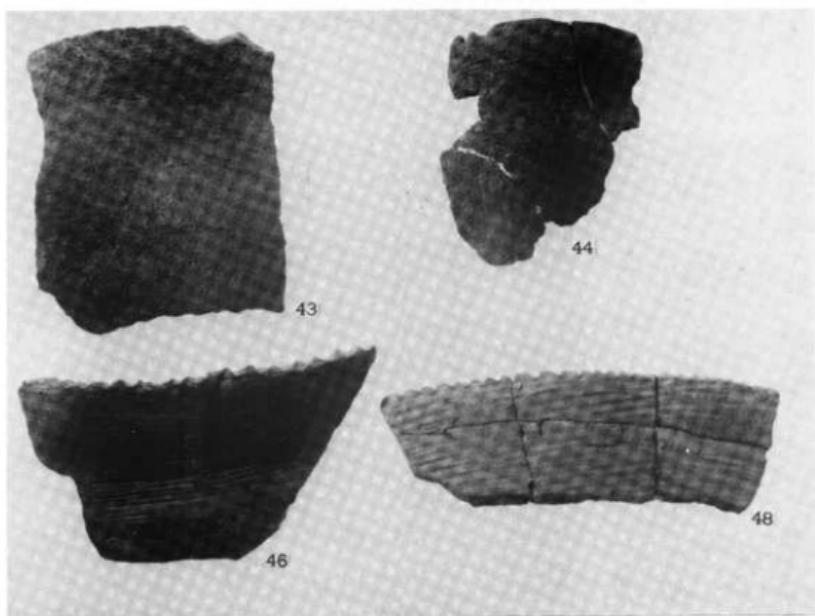
第6層 獣骨（ニホンジカ頭骨）出土状況

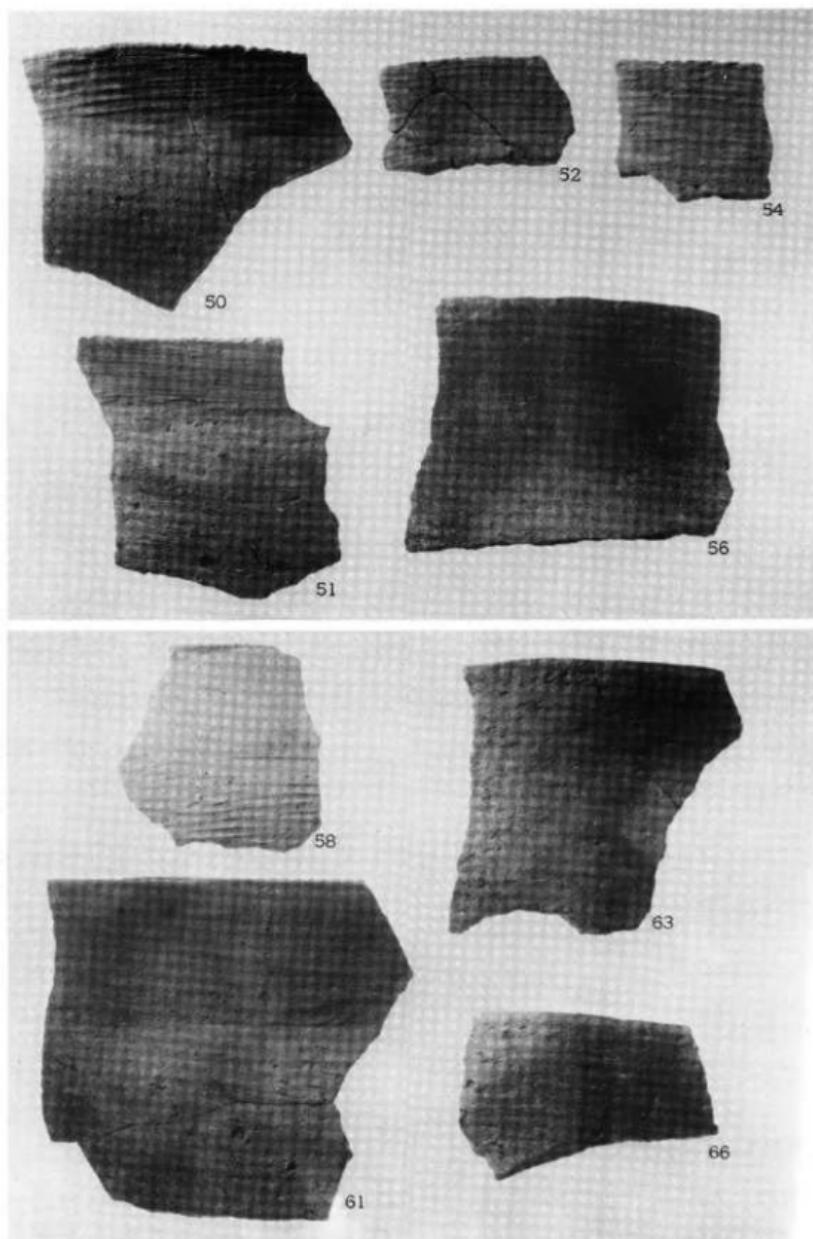


第6層 獣骨（極不明肋骨・四肢骨破片）出土状況



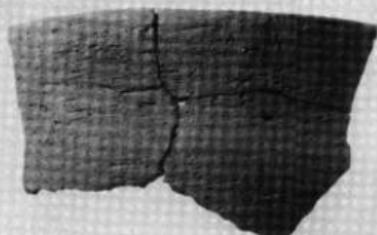








73



72



78



74



76



80



81



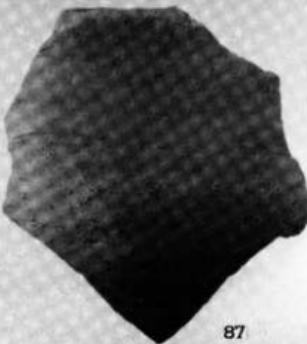
82



84



85



87



95



96



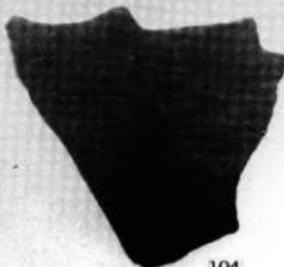
97



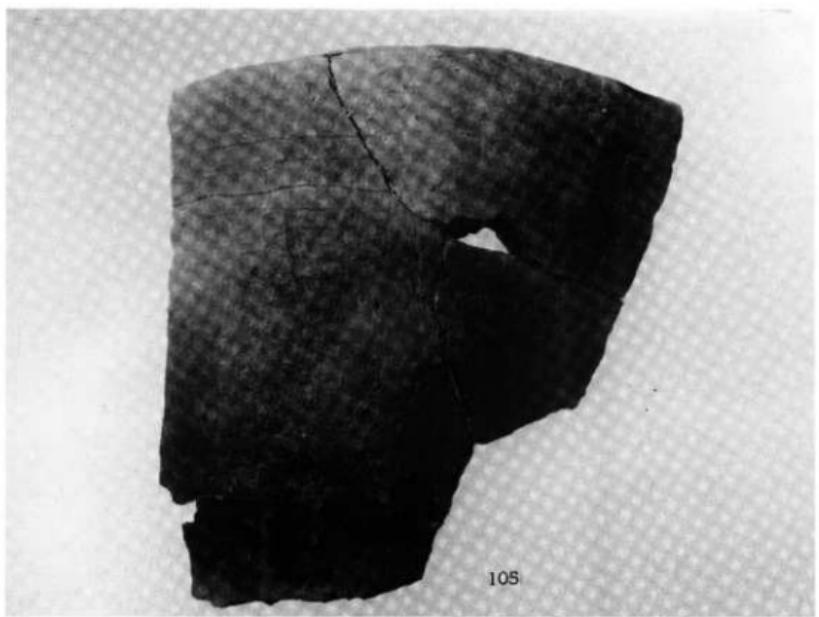
98



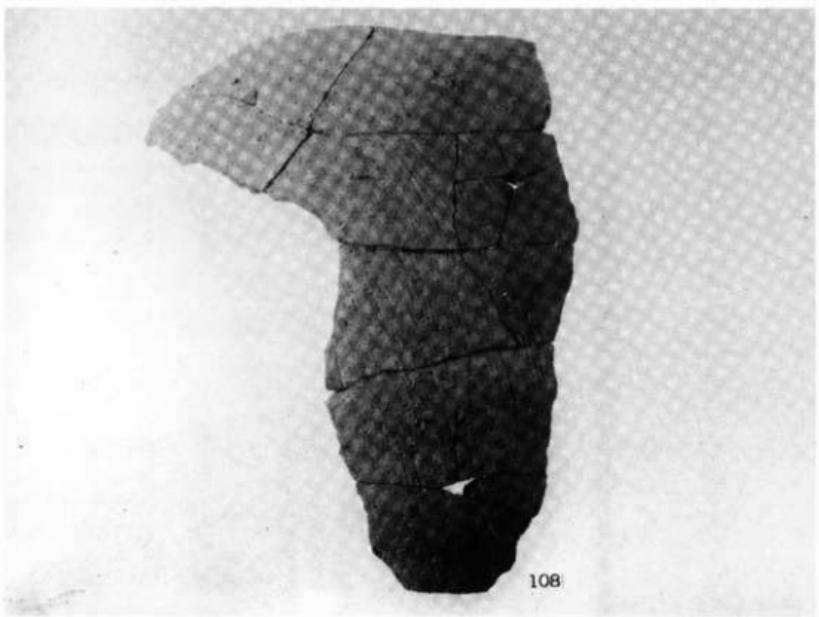
102



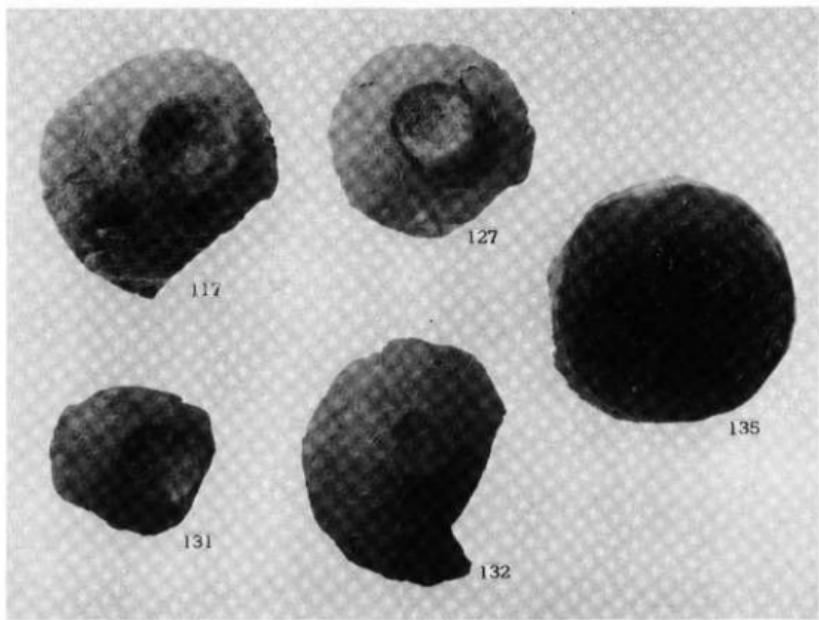
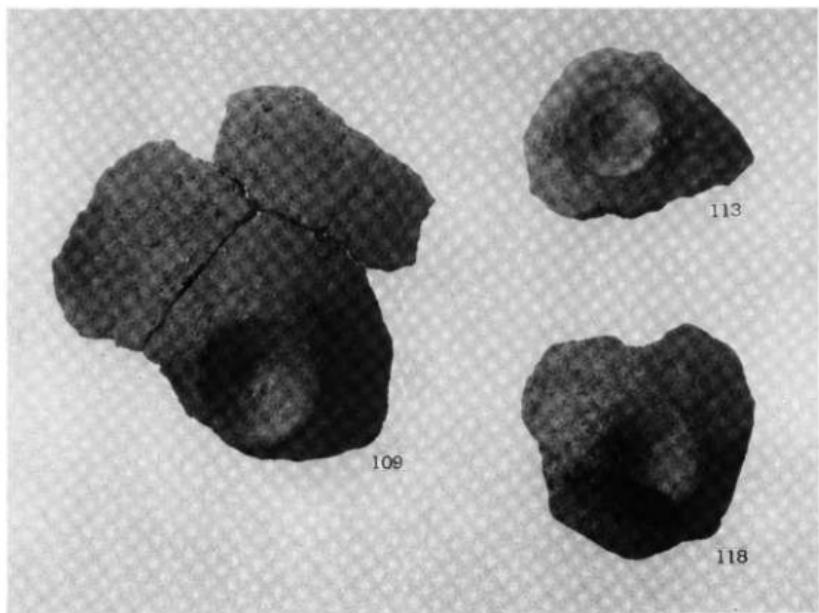
104

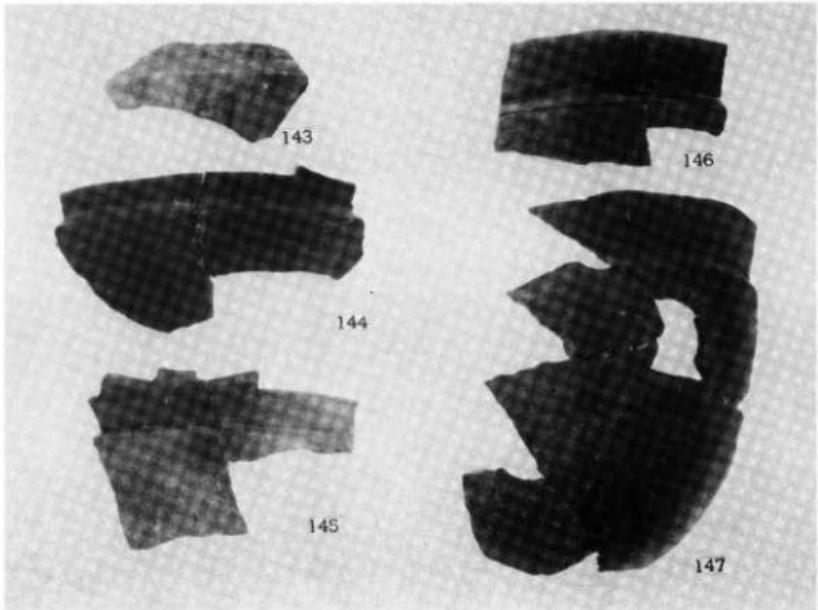
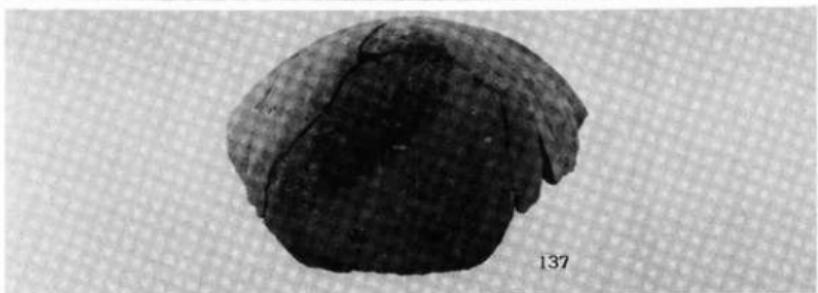
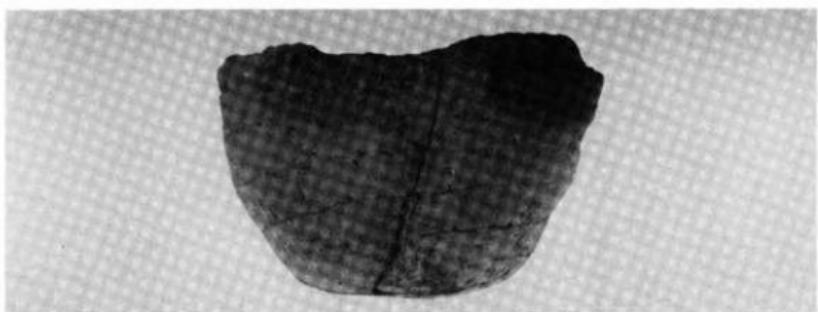


105



108



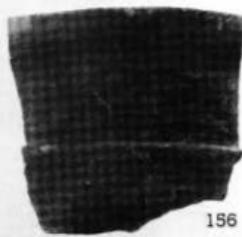




152



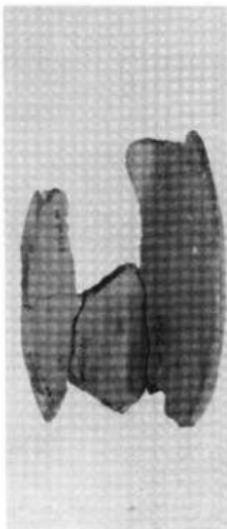
153

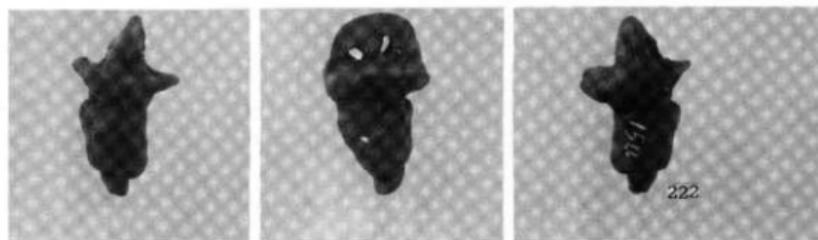
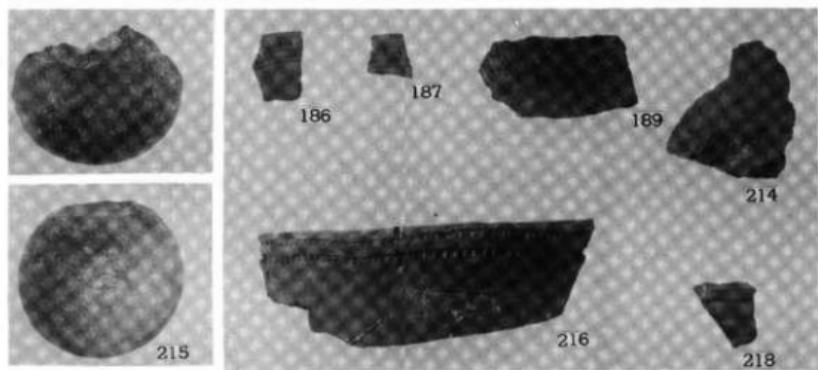
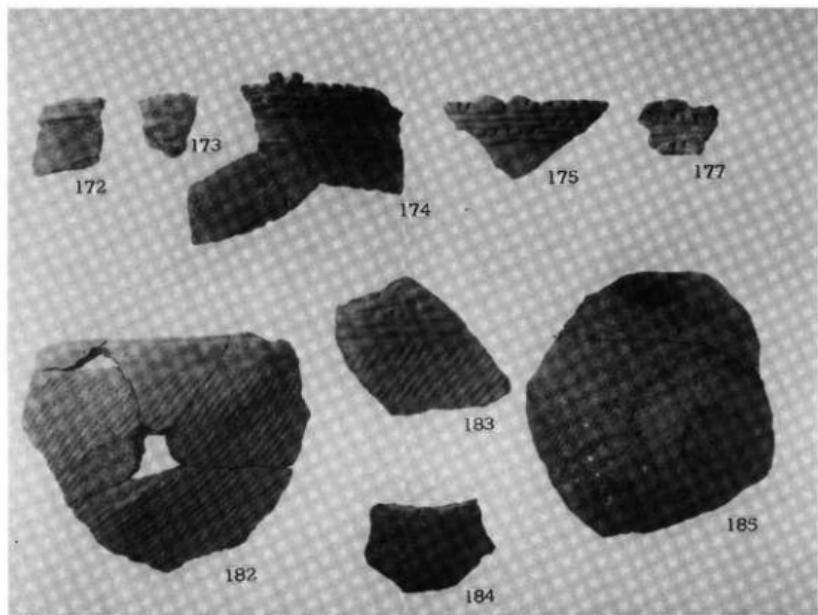


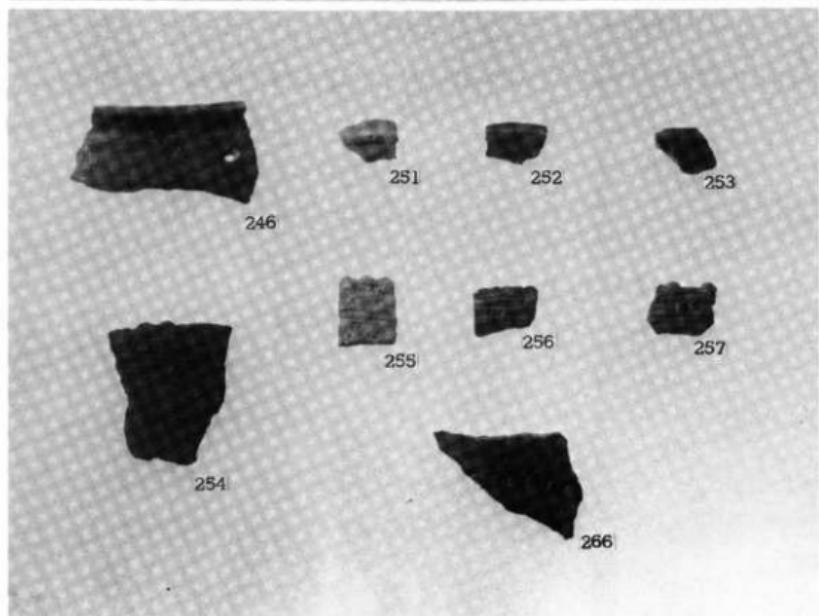
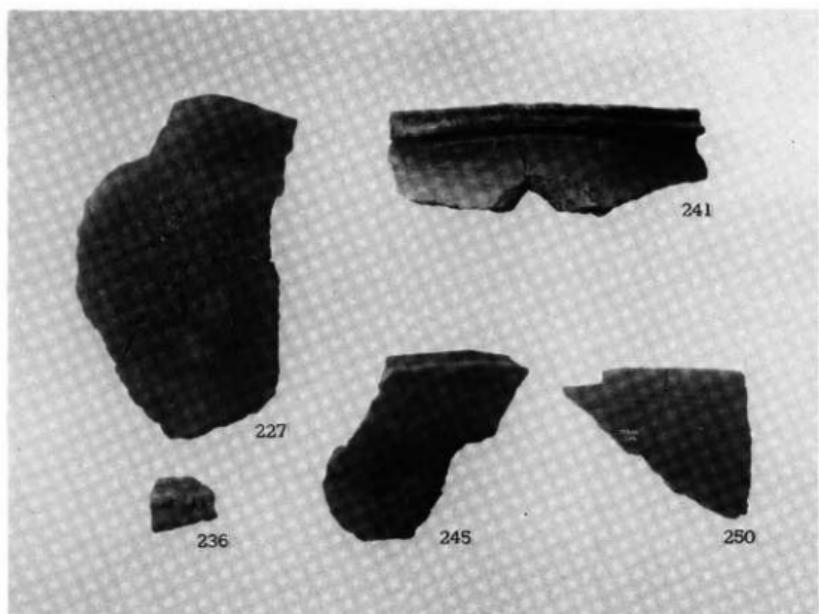
156

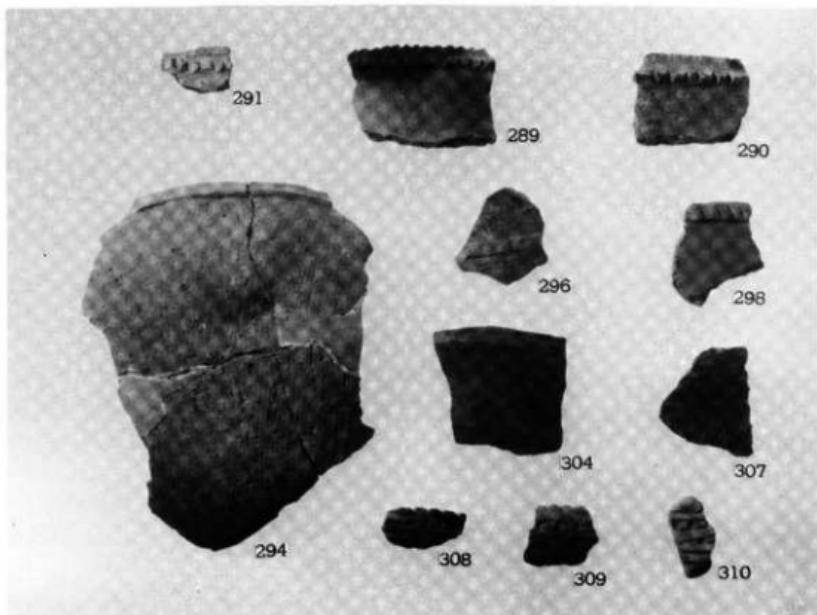
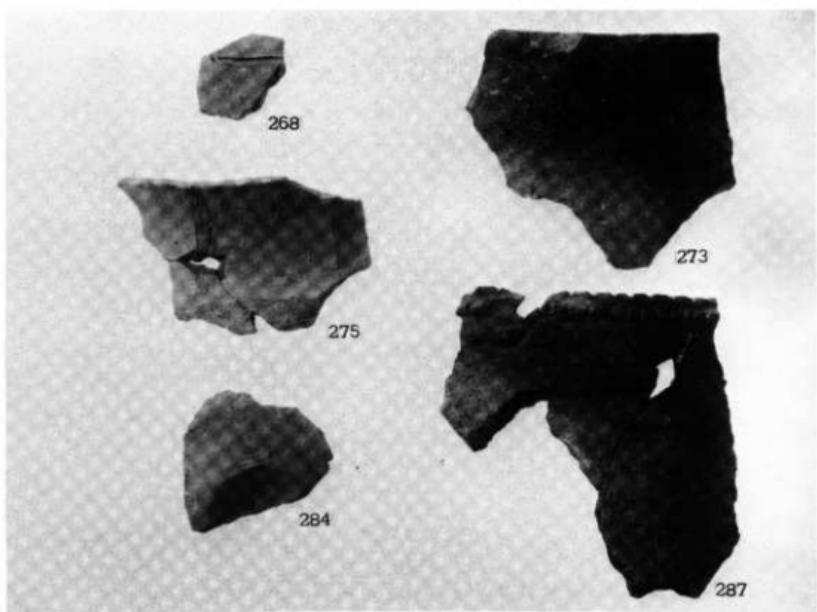


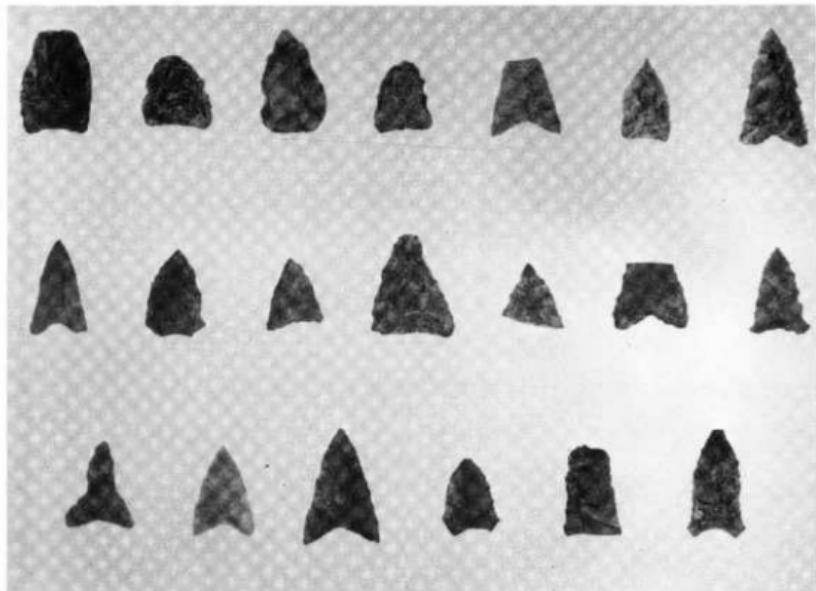
170



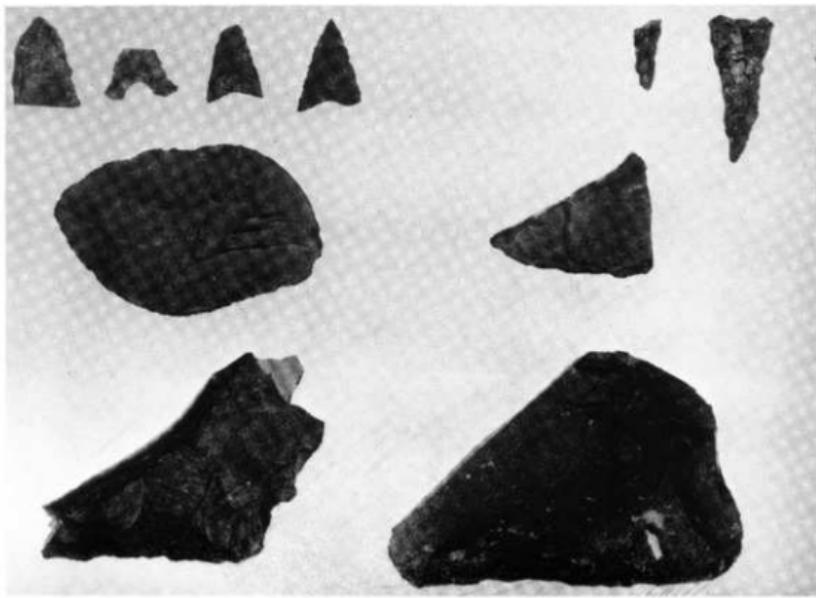




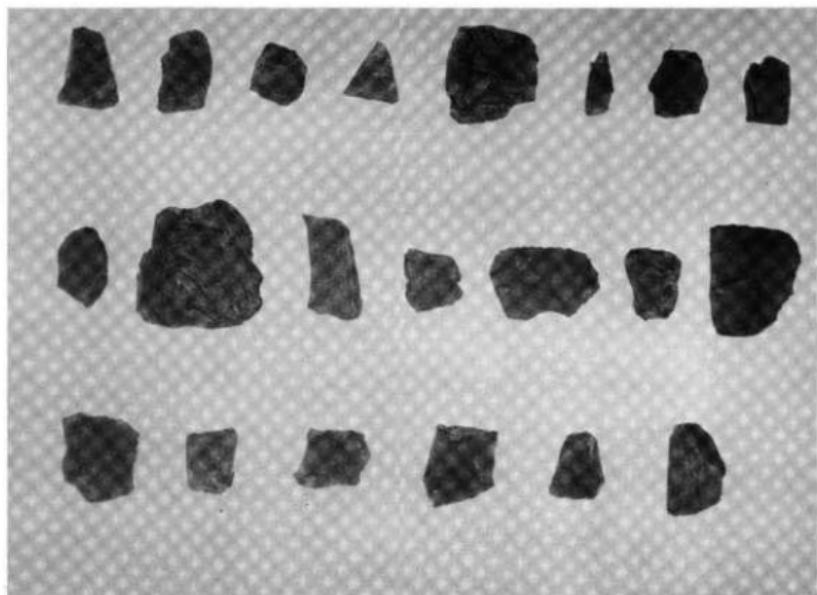




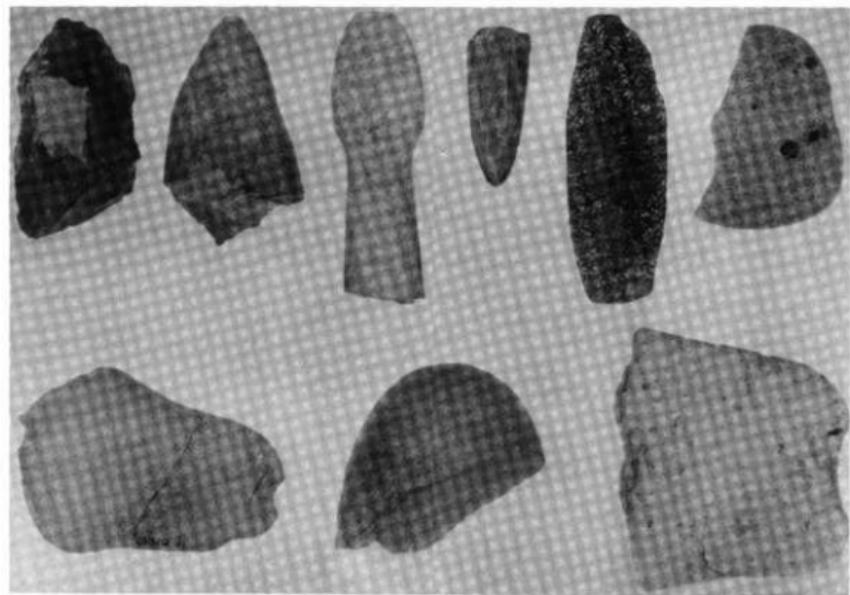
第6層 出土石器



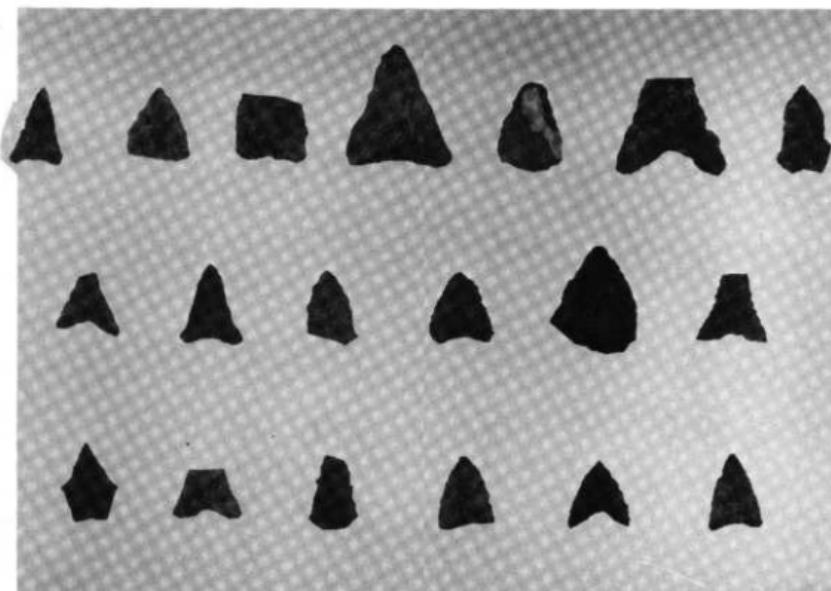
第6層 出土石器



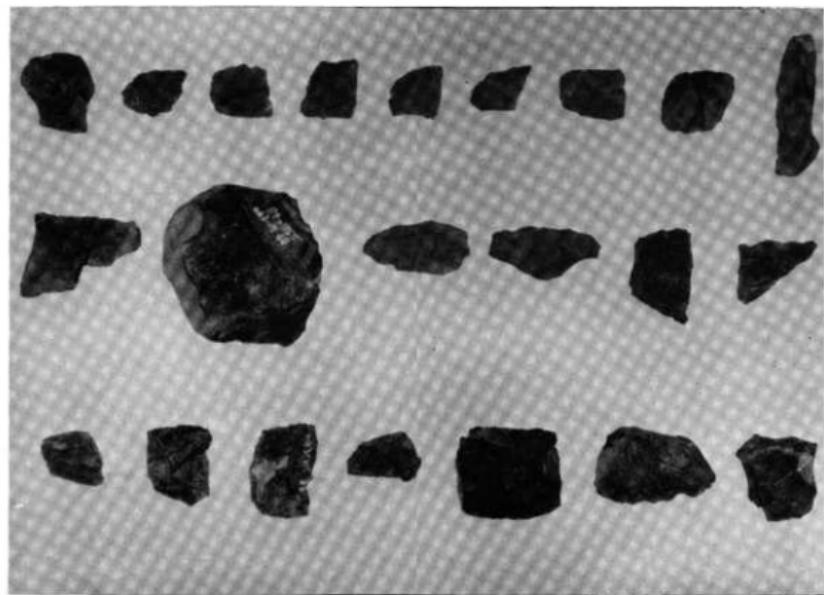
第6層 出土石器



第6層 出土石器



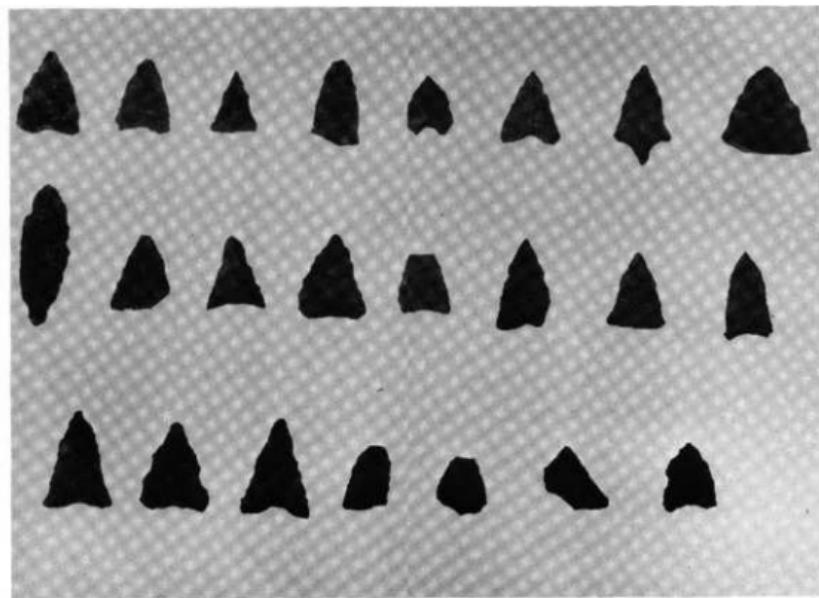
第5層 出土石器



第5層 出土石器



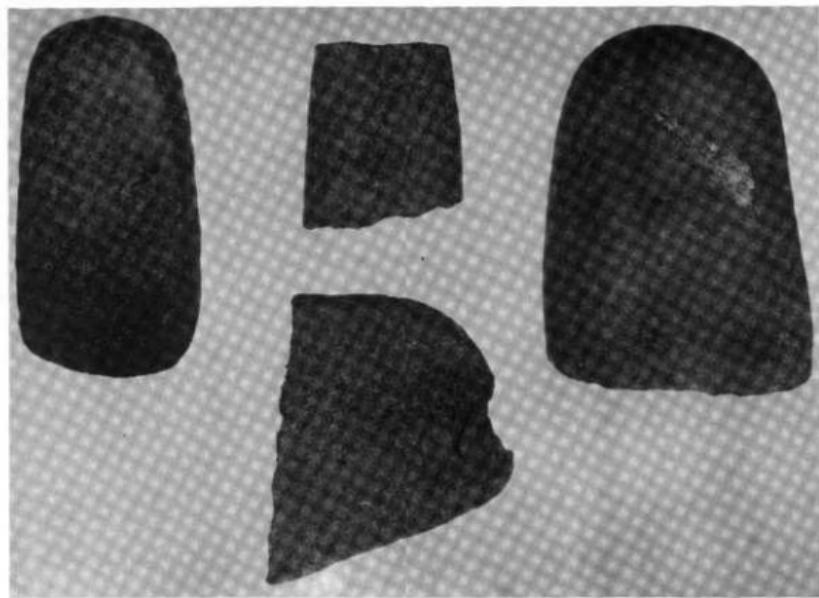
第5層 出土石器



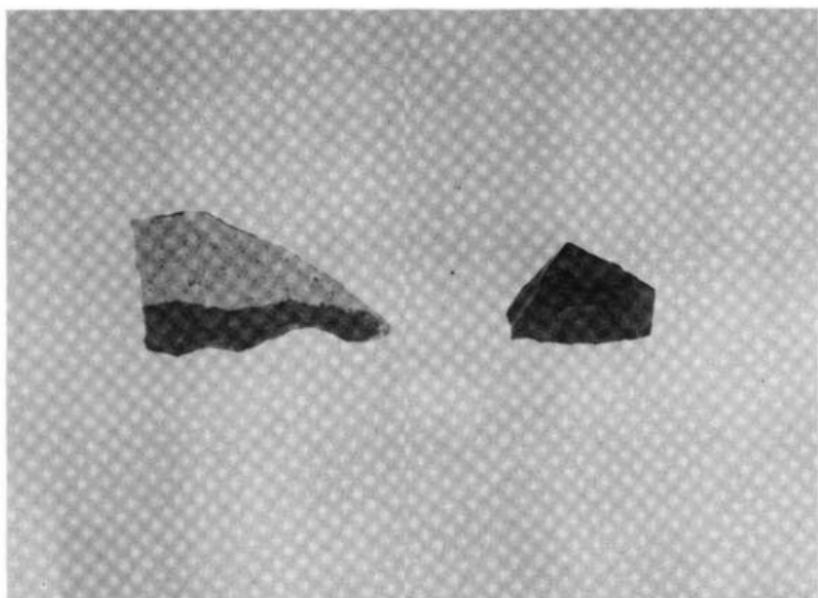
第4層 出土石器



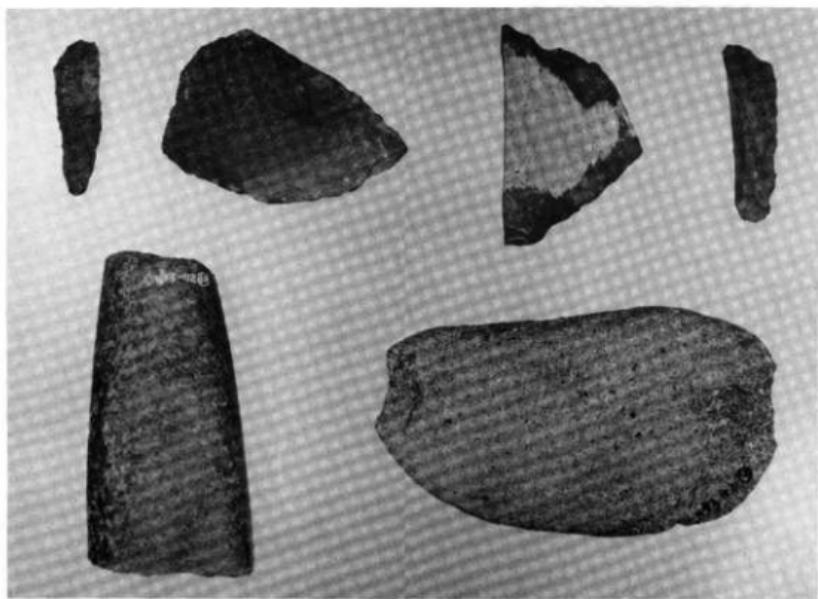
第4層 出土石器



第4層 出土石器



SO 1 · SP 7 出土石器



第2層 出土石器

